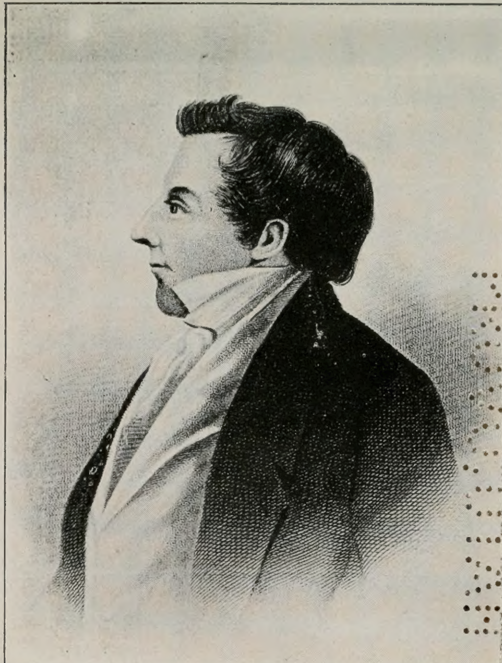


教會創立者なる預言者　ジョセフ、スミス



大祝福師　ハイラム、スミス

長老エドワード、エチ、アンデルソン原作
長老ジョン、ダブルユ、ストケル翻譯

末日聖徒耶穌基督教會略史

末日聖徒耶穌基督教會日本傳道部

序文

世界到る所の人々が苟も偏頗なる心を懐くことなく、唯事實のみを知らんとする希望を以て末日聖徒耶穌基督教會の歴史を讀まば該歴史は稀に讀書する人にも非常に面白いばかりでなく其の教會の主張するところは誠實であるといふ最も有力なる證明の一つとなると信じます、加之日本に於ける聖徒と求道者には該教會の歴史を知るは最も必要なることであると感じて此の「教會略史」の翻譯に着手したのであります。

我が日本傳道部の役員は此の書の翻譯をする爲め長老ジョン、ダブルユ、ストケルを選びました、彼は此の事業を成就せんとて忠實に且善く働きましたが、其の他に傳道部に就て爲ねばならぬ多くの義務がありましたので、專ら翻譯のみに身を委ねることが出來ませなんだ、去りながら神の恩惠に因りて漸く此の翻譯が成就しました、而して四五人の才能ある日本人に之が批評と校閲とを懇請した處彼等は親切に其の依頼に應じて呉れたのであります。

本書は只我が末日聖徒耶穌基督教會の略史なる故、教會の總てのことの明細に亘らず、唯十九世紀の初より現今に至るまで該教會の起原及び其の進歩發達に關する最も肝要なる事件の大略を正確に記載してあります、本書の英文の著者なる長老ヱドワード、エチ、アンデルソンは完全で確實なる教會歷史及び教會の司等の傳記を精査熟覽して此の略史を編輯したのであります。

本書を翻譯する時に原文にあつた多くの些細なる不必要の事柄、又多くの人名並に地名を省きました、併し又翻譯者及び其の勸告者が、必要にして且趣味あらうと思ふた歷史上の件々を多く加へ、出來得る限り、本書記載の歷史に關係ある多くの繪、又教會が度々此所より彼所へ移つた時の道條を示す二つの地圖を、念を入れて拵へ、之を本書に入れたのであります、原書にはありませんが特に長い附錄を添へて「モルモン」教會が一夫多妻の主義及び實行に對して如何云ふ有樣になつて居るかと云ふこと、又日本傳道部史の大略が書いてあります。

諸君にして一度本書を閲覽せらるゝならば、末日聖徒の大なる信仰及び該聖徒が己が宗

教上の確信の爲め甘じて受けたる無限の艱難辛苦を幾分か了解せられ、且又邪惡の人々が教會を罵詈し讒訴し迫害し絶えず激しく反對したに拘はらず、微弱に見えし此の教會が實に不思議にも著しく進歩發達しましたことを讀みつゝ少からず驚愕せらるゝであらう、又熟讀者はイエス、キリストの福音の教理と儀式とに關することが書いてあることも知りませう、イエス、キリストの福音とは我等の永遠なる天父即ち天地の造主なる神が人類に救を與へんとて設け給ふた道に過ぎません。

該教會の眞の名は末日聖徒耶穌基督教會である、末日聖徒といふ言葉は現在の聖徒と昔日キリスト及び其の使徒の時代の聖徒との關係を示さんとて用ゐたる言葉であります、併し屡々教會は「モルモン」教會、信者即ち聖徒は「モルモン」教徒、而して教や組織は「モルモン」教といはれるのであります、其の理由は左の如くであります、本書に記載せる如くモルモン經といふ聖なる書物がジョセフ、スミスに依りて世界の人々に授けられました、末日聖徒は此の經典を神語と信じます、而して此の經典は教會の一つの標準典籍である、(信仰箇條第八條を見よ)是に依りて教會の敵は、故に此の教會の眞の名を用ゆることを避

けて、嘲哢の意味を以て「モルモン」教會といふ綽名を付けました、而して此の綽名が弘まつたので該教會は「モルモン」教會として全世界に知られて居るのであります、「モルモン」といふ名には別に間然するところがありません、如何となれば昔日亞米利加にモルモンといふ信心深き神の僕がありました、此の人はモルモン經の原書を編輯したる預言者である、又「モルモン」といふ言葉の意味はと尋ぬれば「更に餘計の善」（"More good"）といふのである、實に「モルモン」教は總ての善を代表してをるのでございます。

今本書を江湖に獻ずるに當り仰ぎ願くは、聖靈此の書と共に在り、此の歴史を讀み之を研究する人々が、末日聖徒耶穌基督教會は神の恢復し給ふたものであると深く信ずるに至り、且、イエス、キリストの福音は神聖なる眞理であるとの證據を得られんことを。

明治四十年八月十二日

末日聖徒耶穌基督教會　日本傳道部

目次

第一編

預言者ジョセフ、スミスの誕生より教會の創立まで（自一千八百五年至一千八百三十年）

第二編

教會の創立よりカートランド逃走までの事件（自一千八百三十年 至一千八百三十八年）

第三編

ミスウリ州退去より預言者スミスの殉教まで（自一千八百三十八年 至一千八百四十四年）

第四編

大管長ブリガム、ヤング教會を司ること（自一千八百四十四年 至一千八百七十七年）

第五編

大管長ヤングの逝去より現在までの事件（自一千八百七十七年　至一千九百六年）

附録

挿畫目次

地圖目次

末日聖徒耶穌基督教會の信仰箇條

第一條　我等は無始無終の天父なる神と其御子イエス、キリストと聖靈とを信ず。

第二條　我等は信ず人々は自己の罪の爲に罰せらるべし、アダムの愆の爲に罰せらるゝに非ず。

第三條　我等は信ず萬人は福音の律法と儀式とを守らばキリストの代贖罪に由りて救はれ得べし。

第四條　我等は信ず福音の原則と重なる儀式は次の如し、曰く第一は主イエス、キリストを信ずる事、第二は悔改、第三は罪を赦すための浸禮、第四は聖靈を與ふるための按手禮。

第五條　我等は信ず人は福音を宣べ且其儀式を執行せんには、預言と有權者の按手とに由りて神に召されずんば有るべからず。

第六條　我等は古代の教會に存在せし組織と同じき組織を正當なるものと信ず、即ち使徒、預言者、牧師、教師、祝福師等の存置是なり。

第七條　我等は方言（外語）を語るの力、預言、天啓、異象、病を癒すの力、方言を解くの力等の實在を信ず。

第八條　我等は聖書を、其正く飜譯せられたる限りは、神語なりと信ず、又モルモン經を

も神語なりと信ず。

第九條　我等は神の凡て既に啓示し給ひし事、及び凡て今啓示し給ふ事を信ず、又神は此後も尚神の御國に關する衆多の重大なる件々を啓示し給ふべしと信ず。

第十條　我等は信ずイスラエル人は眞に天下諸國より集合すべく、十支族は恢復すべし、ザイオン(シオン)は本大陸(亞米利加)に建設せらるべく、キリストは遂に親ら地上に君臨すべく、地は更新して其樂園の光榮を受くべし。

第十一條　我等は我良心の命ずる所に循ひて萬能なる神を禮拜するの特權あることを主張す、又如何様にまれ、何處にまれ、其善とするものを禮拜するとも我等と同じき特權を萬人にも許す。

第十二條　我等は帝王、大統領、治者及び有司に服從し、且國法を遵奉し尊敬し支持するの正當なるを信ず。

第十三條　我等は正直、信實、貞潔、慈善、厚德なるべく、萬人に善を行ふべきを信ず、寔に我等はパウロの訓誨に則ると謂ふを得べし、曰く我等は凡ての事を信じ、凡ての事を望む也、我等は既に衆多の事を忍べり、又凡ての事を忍び得んことを望む、若し德高き事、愛すべき事、令聞ある事、若くは稱讚すべき事あらば、我等は乃ち之を尋ね求む。

ジョセフ、スミス述

第三大管長ジヨン、テイラー



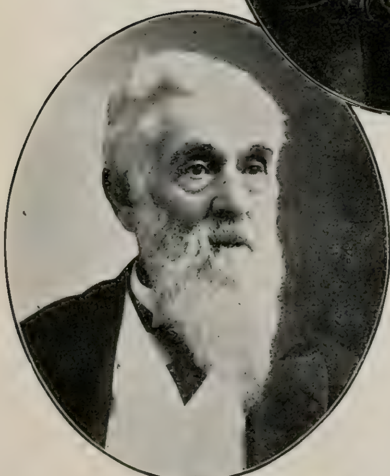
第四大管長ウヰルフオルド、ウツドラフ



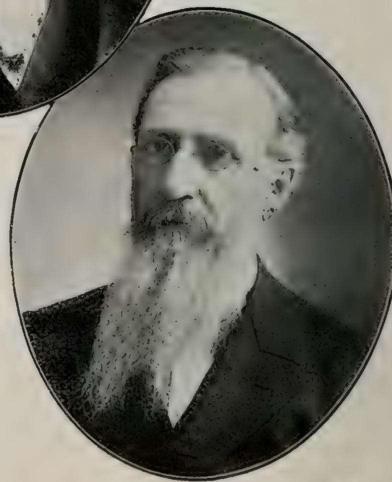


第二大管長

ブリガム、ヤング



第五大管長ロレンゾ、スノー

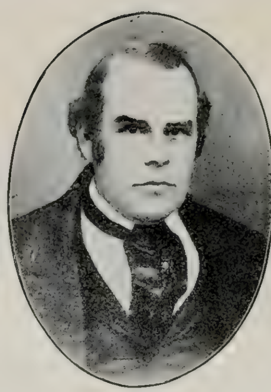


第六大管長ジヨセフ、エフ、スミス

敎會大管長



總監督
エドワード、パートリッヂ



使徒
パーリー、ピー、プラット



使徒
オルソン、プラット



副管長
ヒベル、シー、キンバル



使徒
シー、シー、リッチ



使徒
イラステス、スノー



副管長
ダニエル、エチ、ウエルス



使徒
フランクリン・デー・リチヤードス



副管長
ジヨルヂ、キユ、カノン

功績あるモルモン教徒の男子



クレーラ、デー、ヤング　ハリエット、ダブル、ヤング　エレン、エス、キンバル



ジヨセフ.スミスの母ルーシ・スミス



イライザ、アール、スノー



ザイナ、デー、ヤング



エルマイナ、エス、テイラー



エマライン、ピー、ウエルス



バスシーバ、ダブルユ、スミス

重立ちたるモルモン教の婦女

末日聖徒耶穌基督教會略史

第一編

預言者ジョセフ、スミスの誕生より教會の創立まで

（自一千八百五年至一千八百三十年）

第一章　「奇くて最怪さ事」

ルーテルが羅馬法王レオ第十世の淫縱なる朝廷を見捨てたる後宗教自由の時代と共に懷疑と僞善の時代が到來しました、宗教改革者が建てたる神學上の改革の爲に法王の專橫なる權力が打碎かれしのみならず又種々の主張や四方に宗教の先導者が起つて世の中は誠に人の詭譎の術と誘惑の巧に蕩漾され、各樣の教の風に搖動されたる嬰兒となりました。（以

弗所書四章十四節を見よ）

是の時に當つて基督教會全教の長と認むべき者はありませんでした、キリストの使徒の殉教又は死去以來神が認め給ふた權威ある人が此の世になかつた事は、眞實である、總ての人は眞の福音を蹂躙してキリストが認めて委任し給ふた使徒や預言者や又祝福師、牧師、教師は最早ありませなんだ、基督教信徒の司教は基督教の純正なる儀式を捨て、只管味方を求むる爲に猶太人及び異教徒の禮典や式法や奥義を教へ初めました、數百年の間凡ての基督教信者（度々壓制されて）法王を神の次官として其の權威を認めましたが、併し宗教改革の勢力は人々を押へる此の力を打破しました、ルーテルやツイングリやカルヴインやクラヌマが起つた後宗教界は四分五裂して自ら先達と稱する者が何百人となく現れ出でました、彼等は「此の尊貴（位地）はアロンの如く神の召を受たる者に非れば自ら之を取者なし」（希伯來書五章四節）と云ふ教を輕じ自ら進んで己を基督教會の役人としました、かくて宗教改革は遂に法王をして其の位を讓らしめ、良心の自由斷定なる貴むべき權利を人々に與へましたが、新教も亦極端に走りて彼等が打碎きたる舊教の覆轍を踏んで宗教上の權威を

犯すに至りました、如何となれば神の御名によりて儀式を行ふたり福音を宣傳へたりするの權威が人に與へらるゝ方法は唯二つのみ知られてある、其の一つは神よりの啓示、他の一つは天使が人に顯れることである、而して誰か一人でも此の方法によつて直接に神より權威を受けたと云ふことは記錄にもなく又受けたと主張した人もありませなんだからです。

*ロツジヤー、ウヰリアムスと云ふ人は合衆國の最大なる浸禮教會*の牧師を辭しました、其の理由は「世に正當なる組織ある教會なく又教會の何れの儀式とても之を執行することを委任されたる人がありません、のみならず、教會の大主キリストが新しき使徒を遣し給ふ時まで斯るものはあり得可からざるもので我は彼等使徒の來るを待てり」と云ふにあるのでした。

此の權威を輕ずることから弊害が續々起つてきました、其の重なるものは僞善或は眞心の禮拜でなく唯表面ばかりの禮拜式を行ふことです、改革の時より十九世紀の初まで殆んど三百年間人々の有樣は斯の如きものでありました。

昔日の預言者イザヤは今申した時代を見拔いて世の中の有樣を斯く曰ふたのである「主いひたまはく、この民は口をもて我にちかづき口唇をもてわれを敬へどもその心はわれに遠かれり、そのわれを畏みおそるゝは人の誡命によりてをしへられしのみ、この故にわれ

この民のなかにて再びくすしき事をおこなはん、そのわざは奇しくしていとあやし、かれらの中なる智者のちゑはうせ、聰明者のさときはかくれん」と(以賽亞書廿九章十三、十四節)天主が行はんとし給ふところの「奇くて最怪き事」は即ち再び己の權威を人に授け給ふこと、己の權威を有する教會を世界に建設し給ふことでありましたが、此は又昔日預言者ダニエルと啓示者ヨハネの預言せしことであります。

ダニエルはネブカデネザルの夢を解明して曰く「王よ汝牀にいりし時將來の事の如何を想ひまはしたまひしが秘密を顯す者將來の事の如何を汝にしめしたまへり、中略、この王等の日に天の神一の國を建たまはん、是は何時までも滅ぶること無らん、此國は他の民に歸せず却てこの諸の國を打破りてこれを滅せん、是は立て永遠にいたらん」と、(但以理書二章廿九、四十四節)

ヨハネは曰く「我また一人の天使の穹蒼の中央を飛を見たり、彼地にすむ者即ち諸國、諸族、諸音、諸民に宣傳へん爲に永遠ある所の福音を携へ大なる聲にて曰けるは神を畏れ榮を之に歸せよ、蓋神の審判し給ふとき既に至ればなり、天地海及び水の源を造り給ひ

し者を拜せよ」と（約翰默示錄十四章六、七節）
啓示者ヨハネの言は福音を如何にして恢復せしやを説明して居ます、古代神の採用し給ひし方法即ち聖書に記載してある通り天使の顯れたることと啓示とによつて此の福音は恢復せらるべきものであります。

此の方法ならでは如何にしてエホバ（神）は御旨を人々に現し給ひませうか、キリストの使徒の時世の如く今日にても神の家即ち教會は「使徒と預言者の基の上に建てられ、イエス、キリスト自ら其隅の首石」（以弗所書二章二十節）となり而して其の役人は智慧と啓示とを與へる聖靈に滿たされてあるべきであります。

神は區々不定なる説のある内に己が存在及び人格を示し以て爭より平穩を建て、紛亂より目的の一致と和合を建て給ふわけのものであつたのである、其は昔日の如く「主一信仰一バプテスマ一、神すなはち萬人の父一なり」（以弗所書四章五、六節）と云ふ教を世人に悟らしめる爲であります。

十九世紀の初に此の「奇き事」は行ひ初められました、其の時に神は御親ら顯れ、又天使

を遣して親らは如何なる性格を有するかを預言者ジョセフ、スミスに啓示し給ひました、而して最後の福音時代を始める事業をスミスに委任し給ひました、言ひ換へれば神は末日に於ける御自身の眞の教會を彼に創立させ組織させ給ひました。*

※最後の福音時代と云ふのは神が新に福音を其の純粋なる儘に示し給ひ、之を宣べ、其の儀式を執行する權能と又御教會を完全に起すべき神權とを人に與へ給ふので、未だ實現に成らざる凡ての預言を成らしめ、未だ成功せざる一切の御事業を成就させ、此の世界に關する御旨を果し、又キリストの再降臨と大なる審判日との用意を人々にさせ給ふ時代であります。

モルモン經典と云ふ不思議なる記録は斯の預言者に依て世に出されたもので、此に我等の愛する救主イエス、キリストに教へられたる福音は其完全なる儘に記載してあります、此の本は三十度も版を重ね、何千卷となく英語を話す國々に廣く愛讀され、十四五箇の外國語に飜譯されて其の一箇國の語だけでも幾千人と云ふ程此の貴き眞理を讀みました。

一千八百三十年四月六日に合衆國紐育州セネカ郡フェエット町で末日聖徒耶穌基督教會は創立されました、啓示と云ふ基の上に建てられました、であるから昔日キリストの使徒等の如く其の役人は神より權威を受けて役目を務めて福音の賜と力とを享有して居りま

す。
該教會の使命は平和で其の目的はキリストの再降臨や千年の平和の時代を開く爲め人々に用意をさせて萬民は皆悉く兄弟であることを世人に了解せしむることであります、されども讀者諸君の中には或は疑つて「併し我々は其の説を信じない、空なる幻の樣で解らないことだ、是が古代の預言者が見透いて預言したところの「奇き事」であるものか」と言ふ人もあらうが是が即ち末日聖徒（過てる世人の所謂「モルモン」教徒、序文を見よ）の主張であると云はねばならぬところであります、遮莫彼等の過去七十六年間の歴史は此の事實を多少證明するに足るべく彼等の教義も亦自ら明白となるのであります。

それで此の不思議なる民の行つた事業が記載してある記錄を調べたならば、聖徒が之を主張する理由は、確にあると云ふことを誰も拒むものはありますまい。

一千八百三十年に教會には唯僅か四十人の會員があつたけれども今日の數は幾萬人に殖えました、初に教會の教を言ひ弘める人は唯預言者ジョセフ、スミスばかりであつたが今は凡て全世界の宗教上の自由國に宣教師が行つてをります、教會は最も烈しき迫害を使

して發達しました、會員等は放逐せられ、惱まされ、四方に散らされ、又仲間の預言者と祝福師が敎の爲め無法にも虐殺されました、併し聖徒は迫害を受ける度毎に勇氣百倍し、前よりも力と信仰とを勵まして敎會の事業を進行せしめました、殉敎者は幾十人となく勇しき男女は幾千人となくありました、聖徒がイリノイ州の住家より追出されてロッキー山までの世に稀なる退去中神は彼等を不思議に惠み助け給ひました、西方の沙漠に於て我が合衆國の最も盛大で節約で樂しき共和團體を建設するに就ては神は大なる恩惠を授け給ひました、諸國の貧者は幾萬人となく集められて、此の末日のシオンを強く且美しくしたので、次の預言を事實に仕遂げました、曰く「おほくの民ゆきて相語いはん、率われらエホバの山にのぼりヤコブの神の家にゆかん、神われらにその道ををしへ給はん、われらその路をあゆむべしと、そは法律はシオンよりいでヱホバ(神)の言はヱルサレムより出べければなり」と、又曰く「荒野とうるほひなき地とはたのしみ沙漠はよろこびて番紅の花のごとくに咲かゝやかん」と、(以賽亞書二章三節同上三十五章一節)

此の潤なき沙漠に神殿、學校、禮拜堂、市及び村が出來、又此の珍しき民の繁盛と精

勵の結果としては彼等の立派なる家と庭と畑と家畜の群などが米國の大西方の荃地を掩ふて居ります、彼等が金も給料もなしに宣べ傳へてをる宗教上の眞理は會員の中のみならず凡て基督教の入つてゐる國に根が付き實を結んで居ります、聖徒は無益で外面的禮式を捨て眞心から禮拜し貴き行爲を以て有力なる信仰を現してをるのであります、近世の年代記に彼等の教會の組織に勝るゝものがない、又其の政治は無上である、末日聖徒は神を禮拜し又生者及び死者の爲に儀式を執行せんが爲め神殿を建設いたします、それ故に當時迫害を受けつゝ通行したる道筋にも又現今安穩に住めるユータにも此の聖なる建物が點々散在して居るのであります、彼等は末日に建てらるべしと云ふ不思議なる民のことを現しつゝあります、何故なれば彼等の事業は實に「奇くて最怪き事」であるからであります。

第二章

ジヨセフ、スミス誕生、宗教上の軋轢、神と其の子イエス、キリスト　ジヨセフ、スミスに顯れ給ふ、天使の降臨

「モルモン」教(序文を見よ)の預言者ジヨセフ、スミス即ち末日聖徒耶穌基督教會の創立者

は一千八百五年十二月廿三日合衆國ヴァーモント州ウキンゾル郡シャロン町に生れました、此の子が十歳になつた時に其の父ジョセフ、スミスと母ルーシとはヴァーモント州を去つて紐育州オンタリヲ郡(今のウエイン郡)パルマイラ町へ移りましたが、其の後四年を經て家族は同郡マンチェスタ町へ移りました、父のスミスは正直なる農夫で質素なる生活をして居りました、信用したる友人に欺されて財産の過半を失つたので、生計が不如意になりました、此人には男の子七人、女の子三人あつて、預言者スミスは四番目の子でありました。

其時に紐育州の西方は大低新しき國でオハイオ州及びイリノイ州は未だ野原であつた、而して當時合衆國の境なりしミスウリ州の向は野蠻なる亞米利加土人の住居する土地で、白人の未だ能く探檢しない所でありました。

紐育州の西方に住んで居つた人々は貧しく、衣服や生活が質素にして、大低宗教を重じて信心深く、聖書を讀んで會堂へ行きました、而して宗教を除いては重に合衆國の大西方の最初の開拓者の如く暮して居りました、(此の名の聞えたる開拓者は既に死亡りつゝあります)、今より七十年前に於ける相反せる諸宗派が狂氣の如き軋轢と其の大道演說は、大

に人心を攪亂しましたが其の時以來穩健なる宗教的意見の宣傳により其の騷亂は大に鎭まりました、スミス家がマンチェスタ町へ移つてから二年の後其の地方で宗教上の大なる軋轢があつた故に大勢の人々は色々の宗派に屬しました、而して他に改心する人々がない樣になつても牧師と改心者とは相互に原則や定説を論じ爭ひまして終に非常なる混亂と恨が起りました。

スミス家の者は分れて色々異つた宗派に屬しました、子のショセフはメソヂスト教派の方へ傾いて居つたけれども當時諸教會の不和合なりし爲に何れの教會に入るが善いかと思ふて心配いたしました、故に「神より心を諭す音信の來るのを待つて」何れの教會にも屬しませなんだ、此の軋轢の最中に度々獨語を言ふには「如何したらよからうか、此の宗派は何れが正確であるか、或は又皆間違つてゐるか、若し其の内に正しきものあらば何れなるか、又己は如何にして之を理解し得るか」と。

斯云ふ有樣で或る日彼は聖書の雅各書第一章五節を讀みました、曰く「爾曹の中もし智慧足ざる者あらば夫の咎ることなく惜ことなくして衆人に予る神に求めよ、然らば予ら

れん」と、是は實に新しき感動である、己の有樣に就て斯云ふ樣に考へたことは、遂に無かつた、故に、青年は慥に宗教の父なる神は眞理を授け給ふべしと思ふて、其の信實なる源に求めんと心を極めました、其で一千八百二十年の春麗なる朝に神に祈らんとて林間の空地へ入りました、他に人の居らざるを視、跪いて始めて聲高らかに心の願を己の造主なる神に捧げました、すると不思議にも闇音は己を掩ひて口きくことが出來ずなりました、遂に即死せんかと心配しました、此の力は見えない恐しき惡魔であつて彼は之に扼られる樣な氣がしました、扨心を込め默禱を以て救を願ひましたが最早殆んど助るまいと思つた時彼は光明の柱が天より降つて己に近づくかと見る間に彼を困めた敵は闇黑と共に離れ去つて、光は地に平伏せし少年を照しました、すると彼は言ふに言はれぬ光輝く人の姿したる二人が空中に於て彼の上に立てるを見ました、其の一人の天父なる神は青年の名を呼んで他の一人を指して「此は我が愛子なり彼に聽け」と言ひ給ひました。

青年は氣を取り直して己の撰擇の目的を思ひ出して諸々の宗派の內に何れが正確なりやと尋ねました所、榮光ある其の一人は答へて何れも正確にあらず、何れにも入會すべから

ずと告げ知らせ給ひました、又其の榮光ある一人の言ひ給ふには「彼等口唇にて我にちかづけども其の心は我に遠かれり、人の誡命を敎となして敬虔の貌あれど實は敬虔の德を棄つ」と、スミスは眞の敎會は世界になしなどと考へたことは未だ嘗てなかつた、故に此のことを聞いて大に驚きました、其の二人の御方は人の設けた宗派何れにも賛成すべからずと云ふ命令を繰返して言ふて天に登り給ひて光は消え失せました、而して青年が己に還つた時に自分は仰向に寢て天を見て居つたのです。

スミスは見、且聞いた不思議なることを人々に繰返して言ひました、すると、四方の人人は大に驚きました、未だ名も知れぬ青年なるスミスが天父なる神は人格を有すると告げ、或は自分は神と其の子イエス、キリストに謁見して其の榮光ある御聲を聽聞したと言ふた爲め彼は人々に神を瀆す人と言はれました、彼の父母や兄弟は其を信じたが神學者は信じませんでした、或る牧師に秘密として此のことを言ひましたが其は惡鬼の誘だと牧師は露出しに言ひました、又今日では異象及び啓示などの如きものはない、キリストの使徒が死んで以來斯の如き異象や啓示は止んだのみならず今後も斷じてあり得べからざるもの

だと言ひました、併しながら青年は己が信仰を堅く取て動かなかつた、其の結果として彼は夢想者、横着者、或は僞善者等の汚名を着せられました、彼を殺さんと圖る者も又樣々の迫害や恥辱を加へた者もあつたけれどもやはり彼は斯言ひました「私は異象を見た、其には一點の疑をも起すことが出來ぬ、猶又此のことは神が親しく知り給ふところである、其故に私は堅く取つて動くことは出來ぬ、然り私は敢て動くものでもない、兎に角私が動かば神の御心に逆ひ罰を受けることは確である」と、斯く己の證據を堅く守つて變ることなく三年間續いて苦勞や貧乏や輕蔑や恥辱を忍びました、而も彼が懺悔した如く舊友より絶交されたが爲に遂には不良の仲間に迄交際を求むるに至つた程の氣輕な而して情に脆き性質で是が爲には彼は度々輕卒なる過失に陷り己の薄弱なることの爲に大に煩悶することがありました。

彼は己の凡ての罪と薄弱との赦宥を受けん爲め且又己は神の目に如何に見ゆるかを知らん爲め天主に求めざるを得なかつた、一千八百二十三年九月三十一日の晩願大事と熱心に祈りましたが斯く祈る間に夜の暗黑が明離れて光輝き遂に部屋は晝よりも明るくなりま

した、光の中央に寢臺の傍に眩き人が立ち顯れて居りました、其の人の顔貌は愛らしく閃々光る雷光よりも猶輝いて居りました、彼は青年の名を呼んで己は神よりの天使なるモロナイと名乘りました、彼は天主の御言なりとてスミスのなすべき働があると言ふた、即ち神の權威と御國は此の世に彼に依て恢復せられ、又諸國に於て彼の名は善くも惡くも言はれると云ふことを告げました。

天使はモルモン經典の記錄を含む金版及び神が其を飜譯する爲に備へ給ふたウリムとトンミムを匿して置いた小山を異象にてスミスに示し又聖書より色々の預言を引き聞かせました、其は福音及び神權（三十三頁を見よ）を恢復することや救主イエス、キリストの末日の國（敎會）を建設することや、千年の平和の時代を開くことに關するのでありました、又馬拉基書第三章の或る部分及び第四章、以賽亞書第十一章、使徒行傳第三章二十二節及び二十三節、約耳書第二章最後の五節に關しては是等のことは正に實現せらるべしと告げました、やがて神は異邦人を特別には惠むことを止め給ふ時到來せんと言ひ、且此の青年を諫めるにはモルモン經典の金版を得たならば神の御命令なしに其を他人に示してはなら

ぬ、若し見せたならば彼は亡されると告げて又天使は去つて其の周圍の外は部屋が暗くなりて天に至るまで管の如き道を登りて見えなくなりました。

――スミスは餘念なく此の光景を考へて現れたものを不思議に思ひながら甚く感に打たれました、猶思ひ廻してゐた時に天使は燦爛たる榮光の内に復立ち顯れて耳を傾くる青年に其の嚴なる音信を繰返しました、前に言ふたことを一語々々に述べて又大なる罰と荒廢と飢饉と劍と疫病とが此の世に來らんと言ひまして、再びモロナイは登つたがやがて三度目に歸つて來て前に言ふたことを皆繰返して言ひました、又續て戒むるに彼の貧しきが故に利慾心によりて金版を私用せんとて之を求めやうと欲する念を抑へねばならぬと言ひました、遂に夜明の光が現れる時に天使は登りて見えずなりました。

――スミスは斯の如く天使と共に淸き交際をして夜を明しました、何時も起きる時間に床を離れて畑に行きて其の日の働に取掛りましたけれども働くことが善く出來ません故に父は家に歸つて休むべく勸めました、家に歸る途中で力衰へて垣を越える時に力無げに倒れました、然るに或る一つの聲ありて靜かに彼の名を呼んで起しました、仰ぎ見れば前夜

の天使が其時彼の側に居りました、天使は四度目に其の天の音信を此の將來預言者たるべき人に述べ終に天使を見たことや誡を受けたることや神が行はんとし給ふ事業に關して知つたことを己の父に語れと命ぜられました、スミスは其の通に畑に立つて其の凡てのことを父に言ひ述べたとのろ父スミスは「我が子よ之は神のことである、熱心に神の御心に適ふ樣に行へ」と言ひました。

第三章　聖山クモラと其の寶、スミスモルモン經典原書の金版を受く

パルマイラからマンチェスタに行く道にパルマイラより三四哩位離れてクモラと云ふ小山があります、（紐育州ロッチェスタ市の西南に二十五哩）其の北の端は平地より急に高きこと凡そ百五十尺、其の邊に多くある小山の内で最も高く、其の地方では「モルモン山」と云はれるのであります。

前章に記載したる出來事のあつた朝スミスは父の承諾を得て祝福を宣授されて後此の小

山に行きました、是は昔日のニーファイ人にクモラと名づけられ、ジエレド人にラマと名づけられた所である、異象を見た爲に直に其の所が解りました、スミスが述ぶる所によれば「小山の西方で頂上より遠からぬ所の大きな石の下に金版が石箱の中に保存されてありました、此の石は表の眞中が厚くて凸で端の方は薄くなつて居りましたから、眞中は見えて端は土に隱れてありました」と、彼は木挺を搜して此の石を持ち上げて中を見た所が天使が告ぐる如く如何にも金版とウリムとトンミム及び胸牌がありました、又スミスが言ふには「此の寶の入つてゐる箱は石を一種のセメントで付けて拵へた物で箱の底に二つの石が横に並んで金版と他の物品が其の上にありました」と。

又スミスが手を延べて中の物を取らうとしますと既に顯れたる天使モロナイは直ちに彼を止めて未だ時至らず四年を徑て後此の金版は汝の手に渡さるべきものである、よりて汝は毎年續いて此の日此の聖き所に來れと諭し、而して我(天使)は其の度毎に汝に顯れて末日に於て神の國を管理する方法を敎へる故に汝は此の間苟くも怠らずして忠實に信仰せよとスミスを戒めました、又多くの貴き眞理を青年に知らせました就中モロナイはキリス

トの降誕より四百年の後此の世に居りましたこと、其の間に此の金版を小山に匿したこと、又彼は此の大陸（亞米利加）に住んだ昔の民即ちニーファイ人を教導したる代々の預言者の最後の預言者であつて彼の父はモルモンであること、又モルモンはニーファイ人の預言者で又大將で歴史家で此の金版を書いたと云ふこともありました。

天使は教理と誡命とを宣べ終つて見えずなりました、スミスは大事に箱の蓋をして、其の端を復土に匿し、家に歸りまして、其の事實を述べ、且之を發表する權利をも受けたことを秘密に家族の者に言ひました、彼の家族は其の不思議なる談話を信じて神が天降つて話し給ふたことを知つて悅びました。

スミスは年每に九月二十二日にクモラ山へ行きました、行く度每に同じ天使に逢つて話をして貴き記錄を見て己の智力を高める敎を受けて神が行ひ給はんとする「奇き事」に關する智識を猶一層完全にしました。

彼が十八歲より二十二歲迄の間は品性を陶冶する爲に一生涯の最も大事な時で實に試煉の時でありました、彼は其の間を準備に送りました、斯くて天主は未來に預言者となるべ

き此の人をして永久に地上に續く御親らの教會を創立する責任を負ふ爲に用意をさせ給ひました。

弟達が畑と家の世話が出來る時までスミスは熱心に父の畑で働きたるが二十歳の時遙に離れた所で仕事を捜す爲めペンシルヴェニア州サスクェハナ郡ハーモニ町へ行きました、而して紐育州のジョサヤ、ストールと云ふ人が其の附近に銀の鑛山があると思ふた故に其の地方を堀る爲にスミスを雇ひました、併し鑛山の事業は失敗に終りました、其の雇主より大きに尊敬されたるスミスは其の仕事から手を引く樣に誘めましたので雇主は其の誘に從ひました、斯く雇はれてをる間スミスはアイザク、ヘール氏の家に泊つてゐました、其の家にエンマと云ふ名の娘がありまして、スミスは之を思ひ又思はれて互に仲が好くなりました、一千八百二十七年一月十八日スミスとエンマとは紐育州チェナンゴ郡サウス、ベインブリチ町で裁判官ターピルに結婚式を執行してもらひました、而してスミスは妻を連れてマンチェスタ町に居る父の家へ歸つて己の家族を養ひ使命を果す爲め財産を求めんとて畑の仕事を手傳ひました。

四年間の試煉の終は最早近いてゐました、スミスは神とキリストよりの御信任に深く感じ、其の誡を堅く守つて、聖山へ行けと言ひ付けられた通り一度も違ふことなく其の山へ行きて、天の敎師の誡命を堅く守りました、支度するには己の妻と兄弟等とに眞實に助けられました、彼等も亦スミスの希望を翼賛してスミスが負はせられた攻擊と嘲弄の最中に彼の心を能く慰めました。

漸く約束したる日が到來しました、五度目に靑年は聖なる記錄が隱された所に立つて居りました、時は一千八百二十七年九月二十二日の朝で御座いました、スミスは其の信任に背かないと云ふ熱望を以て箱の蓋を上げ、天使の命令に從つて十四世紀の間安全に隱れたる寶物を箱より取上げて其の立派なることを調べました、*其の時に天使は此の記錄を汚れたる者の手に觸しめず、又目に見せぬ樣にして、己の生命と同樣に神聖に衞るべきことを彼に命じました、其故に彼は己一人で其の責任を負ひました、若し油斷して過つて記錄を毀すか或は失ふならば直ちに嚴罰を受けて遂に亡される。併し若し天使が記錄を受取りに來る時まで其を衞る爲め總ての用心を盡すならば此の記錄は千難を免れて安全なるべく且

彼は天の助により勝を得て悦ぶ樣になるのでありました。

「ウリムとトンミムは半月形の銀に二つの貴重なる寶石が附けてあるものであつた、是は純金で微妙に出來上つて居つたが昔の胸牌に附着して居りました、此の胸牌の片方は凹又片方は凸で當今の並の人よりは大なる體格の人の付ける樣に出來てゐた樣でした、四個の金の紐が付いて二つは肩に附ける爲め他の二つは腰に附ける爲めでありました。」

「金版も金で出來て大きさは皆同じで一枚は普通の錫よりも少し薄くて幅は六寸六分二厘位でありました、三つの輪が總ての金版の片端を通りました、此の如く綴られた本で其の厚さは大凡五寸でありましたが、其の内の三分の一は封じられてゐました、スミスは其の他の金葉を一々開いて見ますると兩面は珍しき文字で一杯でしたが其の文字は小くて美觀に彫つてありました。」

モロナイは見えなくなりましたが、最後の福音時代に於ける最初の預言者は唯一人クモラ山上に立つて金で買はれぬ寶物を胸に抱いて居りまた。

第四章　金版に載せたる記錄の翻譯及び其の發刊

スミスが斯くまで用心深く金版を衞る樣に天使に戒められた必用なる理由は頓て現れて來ました、家へ歸り初めるや否や彼を殺さんとする惡人に攻擊されました、家へ歸る短

き道で三度彼を打つて金版を奪はうとしたる惡漢がありました、スミスは一返捧で打たれましたが、金版は無事で家に到りました、併し己は其の喧嘩の爲に疵を受けて弱くなりました、迫害は止まずして、彼に關する取々の僞の噂は狡猾に弘められ、偏頗なる人々に誤解されました、惡漢は彼を殺さうと思ひ、忍んで待伏し、亂暴者も彼の家を取り捲きました、又彼の生命と金版を奪はんとするスミスの敵は色々の手段を廻らしました、併し折角の手段も常に失敗に終りましたが、彼の敵はスミスの翻譯の事業を妨害することに成功しました、遂に迫害に堪へられぬので、餘儀なくマンチェスタ町から逃れてペンシルヴェニア州の舅の住家へ行くことに定めました。

斯く決心したが猶一つの貧乏と云ふ一大障碍が現れました、けれども丁度マーテン、ハリス氏の補助を得て之も助かりました、マーテン、ハリスは紐育州パルマイラ郡の家計の善き農夫で人に尊ばれて居りました、預言者スミスの困難の最中に補助する默示を蒙つて百圓を與れた人でありました、此の御蔭でスミスはペンシルヴェニア州の行先に達することが出來ました、此の旅行中二回警察官は彼を引留めて贋の捜索狀を以て金版を取る

爲に馬車の中を捜しましたが、矢張成功しませなんだ。

＊ハリス氏はモルモン經典の三人の見證者の一人であります、一千七百八十三年五月十八日に紐育州サラトガ郡イースト、タウン町に生れて、一千八百七十五年七月十日ユータ州カッシ郡クラークストン町で死にました、

一千八百二十七年十二月の初頃、舅アイザク、ヘール氏の住家に到着して懇に迎へられました、到着後直に金版の文字を書き寫して、ウリムとトンミムを用ゐて神の力によつて其の或る部分を翻譯しました、到いた時より其の翌年の二月まで件の翻譯の事業に從事して居りました、同月にマーテン、ハリスと云ふ恩人はスミスの奇異なる使命に就て猶深く知らんが爲に彼を訪問しました、後にハリス氏は金版より寫された文字と、其の翻譯を携へて、紐育市へ行きました、如何となれば或る科學者或は語學者に見せて其の確實なることを確かめてもらふつもりでありました、何故なればハリス氏は此の時猶未だ一點の疑なきまでに信仰はしなかつたからであります。

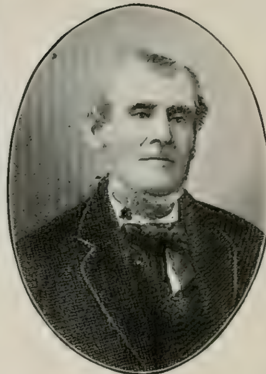
ハリス氏の談話によれば、コランビアー大學校の博士なるチャールス、アントンは其の文字を見て其の翻譯は正しく、又嘗て見たエジプト語の翻譯よりも正しく出來て居つたと



デーヴイド、ホヰットマール



オリヴア、カウドリ

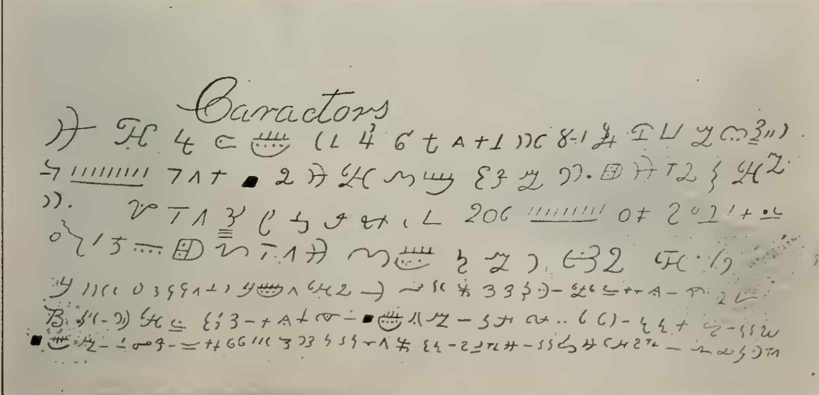


マーテン、ハリス

モルモン經典原書の三人の見證者



クモラ山



モルモン經典の改頁埃及文字

云ふことです、而して博士は翻譯されなかつた文字を見て眞のエジプト語とカルデア語とアッスリヤ語とアラビア語の文字であると言ひました、所で此の斷言を現す證書に「パルマイラ町の人々」と云ふ宛名を付けてハリス氏に與へました、故ハリス氏は其を衣嚢に入れて歸らうとしました、其の時に博士は如何にして青年は其の所に金版のあると云ふことが解つたかと尋ねました。

農夫は「神の使者が其を彼に現しました」と答へました、所が博士は驚いて「其の證書を私に見せて御呉れ」と言ひました、故にハリス氏は此の學者が何かを書き加へるならんと思ひ、其を見せますると、博士は其を手に取るや否や、寸々に裂いて言ふには、「今日では天使が顯れることはない」と、又己其の金版の書物を翻譯する故己の許に持ち來れと云ひました、併しながらハリス氏は、「金版の或る部分は封じてある、又持つて來ることは禁ぜられてある」と言ひました、所が博士は「いや封じたる本ならば、私は迚ても讀むことが出來ぬ」と嘲哢しました。

此の如くして神の昔の預言者イザヤの書二十九章十一節に記載してある預言は實現にな

りました。

猶一人の博識なるミッチエル博士は、相談に預つて、博士アントンが、文字と翻譯に關して言ふたことを悉く賛成しました、之が爲にハリス氏はスミスの證據に信を置きました、而して歸つて、翻譯事業に於て己を預言者の書記にしてくれよと言ひました、スミスは悦んで承諾しました、一千八百二十八年四月十二日より六月の十五日まで此の翻譯事業に働きました、其の時までに一百十六頁の原稿は翻譯されて、ハリス氏は之を書きました、其の時にハリス氏は己の妻と他の懷疑者とに之を見せたいと切望しました、遂に此の書物を見る許可を得る人の名を豫め定めて他の人に見せぬ條件で、スミスは本意に反して其の承諾を與へました、然し此の條件は背かれ、原稿は盜まれました、スミスは再び之を取返すことが出來なかつたので、神の怒に觸れました、のみならず、一時は、金版を翻譯する天惠の力さへ失ひました、ハリス氏は赦されて、又其の後モルモン經典の三人の見證者の一人となつたけれども、復スミスの書記となつて働いたことはなかつたのです、暫くスミスの妻は、翻譯事業を手傳ひましたが、家事の爲め、又一千八百二十八年

の夏頃に其の初子を失つた爲め、其の事業が果取りませんでした。

スミスは目下の事業に補助を得る爲に只管に神に祈りました、其の願が叶ふて、オリヴア、カウドリと云ふ若き學校の教師は、彼のハーモニにある住家へ來ました、此の人は預言者の見たる天使の異象を聞いて之を信じました、彼は書記を務むると言ふたので、スミスは快よく納得して、一千八百二十九年四月七日に果取らぬ事業は、一瀉千里の勢で、翌五月の半までには、翻譯が大低出來上りました。

此の働に從事して居つた間、天よりの貴むべき眞理は、此の若き二人に現されました、のみならず、記錄より大なる悦を與へる多くの貴き教義を悟りましたが、迫害は不絕止まず、若しもスミスの舅が彼等を保護しなかつたならば、續けて翻譯することが六ケ敷くなつたてせうが、幸にブルーム郡コールスヴヰル町のジヨセフ、ナイト氏は金錢上の補助を與へました、又オリヴァ、カウドリ氏の友人なるホヰットマール家族は、セネカ郡フヱエット町に住んで居りましたが、スミスとカウドリの二人は、デーヴイド、ホヰットマールに招かれて、其の家へ行つて記錄の後編は飜譯されました。

終に其の飜譯は成就しまして、金版は其の封じられたる部分が現さるゝ時が來るまで、之が保管の任を有する天使モロナイの手に復委ねられました。

預言者と其の友達はモルモン經典を出版する爲に、パルマイラ町へ行つて、マーテン、ハリス氏を訪問しました、ハリス氏は出版費を出すことになつて居りました、エグバート、ビー、グランデンは六千圓で五千部を印刷することを約束しました、而してスミスは一千八百二十九年六月十一日版權を受けました、スミスは一千八百二十九年の秋と冬の間ペンシルヴェニア州の住家に行きました、其の間オリヴア、カウドリはパルマイラに宿つて、經典の印刷と出版に餘念がなかつた、其で一千八百三十年の春にモルモン經典の初版は世に公にされました。

第五章　肝要なる啓示、スミスとカウドリ天使より神權を受く

此の事業が進むに從ひ、神が建て給はんとする眞の教會に關する必要なる智識を、預

言者スミスに與へ給ひました、計畫は一時に全く現されもせず、又初より預言者に了解されもしませんでした、而して一生涯の間に數多の啓示を受けました、此の如くして敎を受けました故、益々殖えつゝある仕事を善く仕遂ぐることが出來ました、此の勸告と敎とは「敎義及誓約」と云ふ本に記載してあります、此の本は神の僕及び敎會の必要に應じて慰と導として授けられたる啓示を含むものであります。

モルモン經典の飜譯に從事して居つた際、或る時ジョセフ、スミスとオリヴア、カウドリーは罪を赦すための浸禮に關する節に至りました、此の浸禮と云ふ說は二人に新しくありました如く、今日も多くの人々に新說である、此の敎の必要なることを感じて之に叶ひたいと思ひました、而して此のことを善く相談してから、二人は、林へ行つて、此の說に關する智識を求めんとて共に祈りました、斯く祈る間に天使は二人の前に降つて、己はバプテスマのヨハネなりと名乘り、且メルキセデク神權（Melchizedek Priesthood）を有する使徒等ペテロとヤコブとヨハネとの命令にて、二人に使となつて來たと言ひました、天使は手を二人の頭に按けてアロン神權即ち小神權（Aaronic Priesthood）を與へました、此神權

は天使が顯れて人を教導するとと罪を赦すとの鍵であります、天使は此の神權の務に就て二人に教へ、又大神權、即ちメルキセデク神權も、時來らば彼等に與へらるべしと言ひました、此の大神權なしには、眞の基督教會がありません、ヨハネは此處に於て二人の受け與へられた權威によつて、互に浸禮を施す樣に命じました、此處で一千八百二十九年五月十五日に罪の赦を受けんとて、スミスはカウドリに浸禮を施し、又カウドリはスミスに浸禮を施しました、水より上れる時、二人は相互に按手禮をして、アロン神權を授けました、すると聖靈は彼等に降つて、二人は其に感じて大に悦び、又預言しました、斯くして現代に基督教會の會員は初めて出來ました、其の最初の儀式は直接に天より權威を受けたる人に行はれました次第で御坐います。

スミスは天使が罪の赦を與ふる爲の浸禮を施す權威を現代に恢復したと云ふこと、又己とオリヴア、カウドリは其を受けたと云ふ音信を度々熱心なる求道者に述べました、又友人に逢へば、教を說き、聖書を讀んで其の理由を述べました、頓て人々は彼の證據を信じて、其を受ける樣になりまして、先づ其の内に預言者の兄第なるサミユエル、エーチ、スミス

とハイラム、スミスは最初でありました。

フヱットへ移りて後、ホヰットマール家の正直なる二三名の人々は、スミスが神より使命を帶びて來れる人であると信じて、浸禮を受けました、又其の地方の多くの人々は、聖靈の默示及びスミスとカウドリの訓誡と說得とによりて、會員になりました、如何となれば此の二人は人に逢つて話す機會が度々ありました故であります。

モルモン教典の翻譯に從事して居つた間に、預言者及び其の書記は、天主が三人の格別なる見證者を召し給ふと云ふことを知りました、此の見證者は金版を見ることを許されて、其のことを證すべきものでありました、（モルモン經典イテル書五章二至四節）啓示に依りてオリヴア、カウドリとデーヴイド、ホヰットマールとマーテン、ハリスとは其の見證者に選ばれました、選ばれて後、數日を經て三人は預言者スミスと共に林へ入りて、其の約束したる機會を得んと致しました、彼等の祈が叶ふて、天使が顯れ、金版を一々開いて見せました、彼等は謹んで善く之を見、其の彫物を認めることが出來ました、金版は神の力によりて現されて、正しく翻譯されたと云ふ聲を聞きました、其の時に見、且聞いた所の

ことを證せよと命ぜられたので、後に命令通に證しました、此の證據はモルモン經典の諸版に記載されてあります、今日に至るまでも説破されません、其三名の見證者は皆後で教會より墮落しましたけれども、最初嚴肅に證を立てた如く、金版と天使を見たと云ふことに反對するものは、一人もなかつたのであります、其の他に八人の見證者は、スミスが金版を己等に見せ、己等も亦手で其に觸れたと云ふ證を立てました、此の證もやはり經典の諸版に記載されてあります。

一千八百二十九年五月十五日と六月の末方との間に、日は明白に解らぬが、ペテロとヤコブとヨハネとは、榮光を以て、スミスとカウドリに顯れました、此の三人は昔日天主で救主イエス、キリストの使徒でありましたが、此の世に居りました間、己等の有てるメルキセデク神權を此の二人に與へ使徒の役目に任じました、スミスとカウドリは神の新しき僕、即ち教會の第一の長老と第二の長老であつて、復互に按手に依つて、此の神權を授けました、其處て、彼等は、聖靈の賜を得て、非常に悦びました、何故と云ふと此の賜を人にお與へる權威を有てる故てありました、斯く彼等はメルキセデク神權を有する人と

なりました、メルキセデク神權とは「動かし指圖し掌理し又支配し或は修理する力權又威であつて三體同位の神に屬して父母（本源）なく系統（親より子に傳はるべきこと）なくして無始無終*に存在するものでありますが人を教へ、人を教會に入れ、精神的にも肉體的にも人を導き治め、且高める爲に人に授かります、大昔尊敬せられたる大祭司メルキセデクは此の神權を尊重し大切にした故にメルキセデクを崇める爲且又神の御子イエス、キリストの名を餘り度々反覆していふことを避ける爲に此の神權にメルキセデクの名が付けられました」（大管長ジヨセフ、エフ、スミスの言）

*三體同位の神、之を神會とも云ふ、神會は天父と其御子イエス、キリストと聖靈とによつて成立つたものである、天父の位は之を神と云ふ、子なるキリストは天父より大なる權及び身分を與へられ、つひに天父と同じ位に上げられたので神の位を有して居る、通稱聖靈なる者は大なる御靈である、之も天父の許を得て天父と同じ位に達せられた故に神の位を有して居る、然らば神の位に居らるゝ此の三體の御方は會を成して之を神會若くは三體同位の神と稱するのである、讀者に請ふ神會を其に居られる何れかの一個の御方と誤解せられぬことを、

此の二人が大神權を受けて後に天主より重大なる啓示がありました、之に依りて末日に

十二使徒の信ずべきことと及び其の職務を知らせられ、又完全なる福音に適つて、基督教會を創立し、組織することに關する多くの教を與へられました。

斯く一千八百二十九年の多事なる五月と六月の間に、萬人に祝福を與へる多くの大切なる眞理と教理が現されました、其の結果は、宗教界に取りては、大なるものであります、是に依りて浸禮は罪の赦を得る爲に必要であると解りました、又此の儀式を執行する爲に人々が委任されたのであります。

今や殆んど世界中の住民に配布せられんとするモルモン經典の神聖なることを證する爲に、見證者が選ばれました、されば世の人々は該經典に依つて、昔日教へられたるイエス、キリストの完全なる福音と其の汚點のない說明とを與へられるのであります。

此の音信を人類に傳へる最初の事業は成功されました。

其の結果として眞の教會の創立、さては天主が行ひ給ふ「奇くて最怪き事」が頓て此の世に實現されんとしてありました。

第二編

教會の創立よりカートランド逃走までの事件

（自一千八百三十年至一千八百三十八年）

第一章　教會の創立

神の御意と御命令に從つて、一千八百三十年四月六日は、此の教會の創立の期日で、萬端の用意が整ひました、浸禮を受けた信者は、九人、紐育州セネカ郡フェエット町ピーター、ホヰットマール（初代目）の自宅に於て聚ひ集まりました、其の日國法に從つて、六人の信者で、末日聖徒耶穌基督教會は創立されました、其の六人はジヨセフ、スミス（二代目）とオリヴア、カウドリとハイラム、スミスとピーター、ホヰットマール（初代目）とサミユエル、エチ、スミスとデーヴイド、ホヰットマールとでありました。

前に啓示された命令に從つて、預言者ジョセフ、スミスは、最初に祈禱を以て、其の會を開いて、己とカウドリは神の國、即ち教會の教導師となり、また信者等は組織されて教會となることに快く贊成するや否やを知らんと信者等に尋ねました、彼等は一同是に贊成致しました、其處でスミスはカウドリに手を按けて基督教會の長老としました、後カウドリはスミスに按手して等しき役に任じました、浸禮を受けた者は、天主の聖なる晩餐に與つて、後右の長老の按手によりて、教會の會員たることを堅くせられ、而して聖靈を受けました、聖徒は聖靈に甚く感じて、皆悅び、神を讃美し、又中には預言をした者もありました、其の時に總て聖徒は「兄弟姉妹」となつて、其の兄弟によつて、亦選ばれて神權の或る役に任ぜられたる者もありました、其の役の職務は其の頃啓示されました。

聖徒の猶未だ散會せざる折に、預言者スミスは「教義及誓約」(Doctrine and Covenants)と云ふ本の二十一章にある啓示を彼等に宣べました、それには己が神に召されたること、及び己の罪の赦されたることが宣言してある、また聖徒が天主の御口より出づる言葉に從ふ如く、堪忍及び信仰を盡して、スミスが天より受ける言葉に注意すべく命じてあります、

若しも斯くせば天主は彼等聖徒の前より暗黑を去り、彼等の爲に天を震動すると云ふこと、又惡魔の力は、彼等に打勝つ可からざることを約束してあります、のみならず、イエスが世人の罪の爲に十字架に付けられたることや、又罪の赦を受ける方法が設立られてあると云ふことを葡萄園(世)に弘める者は、大なる惠福を與へらるゝと云ふ約束があります。

歷史家ホキットニが申しますには、「斯の如くにして末日聖徒耶穌基督敎會は創立され、此如くにして「モルモン」敎(序文を見よ)と世人に言はれる組織が起りました、此の「モルモン」敎は現今の最も著しき宗敎と見做され、又基督敎國に於ては、到る所、之を以て、身を亡ぼす危險なる瞞着手段として嫌ひ、惡口されます、併しながら「モルモン」敎徒は此の敎を敬ひ、眞に全能なる神の奇き事、即ちイザヤ及び他の昔の先見者の預言したる、「奇くて最怪き事」として之を辯護します、而して此の「奇くて最怪き事」は、恢復されたる福音を敎へ、且末日のシオンを建設するを以てメッシヤ(救主イエス、キリスト)の再降臨を迎へん爲め、又千年の平和の時代を開く爲の用意を世人にさせるものであります」と。

第二章　奇蹟及び迫害、スミスの捕縛

敎會は火曜日に創立されましたが、第一の公會は其の後一千八百三十年四月十一日（日曜日）紐育州セネカ郡フェエット町ピーター、ホヰットマール氏の家で開かれました、此の集會の廣告は善く其の近邊に弘まりました、故多くの人が傍聽しました、此の折にオリヴア、カウドリはジョセフ、スミスの命令にて、最後の福音時代に、神の權威を有する僕として、第一の公なる說敎を致しました、聖徒及び他の人々も大に慰を得て、多くの人は神の聖徒となる爲め、浸禮を施されんことを願ひました、其の日六人入會致しました、又十八日（日曜日）に又七人入會致しました、皆セネカ湖でオリヴア、カウドリに浸禮を施されました。

四月の末つ方スミスは紐育州ブルーム郡コールスヴヰル町へ行きて、ジョセフ、ナイト氏の家を訪問しました、此の人は、ジョセフ、スミスがモルモン經典の翻譯に從事して、金に不足して居つた時、親切に助けたる人です、ナイト氏と其の家族とは宇宙神敎の信者

であつたが、彼を懇に迎へ、彼の宗教上の意見に付て徐ろに議論を致しました、預言者は二三回の集會を開いて敵や味方や又多くの求道者を造りました、何時も傍聽した人の中にジヨセフ、ナイトの子ニユエル、ナイトがありました、彼は預言者の言葉に甚く感動して、說教場で友達の前に立つて祈ることを約束したが、其の時になると、如何に勸められても祈ることが出來なかつた、直に林へ參りましたが、歸つた時には、身も心も恐しき容態でありました、ジヨセフ、スミスが彼を訪問して、其の顏貌と手足が捩曲られたるを見ました、預言者が其の家に居る間に、其の友人ナイト氏は力無氣にも、床より挑ね上げられて、部屋の端より端まで投げられました、スミスは聖靈に感じて、彼が惡鬼に憑れたること、又彼を斯る苦痛より救ひ出すものは、唯だ神の力のみであると云ふことを悟りました、スミスが彼の手を捉へることが出來ました時、ナイトは己を苦める惡鬼を追ひ出さんことを願ひました、神の僕スミスは答へて「汝若し予に其の力ありと信ぜば、其の如くならん」と言ふや否やほとんど無意識に惡鬼を戒めて、イエス、キリストの名によつて退けと命じますると、ナイト氏は直ちに悦び叫んで、惡鬼が部屋を去ることを見ると申しました、彼

聖靈に滿されて、其の敎を信じました、而して五月の末頃フェエット町に行きてをる間に、デーヴイド、ホヰットマールより浸禮を受けました、此の奇蹟を見た多くの人は後に敎會の會員と成りました。

此の如く神の力にて敎會第一の奇蹟は行はれて約束したる惠福を初めて受けました、抑々昔日の如く今も猶信ずる者に「奇跡」は從ふべき福音であります、其の時以來長老は幾千度も奇蹟を行ひました、而して今日でも行つて居ります、併し此の長老は誇ることなく何時も天父なる神に其の讃美と崇と榮光とを歸せます。

スミスはコールスヴヰルで總ての用事を全く終りて、フェエットへ歸りました、モルモン經典は、之を印刷してから既に久しく時は經たれども、フェエットにては、「不思議なるもの」と思はれました、」而して人氣が立つて居りましたから會員や、其の味方、及び其の本を信ずる人は、多少の迫害を受けて居りました。

一千八百三十年六月一日フェエットで敎會の最初の大會が開かれました、初の日に三十人の會員と多くの非信者及び其の新しき宗敎を信ずる人々も集まりました、聖餐式は執行さ

れました、集會者の信仰は最大なるもので多くの人は聖靈に感じて、不思議にも、一時は各々力を失ひ、天の異象を見ましたが、又力を取り直して、神と羔なるイエス、キリストを讃美してホザナやホザナと叫び、斯くして聖靈に滿たされて居つた間に見たる榮光を互に語り合ひました、多くの人は浸禮を受け、猶多くの聖徒は神權の或る役に任ぜられました教導職は教會の爲に新しき熱心を以て奮起し、而して「モルモン」教は長足の進歩を以て擴張し始めました。

此の大會が終るや否や、スミスは、ペンシルヴェニアの家に歸つて、後暫く經つて己の妻を連れて、「コールスヴヰル」へ行つてジョセフ、ナイト氏の家を訪問しましたが、其所へ行くと浸禮を受けたいと云ふ人が數多ありました、土曜日の晩に長老等は小川に堤防を造つて其の翌る日曜日の例會の後に、其處で浸禮を施す都合であつたが、暴徒は近所の或る牧師達に誘はれて、其の堤防を毀したので、不得止其の儀式を月曜日迄延期せねばならなかつた、日曜日の説教で福音の原則とモルモン經典の神聖なる證據を聞いて猶一層敵の激怒の高まりたるに拘はらず、月曜日にオリヴア、カウドリは十三人に浸禮を施しました、預

言者スミスの妻なるエンマは、其の中の一人でありました、其れ故にスミスが彼を教會の牢に迎へるときの悦は言語に盡すことが出來ませんでした、儀式が終るや否や暴徒は復暴行を初めました、五十人はジョセフ、ナイト氏の家を取り圍んだから、若しも長老等が非常なる用心を加へなんだならば、到底暴行を免るゝことが出來なかつたでせう、スミスは其の暴徒に向つて、寛めんと務めて健氣にも彼等の輕蔑や嚇に答へたけれども、其の甲斐がありませんでした、漸く暴徒は退いたので、長老等は用心してニュエル、ナイト氏の家に參りました、其處で集まつてゐたる改心者に按手して、教會の會員たることを堅くせんとする時、警察官は、スミスを捕縛せんとて、令狀を持つて現れました、之はスミスがモルモン經典を宣傳へて、人々の中に騷動を惹起して居ると云ふ訴があつたからです、暴徒は己等の手にスミスを得て、心の儘に彼を叱責まんと目論見て、令狀を發せしめましたが、警察官が親しく此の場所に來て見るに及んで、スミスの人物と人の評判との相異なれることを知りました、而して若しスミスを懇切に取扱はなんだならば、暴徒はスミスを看守より奪ひ取つたに相違はありません、暴徒が馬車を取り卷いた時に、其の警察官は馬

に鞭撻つて、スミスを連れて暴徒の達せざる所に行きました、警察官はスミスをチェナンゴ郡サウス、ベインブリヂ町まで行つて、彼を旅館に宿らせ、其の番をして夜を明かしました、其の翌日大騒の最中に、スミスは呼ばれて、審問されました、犯罪の論告は、彼は、以前の雇主ジョサヤ、ストールより馬を一頭又ジョナタン、トムソンより牡牛を二頭得るの啓示を受けたりとて、此の牛馬を己の所有に歸したりと云ふのでありましたけれども、ストールとトムソンが證人となつて、此の未決囚人を辯護したので、スミスは速かに無罪放免の身となりました、スミスの辯護人はジョセフ、デイヴイドソンとジョン、リードとの兩氏でしたが、此の二人はジョセフ、ナイトに頼まれたのであります。

スミスが免されるや否やブルーム郡よりの令狀によつて、二度捕縛され、コールスヴヰル町へ連れられ、審問されました、今度の警察官は彼を虐待して、數時間飲食を與へなかつた、旅舘で愚民隊は彼を罵り、愚弄し、輕蔑し、唾を彼に吐き、彼を嘲呼しました、漸くスミスは水と少しのパン屑とを與へられて、其の晩は休むことを許されました。

其の翌日の裁判で前の裁判の辯護人は彼を辯護して、訴へたる者の惡意を明白に曝露さ

ました、スミスを罰する理由がないので、復速かに放免になりました、其が爲に彼の敵は大に怒つて、今にも暴行を加へんと嚇しました。

以前に彼を虐待した警察官は、其の裁判事件を見た多くの人々の如く、却て同情を寄せる樣になつて、敵の企を妨害しました、であるから、スミスと其の妻は、怪我をせずに逃れてペンシルヴェニア州に在る己の家に歸りました。

暫く經つてジョセフ、スミスとオリヴア、カウドリは浸禮を受けたる人々に按手して、敎會の會員たるこゝを堅くする爲め、再びコールスヴヰル町に行きましたが、ナイト氏の住家に着くや否や、暴徒が集まり初めたから、目的を達しません、のみならず、殺されぬ樣に逃げねばならぬ場合となつたけれども、其の次に行つた時には一層多く成功しました。

此の時スミスは暫ゝの間、己の妻とジョン、ホヰットマールとの助を得て、是まで受けたる啓示を整備して、書き寫しました、六月に「モーセの異象」、七月に「敎義及誓約」と云ふ本の二十四、二十五及び二十六章に書いてある誡命を神より與へられました。

オリヴア、カウドリはフェエット町ホヰットマール氏の所に歸りました、而してスミスは

ハーモニ町に居つた時に彼より手紙を受けました、其の手紙は、誡命の中に一つの相違を見出したから、其を正してくれよと云ふ文面でしたが、スミスは其の言語が神より授けられたもので、神が其を變へるまで、書いてあるまゝに保存して置かねばならぬと答へました、而してスミスが自らフェエット町へ行くまでは、迷はされたるオリヴア、カウドリとホヰットマール家族の人達は、其の預言者の斷言する所の慥かなることを認めないで、疑つて居りました、猶其の時でも其との爲に第一の長老スミスと、第二の長老カウドリとは、絕交するに至りました、是まで此の二人の交際は親密にして、互に助け合つた、然れども此の絕交は唯だ暫時にして、仲直りをしたが、復やがて絕交するに至つたのであります。

八月の初頃コールスヴヰル町で、浸禮を受けて未だ敎會の會員たることを堅くされなかつた人等は、ハーモニ町に來ました、其故にスミスは彼等に按手して敎會の會員たることを堅くする爲めに集會の用意をしました、聖餐式を執行したいと思ふて、葡萄酒を少し求めんとて、出掛けると、途中で一人の天使彼に顯れて、啓示を與へました、此の啓示は若し聖徒自ら新しく造らざるものならば、葡萄酒を用ゐることを禁ずると云ふ戒でありまし

た、スミスは家に歸つて豫定通に集會を開いたけれども、其の戒に從つて聖餐式には水を用ゐました、此の時に復迫害がハーモニ町に起りました、此の迫害はメソヂスト教の牧師の發起したものでありました、ジヨセフ、スミスの舅なるアイザク、ヘール氏も勸められて、反對黨に加つて、其の時より「モルモン」教會の强敵となりました、スミスとエンマとはハーモニ町にある己の舊き家に居ることが最早出來なくなつた故に、再びホヰットマール家に招かれて、フエット町に移つて一千八百三十年八月の末頃其處に到着しました。

第三章　イスラエル人の大集合、レーマン人への傳道

此の時妨害は新に教會に現れて來ました、預言者スミスがフエット町に到着した時、會員間に非常なる鬪爭のあることが解りました、之はハイラム、ページ氏に屬する小さい石の爲に起りました、彼は此の石を通じて、不正なる默示を受けました、其の默示の教は新約全書及び教會の司なるスミスの受けたる教と反對でありました、聖徒の迷はされた者の多くの中で取り分け重立つた者は、オリヴア、カウドリとホヰットマール家の或る人々もあ

りました、預言者ジョセフ、スミスは啓示を受けて、天主の名を以て彼等に言ひますには、其はサタン（惡魔）がハイラム、ページを欺いたので、又其の石を以て受けたる默示は、決して神より賜つたものではない、我（スミス）の代に他の人が任じらるゝ時までは、我一人で、教會の爲に啓示を受くべき人である、一切のことは、信仰の祈禱と、聖徒の一致及び秩序に從つて行はるべきものであると話しました、其の啓示はオリヴア、カウドリがハイラム、ページに其の石を棄てさせる爲め又レーマン人に福音を宣傳へる爲に召さるべきこと及び或る「都市」に關するとにして（當時教會に於ける葛藤鎭定後直ちに行くべきこととあつた）其の「都市」の場所は明白に解らぬけれども、何處にか西方の「レーマン人が住んで居る地方の境に」近き所に建設すべきものであるとあります、其の頃又萬國に於ける聖徒の最後の集合に關する大切なる啓示をも授けられました。

一千八百三十年九月一日にフェエット町で、教會の第二の大會が開かれて、丁度三日間續きました、其の大會で、ハイラム、ページと其の友達は其の疑はしき石及び其に關する一切のことを捨て、改めて之より己等の司たり又預言者たるジョセフ、スミスに對して忠

義を盡すと言ひました、斯くて再び和合は恢復されて將に起らんとせし分派が難なく全く治まりました、其の大會で二つの啓示が授けられたので、多くの人は布教に召されました、其故に散會の後啓示されたる言葉に從つて、レーマン人（亞米利加土人）に福音を初めて宣傳へる用意をしました。

末日聖徒は名々己をイスラエルの子孫であると信じて居る、其故に離散したるイスラエル人が末日に集められると云ふことは、彼等にとりて、肝要なる一つの教義であります、然して見れば、彼等が世界の諸民に福音を宣傳へて、心の直き者、即ちイスラエルの子孫を呼びて、シオンの大陸なる亞米利加に集合することを勸めんが爲め驚くべき犧牲を顧みざる理由は、幾分か了解することが出來ます、聖徒はエリミヤの信じた如く、「イスラエルを散せしものこれを聚め、牧者のその群を守るが如く之を守らん」（耶利米亞記卅一章十節）と云ふことを信じて居ります、其故に又諸民や遠き諸島に天主の教を宣傳へる熱心なる希望を持つて居ります、而して離散したるイスラエル人のみならず、十支族が「北國」より立ち歸ることや、猶太人の恢復、及びエルサレム市の再建設と云ふ諸件を含む大集合の教義



レーマン人即ち通稱アメリカ土人

は、宣教師が金錢を携帶せずして布教に派遣されることゝ共に、其の當時に於て、不思議なる教義と見做されました、啓示を受けた預言者の活眼を以てさへも、此の教と又己に依つて啓示されたる他の教義の充分なる意義は、解るや解らぬ位でありました、然しながら、天主が命じ給はゞ之に從ふべし」と云ふ格言を生涯の銘として置くと同時に、聖徒にも同樣に從ふことの必要を說き示しました。

聖徒の信ずるモルモン經典に記載せる所によれば亞米利加土人はイスラエル家の分家である、其故に彼等は西方の新しきエルサレムなるシオンの都市を建設することを助け、且福音の大なる事業に就ては彼等は其の本分を盡し得る樣に神の教を聞くべきものである、其故早くも此の時眞の福音及びモルモン經典を彼等に示し教へる爲に、宣教師を召す理由は明亮に解ります、モルモン經典とは神が此の土人の先祖に對して爲し給ふたことを載せたる記錄であります。

啓示に依つて其の遠國に布教する爲め選ばれたる人は、オリヴア、カウドリとピーター、ホヰットマール(二代目)とパーリ、ピー、プラットとザイバ、ピータソンとでありました、

る爲に召されたけれども、機會があれば、何處にでも傳道する筈でありました。

此の時からパーリ、ピー、プラットの傳記は敎會の歷史に關して離るべからざるものとなります、プラット氏は一千八百七年四月十二日に紐育州オツヱゴ郡バーリントン町に生れて、一千八百三十年九月一日にセネカ湖でオリヴア、カウドリより浸禮を受けて、敎會に入りました、是までヵンベル敎の牧師でした、カンベル敎とは浸禮敎會の分派で、信者の最も多數な所は、オハイオ州カートランド町及びイリー湖の近隣でありました、其の信者の名高き人の中に宗派の創立者アレキサンダー、カンベル、又天賦の才能ある聖書の說明者シドニ、リグドンなる人々がありました、プラットは其の敎會に入會して、程なく一千八百三十年八月に敎職に一身を捧げることに極めました、其故にオハイオ州の西方にある己の家を賣つて、其の目的を達する爲に東方へ出立しました、其の旅行中初めてモルモン經典を見たが、直ちに深く之に感動致しました、プラット氏は預言者スミスに面會を求める爲め、其の家を訪問しましたが、留守で逢はなかつた、ところで、其の兄弟ハイラム、

スミスを訪問しました、彼はプラットと同伴してフェエット町へ行きました、其處でプラットがジョセフ、スミスの神聖なる使命を信じて前記の通り浸禮を受けました、其より猶東方へ行つて、己の兄弟なるオルソン、プラットに福音を傳へましたので、兄弟は教會に賛成して後に使徒會の名高き者になり、又ユータ州を開拓して殖民した人となりました、パーリ、ピー、プラットは西方へ歸つてマンチェスターで預言者スミスに逢ひまして、其の後間もなく、上記の如く、レーマン人、即ち亞米利加土人に、傳道する爲に召されました。

十月の末頃其の四人の長老は天主が彼等を守り、必要なる一切の惠福を與へ給ふこと、又福音に從ふ心を土人に賜はると云ふことを信じて、西方に向つて徒歩にて旅行を初めました、バッファロー市に近きカタラウガス土人に其の面白き音信を傳へて、モルモン經典を數部與へました、色赤き土人は親切に此の長老を迎へました、旅を續けて次にカートランドに止りました、此處は西方にある殆んど人口二千人を有する繁昌な町であつて、「長老の屬する「モルモン」教會の頓て移轉すべき所でありました」長老プラットは元己の教師であつ

たシドニ、リグドン氏に面會を求めて、己が更に見出したる眞理の音信を彼に話しました、すると、リグドンと其の名の知れた友達の多くも己等は神の教會の儀式を執行する權威を有せざる故、正當に浸禮を受けたのでなく、又己等の教會に於ける役目に正當に任ぜられなかつたことを悟りました、其故に彼等の多くは長老プラット及び其の同僚より浸禮を受けて、彼等の按手によつて聖靈の賜を受けました、其の人々の中にエドワード、パートリッヂとニユエル、ケー、ホヰットニとの兩氏がありました、後に此の二人は教會の第一と第二の監督となりました、此の新しき宣教師は夜となく日となく聽きに來る無數の人々に教へて忙しくありました、到着した時より二三週間の中に百二十七人は浸禮を受けました、頓て其の數が增加して一千人となりました、其の新しき改心者は「愉快と喜悦に滿たされたが、駁擊者は非常に虛言を吐いたり怒を逞しふ致しました、斯樣に迫害が烈しくありましたが、併し、聖徒は信仰が强く、大なる愉快を持つてをりました」。

成功したる宣教師は、シドニ、リグドンとアイザク、モーレとジヨン、マードックとライマン、ウワイトとエドワード、パートリッヂ及び其の他多くの人々を選んで、而して是

等の人が聖徒を教導し、監督し、福音を宣べ、儀式を執行する爲に、權威を彼等に與へました、（後に其の多くの人は教會の歷史で名高き人となつた）而して傳道の進歩を預言者スミスに知らせてから、復西方に進み、フレデリック、ジー、ウヰリアムスと云ふ人を更に改宗して、教會員に加へ、彼を連れて行きました。

彼等は又オハイオ州の西方のサンダスキと云ふ所のワインダット土人を訪問しました、此の土人は宣教師を眞に懇に迎へて、己等の先祖に就いて現されたる不思議なる音信、及び恢復されたる福音を聞いて、大に悅び、且西方へ行く長老の上に神の祝福あらんことを祈り、頓て又己等も其の宣教師の後を追ふて、西方へ行かんことを望んで居りました。

宣教師は其處よりシンシナタ及びセイント、ルイへ行きましたが、餘り成功はしませなんだ、長老プラットはカートランドより凡そ五十哩程離れて林間にあつた己の舊宅の前を通る途中で、或る些細な訴の爲め捕縛されたが、巧に逃れました、烈しき風雪が起つて雪が三尺程も積んだので、長老達はセイントルイの邊に宿りました、一千八百三十一年の初に旅行を續けて、隱家も火もなく、食物は僅かに生豚肉と氷結せる玉蜀黍のパンのみを持ち

ました、一圓人跡のなき平野を辿りて、三百哩程歩行きました、漸くミスウリ州の西の際限でジャクソン郡インデペンデンス町に到着しました、最早宣教師は四ケ月間程傳道して、一年中の最も惡き時節に、大低は原野の處を、徒歩にて、一千五百哩程旅行しながら、己等と等しき白色人種の數萬人及び土人の二支族に福音を傳へたのみならず、數百人に按手禮をして教會の會員たることを堅くして彼等を枝教會に組織しました。

二人の兄弟は仕立屋をして、インデペンデンス町に滯在しましたが、長老等プラットとカウドリともう一人とは土人の居る所へ參りました、一夜ショーニ土人の所に宿つて、其からカンサス河を渡つてデラウエア土人の所に參りました、此の土人の首長は老人で、多妻を待ち十支族の土人の首長に立つて居りました、宣教師は此の人を尋ね、懇意なる通辯を通じて、其の老人に福音を傳へ、親切に迎へられました、其の首長は暫く躊躇して土人の相談會を催しました、而してオリヴア、カウドリは其の土人に說教することを許されました、モルモン經典を一部彼等に與へて、其の本の歷史及び福音の恢復されたることを宣べました、此の三人の長老は五六日間其の土人に教へる爲め滯在しました、其の支族は一

般に一意專心教を聽きたがつて居りました、併し境界地に居つた他の牧師と土人支配者は土人が之に感動せると聞き、長老を治安妨害者として土人の領地外へ退去を命じました、而して若しも此の命に從はざれば干戈に訴ふべしと威しました、斯樣な次第で長老は止むを得ず土人の地を去つてジヤクソン郡の寄留白人に宣道する爲に歸りましたが、此處では成功致しました。

一千八百三十一年二月十四日インデペンデンス町に於ける是等五人の長老の相談會は、此の時までのことを預言者スミスに報知する爲め長老プラットを遣すことに決めました、長老プラットは此の危險なる歸旅に於て非常なる困難の末同年三月カートランドに到着するや、(プラットの不在中に預言者スミスは其の町へ移つて行きました、)不一方歡迎せられました。

第四章　オハイオ州に教會の移轉

其の間に「モルモン」教會は預言者スミス及び他の役人の働に依て、東方にも既に餘程

擴まりました、一千八百三十年の秋オルソン、プラット又カートランド町のシドニ、リグドン及びエドワード、パートリッヂはスミスを訪問しました、而してパートリッヂはカートランド町の枝敎會の有樣をスミスに報告致しました、此の三人の訪問者は己等に對する天主の御意が如何なるものであるかを預言者スミスに尋ねに來たのである。

一千八百三十年の暮にジョセフ、スミスは神の力によつて聖書を訂正しかけましたが、シドニ、リグドンはフェエット町に留まつてスミスの書記となつて、其の業を助けました。

上記の如く將來西方の地は「モルモン」敎會の根據地たるべきことが啓示された、且レーマン人に遣されたる宣敎師がカートランドに於て大に成功したので、スミスは敎會全體を西方に移す時が來たと知りました、猶又シドニ、リグドンの訪問は此の思想を確定しました、將來に建設すべき新しき「都市」の場所は未だ判然と定められなんだ、然し神がシオンの地の場所を現し給ふ時まで、カートランドは聖徒の善き休場としてシオンの一つの盛大なるステーキ部（八十頁を見よ）となれる所でありました、又聖徒は暫く滯在して力を養ふことが出來る所でありました、シオンは「新しきエルサレムや、平和の地や、避難所や、最

高き神の聖徒が保護を得る所」といはるべき場所でありました。

其の時に聖徒が集まるべき第一の直接なる命令、即ち末日にイスラエル人の集合することの初を告ぐる啓示が與へられました、其の啓示には教會は「オハイオに集合すべし」と云ふことがあつたのです、併し集合する前にジョセフ、スミスとシドニ、リグドンとはフエットと其の近邊に居る聖徒と又信仰厚き所のコールスヴヰル町の聖徒に格別に福音を宣傳へて彼等の信仰を猶一層强固すべく命ぜられました。

一千八百三十一年一月二日フェエット町で西方へ移住する用意として天主の御旨に從つて告別會即ち教會の第三回の大會がありました、聖徒は其の時に東方に於ける教會の凡ての事務を或は終了し、或は可成速く整理することを信用する人々に託しました、大會の間に、天主は一つの啓示を授けて聖徒が若し其の條件に從はゞ永久に承繼ぐべき所の約束したる地は彼等に與へらるべしと云ふことを示し給ひました、併し其の時まで聖徒はオハイオ州で神の掟法を與へられ、且天よりの力も與へらるべしと約束せられました。

其よりカートランド町に移轉することが初まりました、一月の末頃預言者スミスと其の

妻及びシドニ、リグドンとエドワード、パートリッヂと他の多くの人は出立して、一千八百三十一年二月一日頃カートランド町に到着しました、ジョセフ、スミスは自ら「預言者ジョセフ」とニユエル、ケー、ホヰットニ氏に告げました、其の人に懇に迎へられて、待遇されました、五六週間はスミスと其の妻はホヰットニ氏の家に止まり、スミスは教會の整理に關する大切なる事柄を取計ひました、預言者スミスがカートランドに着いた後、紐育州の聖徒は移り初め、次の五月及び六月に其の目的地に至つてオハイオ州の北方、大低カートランド若くは其の近所に居所を定めました、天主が其の「都市」即ち彼等の承繼ぐべき地を明白に知らせ給ふ時までオハイオ州の聖徒は東方の兄弟を受けて己等の所有地を彼等に分け與へる樣に命ぜられました。

第五章　全財産獻納法

レーマン人に遣されたる宣教師がカートランドを出立せし後其の枝教會の內に奇怪なる意見及び邪心ある人が起りましたが、直ちにスミスは是を破ることに取掛り智慧と用心と

を盡すことに依て間もなく成功致しました。

カンベル教會の信者は昔一切のものを共有した基督教信者の如くなりたいと云ふので、「共産生活」を組織しました、乃ち皆一家族となつて、一所に住んで生活しましたが、其の「家族」の者は大抵末日聖徒耶蘇基督教會に入りました、所でスミスは此の「共産生活」を棄て、「天主の完全なる掟法」に従ふことを彼等に説得致しました、此掟法は全財産獻納法或は共立主義(之を守る者を共立宗團と云ふ)(United Order)のことで教會全體の守るべき掟法となりました、此の掟法の要領は、此の共立宗團に入る時には、各自は總ての財産を全く譲つて監督に獻納するのです、而して教會は或る財産を其の人と家族の受託財産として各自に渡すべき契約書を彼等に與へまするが、彼等は時々其受託財産に就ての報告を監督に渡す義務がありました、凡ての人は隣人に幸福あらんことを望み、勉強して皆同じく所有者で、名々は其の己の受託財産を取計る自由があつたのであります、乃ち世間に於いての平等を起すつもりでありました、預言者は最も緊要な點を言ふて曰く「或る一人は他の一人よりも多く所有ずべからす」と、之は昔エルサレムに居つた使徒の組織と同じであつ

て「信者はみな心を一にし意を一にして誰一人その所有を己が物と云ことなく、凡て之を共に有てり」（使徒行傳四章三十二節）と云ふことでありました、又之は昔「エノクの市」の人々の組織と同じで「天主の民は心を一にし意を一にし義を行ひ、其の中に貧しき者なきが故、天主は彼等をシオンと名け給ひぬ」と云ふことでありました。

此の掟法を初めて平常に守ることにした折に＊監督會が創立されて、凡てアロン神權を有する人々の司となりました、アロン神權とは教會に於ける世間の用に關する職務及び肉體上の儀式を執行する爲の權威であります、啓示で召されたる第一の監督なるエドワード、パートリッヂは一千八百三十一年二月四日に「教會全體の賛成により總監督に任ぜられました、」彼は商人の業を棄てゝ一生を教會に務むることになつて居りました。

＊監督會とは三人を以て成り、長一人顧問二人を謂ふ。

監督の召された時より二三日の後に啓示が猶一つ聖徒に與へられました、其には共立主義及び教會の支配に關する大切なる教義がある。

預言者スミスとシドニ、リグドンを除いて、他の凡ての長老は二人連れ相提携して福音

を敎へ、且又改宗者が西方へ逃れることを勸める爲に出立すべく命ぜられました、天主は其の御意に從つて新しきエルサレムの場所を現すことを約束し給ひました、而して聖徒は其の爲に祈り願ふ樣に敎へられました。

斯て昔日エノク主意、共立主義即ち全財産獻納法は聖徒に與へられたが、迫害と人の貪慾と誇と違背との爲に永久に守ることが出來ませんでした、併し此の掟法を守らざればシオンを建設することは出來ぬと天主が言ひ給ひましたから、之は將來の未だ決の付かぬ問題であります、敎會は此の神の命令を守らなんだ故に、一千八百三十八年其の代に十分の一法(Tithing)と云ふ猶守り易き掟法が與へられました、此の掟法は人が先づ凡て餘計なる所有物を監督に獻納し、且年々所得の十分の一を監督に納めることであります。

第六章　シオンの地の撰定

一千八百三十一年六月六日カートランドで敎會の第四回の大會が開かれましたが、方々に行つて居つた長老は啓示されたる命令に依つて大會に出席しました、此の時までに聖徒

の數は大凡二千人に殖えて居りました、此の集會には聖徒は甚く聖靈に感じ、祝福を蒙り、大に悦ひました、役人は最初の大祭司となるべき人を選びました、メルキセデク神權の力は以前よりも善く現れました、此の時までジョセフ、スミスとオリヴア、カウドリとを除いて此の神權に於て長老の上の位に立つ人はなかつた、此の長老はメルキセデク神權に於ける最下の位であります。

多くの長老は二人連て昔の使徒の如く道を宣傳へ、浸禮を施す爲に召されました、彼等は皆異なれる道を通り、ミスウリ州の邊境方面へ出立し、福音の音信を信ずる人々の居る所に枝教會を組織して、其から又ミスウリ州で集まる義務がありました、教會の次の大會はミスウリ州で催されることになつて居りました、而して聖徒は若しも信仰をすれば、其の時に彼等の承繼ぐべき地の場所は彼等に現さるべきものとなりました。

大會の後間もなく、シドニ、ギルバート及びニュエル、ナイトへの啓示が與へられました、ナイト氏の啓示には元コールスヴキル町にあつた枝教會に關することがありました、其の枝教會の會員は初めて福音を信じた人々の一部で、其の當時オハイオ州トムソン町に假住

をして居りました、コールスヴヰルの聖徒は西方の「レーマン人の居る地の界まで」移住する樣に命ぜられました。

其よりダブルユ、ダブルユ、フェルプスとトマス、ビー、マーシュは己等に對する天主の御意が如何なるものであるかを知らん爲に預言者スミスの所へ來ました、其で彼等の爲に二つの啓示が授けられました、(後にフェルプスは敎會の名高き者の一人となり、マーシュは十二使徒會長となりました)。

大會中に接したる命令に從つて六月十九日ジョセフ、スミスはシドニ、リグドンとマーテン、ハリスとエドワード、パートリッヂとダブルユ、ダブルユ、フェルプスとジョセフ、コーとシドニ、ギルバート夫婦と共にカートランド町を立つて初めてミスウリの地方へ行きました、コールスヴヰル枝敎會の聖徒は彼等の後を追ひました、其の他召されたる長老は同じ行先に到るつもりで、各々異なれる道を通りて來ました、ジョセフ、スミスの組は乘合馬車や小舟若くは蒸氣船等に乘り、或は徒歩にて、七月の半頃ミスウリ州インデペンデンス町に到着しました、而して彼等はオリヴア、カウドリと他の宣敎師等に逢ふ機會を

得て非常に歡喜しました、預言者スミスの話には彼等は「感じて落涙しました」と云ふことです。

スミスが着した後直に「シオンの都市」即ち聖徒の中央集合所が初めて明白に啓示せられました、而してインデペンデンス町は其の選ばれたる所であつて、神殿の建てらるべき場所は少し西で裁判所に近き地所でありました、猶啓示に從つて聖徒は地面を買て而して祈禱を以て其の邊の地をイスラエル人の集合する所、又新しきエルサレム市を建設する所に當てる筈であつたのです、シドニ、ギルバートは商人となるべく、又地所を買ふべき任に當りました、又エドワード、バートリッヂはイスラエル人即聖徒の裁判職に選ばれて「聖徒の承繼ぐべき地所を彼等に分け與へ」聖徒の獻納産を受け而して各々の聖徒に其の受託財産を授け、又其の時オハイオ州より來りつゝある聖徒を迎へる役に任ぜられました、而して二人の顧問が彼を補助しました。

八月一日シドニ、リクドンはシオンの地を神聖にして其を天主の御心に任せ、其の地の明細書を作り、聖徒の承繼ぐべき地所を買ふ金を得る樣に寄附帳を作れと神より命ぜられ

ました。

一千八百三十一年八月二日シオン建設の第一歩を着けました、其の日カー郡インデペンデンス町の西方十二哩程の所にスミスは、他の十一人と共にイスラエル人の十二支族を代表して、一つの丸太を据ゑて家の土臺にしました、其の折に長老リグドンは祈禱を以て其の地を神聖にして天主の御心に任せました、（其の當時コールスヴヰル町の聖徒は此處に移住して殖民して居りました、）其の翌日（三日）に神殿を建つべき場所を成聖しました、四日にはカー郡ジョシュア、ルーイスと云ふ人の家で教會の第五回の大會（シオンに於ける第一回の大會）を催しましたが、聖徒は大抵これに臨みました、其の折に啓示が與へられました、該啓示には十誡の或る部分が繰返され、又安息日に關することと及び或る長老がカートランド町へ歸ることに就ての教がありました、其の長老の中にはジョセフ、スミスとオリヴア、カウドリとシドニ、リグドン等がありました。

八月九日天主の言葉に從つて預言者スミス及び十人の長老は東の方へ出立しました、此の面白き多事る旅の中に長老は訓誡と忠告に滿てる二つの啓示を授けられました。

二十七日無事カートランド町に到着しました。

斯て開化したる土地の西隅にシオンの場所を定め、之を神聖にして天主の御心に任せ、此處に町を建設し、又神殿の場所を選びました、而して殖民的聖徒の大勢は此の「約束せられたる土地」に來つゝありました、聖徒は此の西方の未開地に於て己が神の「都市」を建設することを欲しましたが、此の目的を達するには幾多の失望と困難に出遇はねばなりません。

第七章　カートランド及び東方に於ける進歩「萬人の異なれる救、迫害、南北戰爭の預言

其の後預言者スミスはシドニ、リグドンの補助を得て、前の年十二月以來一時止めて居つた聖書の訂正を繼續せんとて、其の妻と死んだ孖子の代に貰つた二人の赤子（孖子）を作ひて、一千八百三十一年九月十二日ポルティジ郡ハイラムと云ふ靜なる町へ移り、ジョン、ジョンソンの家に滯在致しました、ジョン、ジョンソンは教會の會員で、後使徒になつた

ルーク、エス、ジョンソンとライマン、イー、ジョンソンとの父で、又後使徒となつたオルソン、ハイドの舅でありました。

此の靜な所で聖書の訂正に從事せる間にスミスは教會を導く爲め多くの必要で重大なる啓示を受けました、十一月「天主が教義及誓約と云ふ本に付ける序文」及び「附錄」と稱する啓示は與へられました、同月の末頃ダブルユ、ダブルユ、フェルプスが教義及誓約と云ふ本及び他の書物を印刷する準備をする爲にジャクソン郡へ行きましたが、其の後オリヴア、カウドリとジョン、ホヰットマールも其處へ行きました其の當時新約全書ヨハネの書いた默示錄及びパウロの書いた哥林多前書第七章十四節等に關する說明と教會の各監督會に就ての教を含む啓示が授けられました、十二月四日にはニユエル、ケー、ホヰットニがシオンのカートランドステーキ部の第二代の監督に選ばれました。

當時末日聖徒の宗教上の多くの教理の基礎たる教が天より示されました、即ち異象に於て「沈淪の子」を除き一般の人々は皆慈愛に與りながら正義に遵ひ、神の審判を受け、キリストの福音に對しての忠實と服從及び己等の智識と功德に因つて各自己の行爲に相應

して異なれる榮光を以て救はれると云ふ敎が示されました、凡ての小兒は浸禮を受けずに――キリスト――の代贖罪の血によりて救はれるのである、又縱へ神の掟法を知らずに死せし異敎徒も救はれる機會は有して居る、而して「地獄に投ぜられたる」惡人といへども己等の罪惡に相應せる神の永遠なる罰を充分に受けたる後は免れる望があります、如何となれば、永遠なる罰とは必ずしも永遠なる罪と云ふ意味ではないので、之は唯永遠なる神が加へさせ給ふ罰であると云ふことであります、神の子イエス、キリストが殺された後其靈は、死せし人の靈の繫がれたる獄に入つて福音を宣傳へ給ふたのです、故に其の靈はイエスの敎を信ずる機會を得、且肉體ある人と同じく審判を受ける樣になるのです。

預言者スミスは著述の仕事以外に熱心に敎導して働き、屢大會へ列り又或は言葉を以て或は書を以て聖徒を敎へました、併し此の間迫害は更に止まずして、背敎者エズラ、ブースはスミス及び「モルモン」敎徒を非難する手紙を九本書いて「オハイオ星」と云ふ新聞紙に投じました、其が爲に預言者及び敎會に對して大なる偏頗と迫害が起りました、一千八百三十二年三月二十五日の夜にハイラム町に於て、預言者スミスとシドニ、リグドンは

暴徒の爲め酷い憂目に出遇ひました、暴徒はスミスの着物を剝ぎ體にタールを塗つて彼を打擲いたり又一罎の硝酸を飲ませんとしました、併し其翌日スミスは負傷しながらも大なる集會で說敎致しました、而して前夜彼を虐待した者は多く傍聽しました、其の日スミスは三人の改心者に浸禮を施しました、シドニ、リグドンは其の暴行の爲め暫くの間氣が狂つて居りました、併し暴動は益々盛になりつゝある故預言者スミスは此處を去る方が善いと考へました。

四月に再びミスウリ州へ出立したが、途中でシドニ、リグドンと總監督ホヰットニは追ひ着いて來て彼と同伴しました、而して彼等は暴徒を避けんが爲め迂回をして來ましたが、スミスの妻エンマがハイラム町を出づる前に孖子の中一人が死にました、其はスミスが暴行に逢つた夜屋外へ出された爲め氣候に傷められたからです、此の子は敎會の第一の殉敎者と云ふても差支はありません。

預言者スミスが四月二十四日ミスウリ州インデペンデンス町に着いた時聖徒に善く迎へられましたが、既に敵は聖徒を輕蔑し苦めて居つた故、後には彼等をジャクソン郡より殘

酷にも放逐することに到らんことを悟つて大に心を痛めました。

スミスは聖徒の家を訪ね廻り、彼等に教へ、二つの必要なる啓示を受け、又教義及び誓約と云ふ本を三千部印刷させました、此の邊の聖徒はスミスが大神權を有する人の司なることを認めました、(一月二十五日オハイオ州アマースト町で開かれたる教會の第七回の大會に於いてスミスは選ばれて大神權を有する人の司にせられました、)五月の初にジョセフ、スミスは此の二人の友人と共に復カートランドへ出立しました、併しインジアナ州に於て總監督ホキットニが足を挫いたので一ケ月程グリーンヴヰルに滯在しました、此所に居る時にスミスは毒を飲ませられ、辛じて癒りました。

六月にカートランドに着くやスミスは聖書の訂正に從事しました、一千八百三十二年十一月三日に彼の子ジョセフが生れました、十二月に「戰爭の預言及び啓示」が與へられました、是は合衆國の北の州と南の州との大なる爭鬪即ち南北戰爭のことで其の預言が文字通に實現されたのであると末日聖徒は斷言するのであります。

「モルモン」教會は段々盛大になつて合衆國及加拿太の諸所に枝教會を立てました、一千八

百三十二年と一千八百三十三年とにかけての冬に預言者の學校を設け、又カートランドに於て神殿の經營を初め、翌七月二十三日に其の土臺の隅石を据ゑました、一千八百三十三年二月二日に新約全書の訂正が出來上つたので、之を封じて再びシオンで開けることに致しました。

當時に教會に對して大なる價値ある啓示が授けられました、其の中に「智慧の言葉」と云ふのがあります、其の「智慧の言葉」の要領とは第一、一切の酒類、茶、珈琲、煙草を用ゆべからず、第二、饑饉及び冬期を除き肉食はなるべく節すべしと云ふことです。

一千八百三十三年三月十八日教會の管長會は始めて組織されました、ジョセフ、スミスは大管長となり、シドニ、リグドンは第一の副管長となり、フレデリック、ジー、ヰリアムスは第二の副管長となりました、管理することに於ては此は最高權を有する定員會であります。

教會はカートランドと東方とに於て盛になつて來ました、即ち一万一千弗以上程の地面が買求められまして、此處には市を廣く且美しく建設すべき計畫であり、工場や製粉場や

又役所等を建つて各種の産業が營まれました、要するに聖徒はミスウリ州に於ける「シオンの地」の將來の發展を暫く此處に待つのでありました。

第八章　ジヤクソン郡より聖徒の放逐

斯く繁榮になりつゝあつたのに一千八百三十三年九月の初にミスウリ州の聖徒よりの使者なるオリヴア、カウドリがカートランドに來てジヤクソン郡に烈しき騷動及び迫害が起つたと云ふ凶報を齎しました。

其の時にミスウリ州の聖徒は凡一千二百人あつたが、移住者は益々殖えて居りました、聖徒は其の買つてある土地の便利を宜くする爲に樣々の建物を立て、垣などを拵へ、又工業を盛にし、而して年々尚豐な收穫があつたのでありました、一千八百三十二年六月にはダブルユ、ダブルユ、フェルプスの編輯する「宵と曉の明星」(Evening and Morning Star)と云ふ新聞が設けられました、又六十名の長老の行く學校があつて、パーリ、ピー、プラットは其の校長でありました、其の邊に於ける彼等の傳道も善き結果を與へました、此等の聖

徒は非常に儉かにして能く働き、己の仕事を自ら爲ました、即ち他人のことに容喙せず自己の任務を重じ、能く之を果したのであります、此は「モルモン」教徒に於ける格言の一つであります、無論人間は不完全なる者であるから彼等の中には過失に陷りし者もあれば、又無分別なる者もありました、或る者は己等の思想のみに溺れて、言ふ可からざることを言つたり、他教徒の氣に障ることを公言したりする者もあつたでせう、併し若し斯云ふ人があつたならば、夫は己の宗教の教義に逆つたのです、何故ならば萬民と平和に住むべしと云ふのが此の教會の教であるからです、要するに聖徒は皆法律を守る穩なる市民でありました。

此の時「モルモン」教徒を放逐す可き法律が無かつた故、彼等の敵は亂暴にも法律の有無を問はず、聖徒を追拂ふことゝ定めました、此年（一千八百三十三年）四月「モルモン」教徒を除く方法を講ずる爲に相談會が催されましたが、何の定まる所もありませなんだ、併し七月の半に再び開かれた會には三百人の人がインデペンデンス町に集まり、「モルモン」教徒を以て、神を瀆す者とし、彼等は自ら奇蹟を行ふと稱し、或は病を癒し、或は惡鬼を逐

出し、又は黒人の奴隸及び亞米利加土人に干渉し、進んでは、土人の國を以て、彼等が天より受けたる承繼ぐべき地なりと揚言する等のことを咎む可き點と見做して此等のことを數へたる宣言書に調印致しました、同月二十日五百人の暴徒は集合して上記の點の外尚他の咎を加へて、「明星」と云ふ新聞の發行を止め、一切の「モルモン」敎徒を直ちに追拂ひ、且將來一人も其の邊に移住する事を許さぬと云ふことを決議致しました、其所で此の決議を「モルモン」敎會の司等に知らせる委員を選んで、之を遣しました、併し其の司等は熟考するため、一時の猶豫を願ひました故、暴徒は大に怒り、直ちに出版所に寄集まり、其を打破りて種々の道具を道路に投げ散らしました、色々のこともありましたが例之へば總監督パートリッヂの衣服を剝ぎ、タールを體に塗り、鳥の羽根を之に付け、或は外の聖徒を嚇し苦めたり致しました、此の無法なることをした人の中には、牧師もあり、また名高き公民も居りました、副知事エル、ダブルユ、ボッグスの如きは或る「モルモン」敎徒に向つて「汝等は今や我がジャクソン郡の男子が如何なる人なるかを知りしならん、汝等は此の土地を去らざる可からず」と申した位でした。

此の暴行より三日後、以前よりも一層大きな集會があつて、新しき委員が選ばれました、其所で聖徒は己の自由を失ひ、又暴徒と對抗することは無益であると云ふことを知りましたから、暴徒と和睦の相談を致し聖徒の半數は一千八百三十四年一月一日までに、又他の者は四月一日までに此の土地を去ることにし、又移住を止め、新聞「明　星」の出版を止めることに致しました、其の代に暴徒の委員はこれより聖徒を苦めぬといふ約束を致しました、而して此等のことは暴徒の會に於て是認されました。

上記のことはオリヴア、カウドリがカートランドに參つて其の聖徒に告げたことの大體であります、預言者スミスは此に對してこの憐む可き聖徒を慰め、訓誡する文を書いて、使者に持たせて遣りました、併し此の使者が九月の末頃ミスウリ州に到きました所、暴徒は其の盟約に背いて更に暴逆を聖徒に加へて居ると云ふことが解りました。

『「モルモン」教徒を去らしむ可し』とは其の時一般の叫でありました、聖徒は其の州の知事に兵力の助を願つたが無益でありました、彼は法律に訴へることを勸めましたが、其の結果は唯災難を更に多く引起すに至つて、恰も火藥に火を投ずるが如きものでありました、

何となれば人民は一同此不幸なる特種の民に向つて干戈を動かし、十月卅日卅一日及び十一月一日には最も烈しき攻撃があつたのです、暴徒は男子を打擲し、家の屋根をはぎ、財産を破り、或は女小供を野外へ追出しました。

四人の聖徒は治安保護狀を交付せられんことを巡廻裁判所判事に願ひ出でました、併し彼は暴徒を恐れて之を拒み、唯若し暴徒が再び攻めて來たならば彼等を「射擊す可し」と勸めました、夫故次に攻擊された時には聖徒は敢て人を殺すを好むのではないが止むことを得ず其の勸に從ふ支度をしました、十一月四日に一つの衝突がありました、「モルモン」敎徒の中一人は殺され、數人は負傷をしましたが、暴徒の方でも二人殺されました、之が爲に「モルモン」敎徒一同蜂起したと云ふことが方々に言ひふらされました、十一月五日副知事ボッグスは此の言ひ觸されたる騷動を鎭める爲に州の民兵を召出しました、其の爲に事體益々不穩と成り、聖徒は一兵をも得ざるに暴徒は民兵を得ることを許されました、ボッグスは暴徒が軍隊に入ることを許し、「モルモン」敎徒に向つて武器を捨てることを要求し、殺人罪に問ふ可き者として數人の聖徒を捕へ、他の者には當地を退く樣に命じました、

併し其の暇もなかつたのに、大佐ピッチャー（殘酷なりとて後に軍法會議に附せられたる人）は、暴民を率ゐて備なき聖徒を襲ふて實に名狀す可からざる殘酷なことを致しました、歷史家ホヰットニ曰く、「武器を持てる無賴漢の數隊は全地方にある住家に侵入し、或は女小供を恐怖させ、又は其の防禦なき民を今直に逃げざれば殺して了ふと嚇しました、そこで放逐に逢ひし人々はミスウリ河に添ふてある寒き原を十一月の風に凍え、大雨に濡れて、食もなく宿もなく、無念の淚に咽びつゝ諸所を徘徊ひました、家族の者は皆散々に成り、夫は妻を尋ね、妻は夫を尋ね、又其の子を見失ひたる兩親は子供が既に死んで居るとも知らずに尋ね廻りました」と。

斯くて一千二百人乃至一千五百人程の人々はジャクソン郡に於ける己が住居及び財產を剝ぎ取られて了ひ、三百戶の家は燒かれ、又十箇所の殖民地は全く荒されて了ひました、彼等は大抵ミスウリ河の對岸なるクレー郡に難を避け、其の邊の人の親切なる待遇を受けました。

聖徒は其の州及び合衆國の最も權力有る主治者に救助を願ひましたが、大統領は州の官

吏よりの請願書がないので仲裁することが出來ませんでした、且州の官吏自身は暴徒を恐れたのか、又は之に加擔したのか、何等の救助も與へて呉れませんでした、無論人望あり、又偏頗のない人々は其の亂暴が大にミスウリ州の名譽を汚したものであると思ひましたけれども、如何ともするを得ませんでした、而して聖徒は今日尚己の約束されたるシオンの正當なる承繼ぐべき地を奪はれた儘、何等の報償を得ずに居るのです。

第九章　高等裁決院の創立及び其の任務、スパールデング譚

十一月の末ミスウリ州よりの使者はカートランドに着きまして、彼の地に於ける暴逆の有樣を詳しく報知しました、併し此時にはカートランドに於ても萬事不穩であつて、預言者スミスは訴訟の爲に甚だ心勞し、又日夜腹心の友人が警戒をせねば謀殺されはしないかと云ふ心配もありました、其の外に樣々の困難があつたが其の一つは醫師ハルバートが僞の話を以て所々に演說したことより起つた抵抗でありました、此の醫師のハルバートは不義の爲に教會より放逐された者であつて、モルモン經典がスパールデング譚より出たと云ふ

論を起しました、併し今日では此の教會以外の人でも博識の大家は其の論の僞なることを承認して居ります、固より此の教會の會員は常に其の僞*なることを知り且斷言して居つたのである。

*一千八百八十五年二月五日發刊の新聞紙「紐育オッブザーヴァー」の記事に據ればオーバーリン大學校の校長ジエムス、エチ、フエアチャイルドはライス氏がスパールデング譚を發見したと云ふことに就て曰く「モルモン經典がソロモン、スパールデングの書きたる譚の原稿より出たりと云ふ論は取る可からず（中略）ライス氏と余及び他の人は之をモルモン經典と比較したるが、大體に於ても、又細き點に於ても、更に似れる所なく、兩書中共通する名も事件もなきが如し、（中略）故に若しモルモン經典の本源を知るの必要あれば他に之を求めざる可からず」云々と。

此の時からカートランド市に「宵と曉の明星」の印刷機を置くことに極めたがオリヴア、カウドリは其の主筆となりました。

一千八百卅四年二月十七日にもう一つ緊要なることをしました、即ち此の日教會の第一の高等裁決院は創立されました、此の裁決院は十二人の大祭司からなりたつて居りまして外に彼等と等しき位の人々三人あつて此の裁決院を管理します、今日ではシオンの五十五

のステーキ部には各々一つの高等裁決院がある、ステーキ部長會は之を管理する人であ*ります、彼等は三人の大祭司であるが教會の管長會に責任を負ふて服從す可き者です。

*ステーキ部と云ふのは教會の一部分です、三人の大祭司の會は之を管理する、ウワード部と云ふのはステーキ部の一部分です、監督と二人の副監督は之を司る、巡教部と云ふのはウワード部の部分です、之を巡廻する教師等は教會の會員のことに注目します。

此の高等裁決院の職務は會員がウワード部の監督の裁決で滿足しない時に巡教部の教師等が控訴する事件を取扱つて會員間の葛藤を無くして平和にすることでありま す、併し又高等裁決院には其自身の管轄もある、此の裁決院は啓示に依りて任ぜられ、其の創立の目的は、聖徒間の爭や不和を防ぐ爲てあります、又「モルモン」教會の司等が教徒間に起る忌むべき而して大なる出費を要する訴訟を無くして、會員の葛藤を正すのに補助を與へるのである、此の裁決院の加へる最も重き罰は教會より除名することであるが、監督裁決院の加へる最も重き罰は會員たること即ち教會と交通する權利を姑くの間停止することである、又場合に依て除名することが出來ます。

教徒の葛藤を治める方法は斯樣でありま す、若し人が自分の氣に障ることをした時には、

一人で其の人に面會を求めて彼の過失を覺らしめる、其の人若し懺悔すれば仲直りをするのです、併し若し懺悔しないならば證人を連れて行きます、其でも尚未だ和解せずんば監督裁決院に判決して貰ふことが出來ます、尤も此の裁決院の判決に滿足せざる時は原告又は被告何れにても高等裁決院に控訴することが出來ますが、此の院の判決は終審で御座います、若し之に從はねば其の罪のある人が敎會より放逐されることになつて了ひます、（馬太傳十八章十五節至十七節）。

第十章　シオン陣(Zion's Camp)

一千八百卅四年の春の初にミスウリ州の聖徒よりの使者なるパーリ、ピー、プラットとライマン、ウワイトとは放逐せられたるシオンの民に就て預言者スミスと相談せん爲にカートランドに來ました、そは若し出來るなら聖徒を救助し、彼等の權利を恢復する方法を企てる爲でありました、此の相談の結果尚一遍東方へ人を遣すことになり、又終に凡そ二百人集まつてミスウリ州の聖徒に加勢する爲糧食を積んだ馬車を二十臺持つてミスウリ

へ行くことになりました、而して彼等は若し出來るならば聖徒の權利を恢復する樣に知事を勸誘するはずでありました、其ばかりでなくシオンの地を請け戻すこと、即ち聖徒の放逐されたるジャクソン郡に在る舊地を再び得るのは彼等の任務でありました、此の仲間は兵團に組織され、シオン陣と名けられ、預言者スミス(大將)に導かれました。

五月五日に百人の男子がカートランドを出てミスウリ州へ出立したが途中で他の人が之に加つたので其の數が二百〇五人に殖えました、此の一隊は青年及び中年の人々より成り立つて東方の枝教會の精粹であつて、後で教會に勢力有る人と成つた多くの長老も其の中にありました、其の最も名高き者はブリガム、ヤング　ヒベル、シー、キンバル　ウヰルフォルド、ウッドラフ　オルソン、プラット　ジエデダナ、エム、グラント　ジヨルヂエー、スミスで御座います。

彼等の來ること並に其の力や目的が過大に報知された爲にミスウリ州の人々は非常に騷いで來て聖徒を伐つ爲に武器を備へました、該陣がフヰシング河の岸に止つた或る晩に烈しき風雨の爲に渡れない程河の水が殖えたので敵から擊たれませせなんだ、聖徒が知事に兵

の援助を願つた所が、初には放逐されたる聖徒が元の住所を恢復する爲に民兵を召集めることを約束しましたが後では彼等が恢復した後はもう彼等を守る爲に兵力を置く權威は我に無いと言ひました、之を言換れば何もして吳れないと云ふことです、其の後重なる市民は陣を訪問して、預言者スミスの目的は平和にすることであると云ふことが解りました、彼スミスの希望は聖徒と其の郡の人々との縺をといて媾和することでありました。

一度陣の人の中に鬪爭が起つたが預言者スミスは其の違背及び抵抗をした人々を嚴しく叱責しました、又彼等の罪の爲に陣に罰が當ると預言しました、此の預言は實現になり、六月二十二日に虎列拉病が彼等の中に起つて六十八人煩ひ、十三人死にました。

陣は表面的別に緊要なることを成就致しませんで、六月二十五日にラッシュ小川と云ふ所で解散しました、「モルモン」敎徒を司る役人とジャクソン郡の男は談判しました、それは其の郡の男は聖徒の追出された地面を買はうと云ふたが「モルモン」敎徒は謝絶致しました、何故ならば此の聖なる承繼地を賣り捌くことは瀆神の罪であると思ふたからです、併し其の代に聖徒は平和に自分等の隣人となつて住みたくないと云ふ人があるなら、其の

地面を買つて一年の中に代價を拂ふと約束しました、然るに其の反對者も亦之を斷つて聖徒は遙なるクリントン郡の向の野原に新しき住家を搜したら宜からうと云ふことを諷しました。

聖徒はジャクソン郡に有して居つた所有物の爲に何にも取らないで、只嚇され、打ち拷かれたばかりでありました、クレー郡に平安な住所を求めて三年間繁昌しました、其の間カートランドの事體は漸く多くの神聖なる惠を來すと同時に殆んど教會を破壞せんとせし一千八百三十七年の經濟界の恐慌と會員の墮落とを促しつゝありました。

預言者スミスと其の同僚とは一千八百三十四年七月三日にクレー郡に高等裁決院を組織して又ミスウリ州にて教會のことを司る爲にステーキ部の部長會を選びて後、七月九日にカートランドへ歸りました。※

※ステーキ部長會の名はデーヴィド、ホヰットマール　ダブルユ、ダブルユ、フェルプス　ジョン、ホヰットマールでありました。

第十一章　使徒及び七十人會員の選定、學問、アブラハム書、カートランド神殿

シオン陣は、其の起された外面の目的を達しなかつたとしても、陣に入つた人の元氣を試すことには、成功したと云ふことを打ち消すことは出來ません、若し雨に降られ、惡しき道を病氣や死に曝されて二千哩以上もある旅途を徒歩することが出來ますなら强氣で堅忍の人であるといふことは、十分解ります、此は多分預言者スミスの一つの目的であつたであらうことは、彼が啓示に從つて行つた緊要なることを見て察することが出來ます、其の緊要なることゝは十二人の使徒を選んだことである、彼等は權威に於ては管長會の次に居る者であります。

一千八百三十五年二月十四日に、シオン陣の存命者を集め、モルモン經典の三人の見證者は彼等の中より十二人を選びました、而して管長會は彼等を一々祝福して、敎會の使徒としました、此は皆前の一千八百二十九年六月に受けたる天主の言葉に適つて居るの

です。

十二人會の會員の名はトマス、ビー、マーシュ　デーヴイド、ダブルユ、バテン　ブリガム、ヤング　ヒベル、シー、キンバル　オルソン、ハイド　ウヰリアム、イー、マクレリン、バーリ、ピー、プラット　ルーク、ジヨンソン　ウヰリアム、スミス　オルソン、プラットジヨン、エフ、ボイントン　ライマン、ジヨンソンであります、彼等は福音を諸民に宣傳へる爲の格別なる證人として選ばれました、此の外に此の定員會の義務は今日の如く教會を強め盛大にし、又管長會の命に從つて教會の事務を取扱ひ、凡ての役人を選び此等を整理することでありましたが、福音を宣傳へたり執行したりする爲に七十人會の人を任命することが出來ます、此の會は管長會と等しき權威を持つて居り、管理することに於ては其の次の會であります。

十二人會を創立してから後に矢張シオン陣の存命者の中より人を選びて第一と第二番目の七十人會を組織しました、「此の定員會は其の名に由つて解る如く七十人の會であります、一つの定員會には七人の會長があります、第一の定員會の會長等は教會の一切の七十

人會を管理する總長會であります」一千九百六年四月までに斯くの如き會は一百四十八程組織されました、而して若し必要があらば、「教導の爲め十四万四千人が選ばれて七十人會々員とせられるに至るまで」續いて此の定員會を組織するのであります、(一千八百卅五年五月二日に預言者ジョセフ、スミスの書物の內)。

五月の初頃十二使徒會々員は出立して始めて東方の州々へ傳道に行きました、彼等の義務は道を宣傳へ、浸禮を施し、諸所に居る聖徒に西方へ行く樣に勸め、又ミスウリ州で地面を買ひ、カートランド神殿を完成する爲の金を得ることでありました。

其の頃普通の學校及び神學校は幾個も立てられて、敎會の重立つた長老は能く入學しました、一千八百三十五年より三十六年に亘る冬にジョシュア、セクサス氏はギリシャ語の一科目を敎へました、ジョセフ、スミスは學生の進步に就て、言ふに、原文にて神の敎を悟り得る樣に神が不思議に彼等の腦を啓き給ふたと云ひました、預言者スミスは最初に無學であつたけれども非常に學問が好きで、三十歲の時には語學や哲學や又は政治學に達して居ました、スミスは何時も文明並に發達を辯護したのです、彼のみならず其の後任者も又

教會を司る一般の役人も矢張其の如くであります、併し「モルモン」教會の敵は其は偽で、「モルモン」教會は無學を主張し教育に反對すると往々斷言します、乍去預言者スミスの學問上の教訓即ち「人は無學にては救はれ得べからざるものなり」、「人は智識を得るに隨つて救はる」、「神の榮光は才智なり」又「汝が最も善き書を以て智慧の言葉を捜せ、信仰及び勉強によりて智識を得よ」と云ふことは末日聖徒の實地に守る金言であります、然れば敵の斷言する所の偽なることは能く解ります。

其の頃※スミスは埃及の墳塚裡より見出された蘆書（蘆書と云ふのは古の人が文字を書くに用ゐたる草の一種で又是で書いてある文書をも云ふ）中の「アブラハム書」を翻譯して後「貴重の寶珠」（Pearl of Great Price）と云ふ書中に之を入れました、一千八百三十五年八月に預言者スミスは政事に就て己と又聖徒との意見を宣べました。

*一千八百三十五年十二月の千歳の星と云ふ雜誌の第十五卷にあるジョセフ、スミス自傳に依れば一千八百三十五年七月三日にマイカル、エチ、チヤンデラーは埃及人の木乃伊を見せにカートランド町に來ました、四人の死骸があつた、又象形文字及び畫文の書いてある蘆書が二三卷ありました、其の後カートランドの或る聖徒

が其の木乃伊及び蘆書を買つて置きました、而して私（ジョセフ、スミス）はダブルユ、ダブルユ、フエルプスとオリヴア、カウドリとを書記として其の文字及び畫文を飜譯し始めました、一つの巻にはアブラハムの書物があり、他の一つには埃及のヨセフの書物等があることが解つて非常に悦びました、此の巻物を開いて穿鑿すれば愈々完全なる説明が出來ます」と。

シオン陣の人の留守中カートランド神殿を建てる働は殆んど止んだが其の人が歸つてから直ちに又奮發と根氣とを以て其の働に取りかゝりました、何故ならば聖徒は神殿が出來上つてから己等に約束されたる精神上の恵福を受けることを待兼ねて居ましたからです、預言者スミスは其の仕事を掌り、人望有る長老等も力を協はせて神殿の成功を急ぎました、漸く一千八百三十六年三月二十七日に神殿は献殿されましたが、内部は悉く出來上つて居らなかつた、此の建築に三年間と金が七万弗（十四万圓）かゝりました、此は近世に神の命令に從つて建てた神殿の第一であります、今日の聖徒が神殿を普請する重なる目的の一つは即ち死者に代つて浸禮を受ける儀式及び其の他死者の爲にする儀式は其の當時に未だ聖徒に啓示されなかつたのであります、其故にカートランド神殿には浸禮槽が無か

た、而して其の當時に於ける神殿の重なる目的は其所で敎會の外の儀式を執行し、精神上の惠福を受け、又神權を有する人々が神學を學び集會し、又相談せんが爲でありました。神殿を神に献げた日に一般の人が喜びました、其の後多くの偉大なる異象が現れて馬拉基書四章に書いてある預言が實現になりました。

第十二章　クレー郡より聖徒の出發、カートランドに於ける聖徒の墮落、經濟界の恐慌、英國傳道

偖又翻へてミスウリのことを記すれば、聖徒はジヤクソン郡より追出されてからクレー郡の人々に幾等か能く迎へられて三年間儉かにして出精した結果、其の原野が豐に榮えて來、東方からの移住民の爲に彼等の數は大に殖えました、其でも只假に住む所だと思つて居りました、何故と云ふに放逐された地の恢復を望みましたからであります。聖徒は穩に且勤勉して他人のことに容啄せず自己の任務を重じて能く之を果したのであります、一千八百三十六年の夏まではクレー郡に居つても差支がなかつたが、其の時に暴

動が復始りました、前の亂暴は唯一時止んだばかりで、ジヤクソン郡の人は徒黨を組んで爭や騷を起す爲に河を渡つて來て聖徒を輕蔑し其の所有物を掠奪しました、クレー郡の平和なる人々は復前の樣な騷があるだらうと心配して一緒に會合して聖徒に住む所を他に求める樣に勸めることに決めて、先づ聖徒が入つて來た時の有樣を彼等に告げて其から聖徒にそうする樣に勸めました、聖徒に對する差支もあつたが大抵些細なことでありました、聖徒の言葉や習慣や風俗はミスウリ州の人と違つて居り、又非奴隷主若くは奴隷廢止論者として非難されました、州政府も彼等を喜びませんでした、而して人民は前の騷があつた時に聖徒を惱ましたボッグスをミスウリ州の知事としました、又彼等の最も激しき敵なるルーカスは小將となり、ウキルソンは旅團長となりました、ミスウリ州の市民の大多數は此の役人と組んで「モルモン」敎徒の政權や公權や宗敎權を享有せしめないことに定め、一緒になつて彼等の公民たることを妨害せんと企てました。

斯云ふ事情の下にも聖徒は能く形勢を考へて友情の爲に何時もの通りクレー郡の公民と平和を保つことに極めました、而して始に助けて呉れたクレー郡の人々に謝意を表する爲

め大なる財産を抛つてクレー郡を去つて了ふことに決心致しました。
而して一千八百三十六年九月にクレー郡の東北のレー郡ショール小川地方なる新しき住所へ出立しました、其の當時此の所は野原でありました、同年の十二月にミスウリ州會は聖徒の願を聞き届けて此の地方を別にしてカルドウヱル郡としました、聖徒は澤山に揃つて此の所へ移つて大抵地主となつて、一千八百三十六年より三十七年にかけての冬にファー、ウェストと云ふ市を造りました、後に至つて郡役所が其所に立つ様になりました、法律に依て選擧されたる市と郡の役人は大概「モルモン」教徒でありました、斯くて追拂はれたる人々は此の新しき地方に姑くの間平穩に住んだが其の人數は忽ち殖えて隣のデヴィエス郡及び其の他に寄留地が出來ました。
又東方に在る教會の事を記すれば左の如し、カートランド神殿内に於て偉大神聖なる異象を受けました後カートランドでは凡ての業が上景氣に成つたので人々は繁榮して居ると思ひ、非常に誇つて宗教に對しても多少冷淡になりました、其で會員と司等の中に信仰を失ふた者も餘程ありました、投機熱が會員間に起つて多くの者は色々の方法で財産を殖さう

と圖りました、而して當時は不動產の投機事業が合衆國中に流行つて居りましたから敎會の人々もする樣になりました、其の結果は邪推、疵搜、不和、分裂、敎會を罷めることが續いて起つて終には財政上の困難に陷りました、聖徒の利益を思つて前にジョセフ、スミスが立てたカートランド保產組合銀行も其の下役人の投機や詐僞や奸計の爲に破產し、其の影響は全體に及んで多くの人々が全く零落れて了ひました。

　此の時から人々が敎會を去りかけましたのです、不平を懷ける敎徒は預言者スミスが避けんと最も盡力したにも拘はらず預言者の其の忠告を聽かない爲に招いた零落を恰も彼が起した災難かの如くに思つて烈しく預言者スミスに敵對しました、使徒會凡そ二分の一、管長會の一人及び多くの重立つた長老は不忠にもスミスを「墮落したる預言者」であると斷言し、自分等は敎會を罷めたと云ひました、其で敎會が潰れさうに成りました。

　一千八百三十七年六月一日此の大騷の最中に天主はスミスに敎會の爲に何かしなければならぬと云ふことを敎へ給ひました、此まで宣敎師が外國に行つたことは無かつた、唯東方の州々やカナダや合衆國の西方の或る狹き地方に傳道した而已であつたが此から英國に

傳道を開くことに極めました、而して使徒ヒベル、シー、キンバルは初めて此の傳道を開く爲に選ばれ、同役の友人のオルソン、ハイドは其の手傳人と成りました、其の後ウヰラード、リッチヤードスも又選ばれ、一千八百卅七年七月一日に此等の人々は一緒に紐育から出帆して英國に布教に行きました、彼等は唯福音の原則のみを敎へる樣に言付けられた故、夫ばかり敎へて善き結果を得ました、一ヶ年經ぬ中に凡そ二千人の敎徒が出來て、二十六程の枝敎會を創立しました、人がどし〳〵と傍聽に來り、時としては町の人擧つて改心したこともありました、此の傳道を開いたことは敎會の歷史上の大事件の一つである、即ちこれは將來に英國にて凡そ七萬五千人が敎會に入つて亞米利加へ移住することに至る基であります した、此の使徒等は歸國の途一千八百卅八年五月十二日に紐育に到着しまして、其の所に一大枝敎會の在ることを知りました、此はパーリ、ピー、プラットと其の兄弟オルソン、プラットの働に依りて出來たのです、パーリ、ピー、プラットは其の前の年に「警戒の聲」(Voice of Warning)と云ふ有名な自著の本を出版しました。

海の向の英國にては敎會が盛に成つて居りましたけれども、カートランドでは敎を棄て

ることゝ迫害と亂と暴動と云ふ樣な教會を倒さんとする力が働いて居りました。

ミスウリ州の教會にも不平が全く無いではなかつた、枝教會の役人が人々の信用を失ひました、故、預言者スミスは急いでファー、ウェスト町に行く必要があつたので彼は一千八百三十七年十一月一日に其處に着きました、スミスはミスウリで大會を催して聖徒の仲を調和してから十二月十日頃カートランドへ歸りました、其留守中カートランドの或る重立つた長老が彼を倒して其の代にデーヴイド、ホヰットマールを任じやうと謀り、其の中には五六人の使徒又はモルモン經の或る見證者もありました、若しブリガム、ヤングが忠義でなかつたならば彼等の惡企が成功したかも知れませんがヤング氏が預言者スミスを辯護して讎敵の惡き目的を悉く發いて其の謀を無効にしました。

一千八百三十七年の秋にカナダよりカートランドに來ましたジョン、テイラーも（後に教會の使徒と成り、尋て三番目の大管長と成りました、）其の當時又何時もスミス及び教會に忠實を盡しました、而して、七年後カーセージ牢屋で彈丸が霰と降る中を預言者スミスと一所に居りましたし五十年後殘酷に追放され、眞理の爲に生命を捨てゝ殉教者と成

つたのであります。

ウヰルフォルド、ウッドラフも又前者の如く忠義な君子で後にイスラエル人（聖徒）の敬愛せし大管長と成りました。

ブリガム、ヤングは陰となく又陽となくスミスが神の預言者であるといふことを主張して、十二月二十二日には暴徒の勢の猛烈である爲めカートランドより行かなければ成らない様に成りました、年は改まつたけれども背教者の亂暴は依然として烈しいので、スミスは安全な地に行かなければならぬことに成つたのです、一千八百三十八年一月十二日の晩に彼とシドニ、リグトンはカートランドを出で其の翌日には彼等の家内も追及いて同行しました、彼等は武器を持てる敵に二百哩以上程追はれましたが終に三月十四日にファー、ウエストに到着致しました。

第三篇

ミスウリ州退去より預言者スミスの殉教まで

（自一千八百三十八年至一千八百四十四年）

第一章

アダムの住地なる亞米利加、虐殺、知事の發せし聖徒盡滅命令、ミスウリ州よりの放逐、ナーヴウ市の建設、奇蹟、預言及び其の實現、英國に於ける傳道、大統領への請願、

預言者スミスが逃走したと云ふことはオハイオ州に居つた聖徒全體が其の地より移住する兆でありましてカートランド町に居つた凡そ五百人の聖徒は其の後間もなく西方に移りました。

其の時ミスウリに居ました聖徒は一萬二千人以上で其の多數はカルドウエル郡に滯在して居りましたが、デヴィエス郡及びカロル郡にも盛なる殖民地がありました、デヴィエス郡に於ては最も大きな殖民地はカートランドより移住した聖徒の居留するアダム、オンダイ、アマンでありまして、後此處に一つのシオンのステーキ部が立てられました、カロル郡の最大なる殖民地はデウキット町でありました。

スミスがファー、ウェストに到着して聖徒の中に不和があると知つて不平を懷く者を敎會より除く爲め斷乎たる處置を取りました、ファー、ウェストで催されたる大會で多くの重立つた人は敎會より放逐せられ、其の中にはオリヴア、カウドリ、デーヴィド、ホヰットマール及びジョンソン兄弟等がありました、斯して後聖徒は復和合し繁昌しまして五六の訓誡的の啓示を與へられました、其の中にファー、ウェストで神殿を建築することに關する啓示が有り、又使徒の職務や彼等が大海を渡つて傳道することに關する啓示がありました、又十分の一法と云ふ掟法が與へられました、二三ケ月の間預言者スミスは著述の仕事に從事して聖徒と共に穩に住み、彼等に敎授して肉體及び精神的の幸福を得させんとして心を凝し

ました。

此の頃スミスは天主がアダムの亞米利加に住んだと云ふことや又エデンの園が今日のジャクソン郡に在つたと云ふことを己に示し給ふたと言ひ弘めました。

一千八百三十八年七月四日合衆國の誕生日即ち獨立祭の祝日ファー、ウェストで大祝がありました、聖徒は幾千人となく此に與りました、其日に神殿の土臺の石を据ゑましたが、此の神殿は出來上らない運命の物でありました、當時平和は只暫で風雨の前の平穩でありました、一兩日後雷がファー、ウェストに建てゝあつた※獨立柱に落ちて其を粉々に碎たのは將に無情なる人々の憎の雨が不幸なる聖徒に酷く降りかゝらんとする如く彼等自身の自由が剝奪される前兆でありました。

※獨立柱とは合衆國の獨立戰爭記念として、到る所、町毎に立てゝある物です。

此所の人はジャクソン郡の人の如くに「モルモン」教徒が政權を取ることを恐れました、「モルモン」教徒は己の政權即ち己の好む人に投票する所謂選擧權が有ると主張しましたが、其の土地の人々は聖徒が此の權を用ゐることを許さなかつた、此衝突の結果は聖徒全體

が冬の最中に言語に盡されぬ暴逆や窃盜や殺戮や難苦の中にミスウリ州より放逐されることでありました。

※バンクロフト氏曰く「ミスウリ州の人々は正當でも不正當でも法律の如何、合衆國の憲法の精神又は成文の如何を問はず、何所まで行つても、聖徒に政治上優勢の權を持たせないと決しました。」

此の困難は一千八百三十八年八月六日にデヴィエス郡ガラテン町で始まりました、之は州政府の役人を選擧する時のことであつて、「モルモン」敎徒十二人が投票せんと致しました、すると之に對して州會の候補者ウヰリアム、ピー、ペンイストンが愚民を煽動したので、此が爲に大騷が起りました、此の聖徒は投票をしましたが彼等の中にも攻擊者の中にも負傷をした者がありました。

此の出來事は針小棒大に報告せられ、之を口實として「モルモン」敎の反對者が一般に郡々に起りまして「モルモン」敎徒を州より追拂ふ可しと云ふ嚇を公然と言つたり、印刷したりしました、多くの人望ある市民が敎會の司等と平和の契約書を作つて署名したが此の保守的の行爲も其の騷動を鎭める功能がなかつた、ミスウリ州の愚民は聖徒と戰爭する

ことを望み、數百人デヴィエス郡とカルドウエル郡に集まり、或る者は顏にペンキを塗て亞米利加土人の風をなして、「モルモン」教徒を掠奪し、射撃し、僞の咎を負はせて牢屋に入れ、彼等の家に亂入し色々の殘害を致しまして、到底聖徒も辛抱の出來ぬ樣に成りました、斯云ふ極端に走つたので、スミスはやむなく平和及び降服を勸めないで却つて聖徒に己及び己の子供と財産とを保護することを勸めました、其で聖徒は己を保護せんとて武器を執りました、併しながらアダム、オンダイ、アマンより追拂はれ、デウキットより追拂はれ、又カルドウエル郡の邊在の町々よりファー、ウエストまで放逐せられました。

大佐ウワイト(「モルモン」教徒)は州の民兵の大將バークスより權を授けられて味方を集め、烈しく暴徒を攻め、デヴィエス郡より之を追拂ひました、其が爲に人々は尚一層激昂しました。

其の後十月二十五日にクルーケド川で復戰がありました、※大尉デーヴィド、ダブルユ、パテンはファー、ウエストの民兵(「モルモン」教徒)を率ゐて大尉ボーガートの暴徒隊を襲ふて「モルモン」教徒は復勝ちました、大尉パテンと外に二人殺され、敵には死者一人ありま

した、茲に於て暴徒の激昂は益々高まりました、以前に暴徒が聖徒を苦め、其の所有物を掠奪した時に聖徒は知事ボッグスに助を願ひましたが、ボッグスは、其は汝等と暴徒との喧嘩だから汝等自身で闘つて何とも形を付けるがよいと云ひましたが、今や聖徒が能く自ら防衛して居るのを見て己の説を變じて此の機會に乘じて聖徒に復讎せんと決めまして、十月二十七日に命令をクラーク少將に渡して成る可く早く州の民兵を率ゐて聖徒を攻めさせました、ボッグスが曰ふには『「モルモン」教徒を敵と見做すべし、若し必要ならば公益の爲に或は之を鏖にし、或は州より放逐すべし、（中略）最初にはデヴィエス郡の市民に家を恢復せよと命じてあつたが其を差置いて直ちに「モルモン」教徒を攻むべし』と、歴史家バンクロフトは斯樣に曰ひました『斯くて最初には「モルモン」民兵を助けてミスウリ州の暴徒を鎭める爲に召集されたミスウリ州兵は終には暴徒に加はつて「モルモン」民兵に抵抗したと云ふことは明である、是は聖徒が少しもミスウリ州政府や法律や國家の安寧に反對せぬに拘はらず斯であつたのである、彼等は唯州政府の許可を得て自衞したのみである』と。

※デーヴイド、ダブルユ、パテンは一千八百年頃ヴアーモント州に生れ、一千八百三十五年二月十五日(日曜日)に十二使徒の一人とせられ、一千八百三十八年二月十日(土曜日)一時の間ミスウリ州に於ける教會の管長たる職に任ぜられました、一千八百三十八年十月二十五日(木曜日)ミスウリ州レー郡クルーケド川で暴徒と戰ふた時に致命傷を受けて死にまして、翌る土曜日にファー、ウエストで葬むられました。

小將サミユエル、デー、ルーカスと旅團長モーセス、ウヰルソンはリッチモンド市で二千人の兵を集めて十月の末頃ファー、ウエストへ出立しましたが、彼等の司令官大將クラークもファー、ウエストへ行くつもりで他所にて兵士を募つて居りました。

十月三十日にニアマヤ、コームストクは二百四十名の暴徒を率ゐてハーンス、ミールといふ所で其の頃東方より移住したばかりの法律上罪の無き「モルモン」教徒男女子供合はせて二十人を虐殺して其の死體を或る井戸に入れて了ひました。

同日兵士はファー、ウエストを取り捲きました、郵便が中止されたので知事の盡滅命令の報告を知らぬ不運なる市の居留民は市を取り圍む者を暴徒だと思ふて自衞せんと致しました。

斯云ふ危急存亡の秋に「モルモン」民兵の司令官大佐ジョルヂ、エム、ヒンケルは攻圍軍

の士官に內通して聖徒に裏切しました、其の條件は聖徒の武器を取り上げ、彼等の司等をば引渡して審問と刑罰とに附し、軍費全額を辨濟させんが爲に「モルモン」敎徒の全財產の讓渡書に記名捺印させ、司等の外聖徒全體は遲滯なく州より出ることゝ致したのであります。

敎會の司等及びヒンケルの助役が件の取極を知らぬのみならず、又其を承諾しないに拘はらず、州の民兵は慘酷にも之を速に行ひました、大佐ヒンケルは州民兵の大將及び「モルモン」敎會の司等との會議を催したと佯言したが其の大將に約定したことを敎會の司等に知らせずに十月三十一日に、ジョセフ、スミス、シドニ、リグドン、パーリ、ピー、プラット、ライマン、ウワイト、ジョルヂ、ダブルユ、ロビンソン、ハイラム、スミス、アマサ、エム、ライマンを大將ルーカスの手に渡しました、すると此等の人は俘虜と見做されて十一月一日の軍法會議の判決により翌日午前八時に銃殺せらるゝことになつたが、大將ドニファンが人情に訴へて故障を申立てたので、宣告を執行しませなんだが、其の代に大將ルーカスは彼等を隣郡に連れて行つて人々に見せました。

聖徒は銃劍を閃かすところの暴徒に迫まられて、心ならずも己が財産を讓渡す證書に記名捺印することを餘儀なくさせられました、是のみならず、市は軍隊と強盜の聯合したる者の手に渡されました、すると其の惡者は防禦なき市民の財產を掠奪し、彼等に對して名狀すべからざる驚くべき罪を致しました。

十一月四日大將クラークは此處へ來て彼等の行爲を是認しました、クラークは聖徒を集めて、曾て得意てやつた演說の筆記を朗讀しました、其の內には知事の盡滅命令は、自分が必ず之を實行せんと決心せることや、又聖徒はミスウリ州を立去らざるべからざることや、及び敎會の司等は必ず銃殺さらるべければ決して再び其の顏を見ることを期すべからずといふこと等を公言いたしました、而して彼の下知に依りて外に五十人は捕はれたが此等の人々は直後に赦されました、ジヨセフ、スミスと其の兄なるハイラム、スミス及びシドニ、リグドンとライマン、ウワイトとパーリ、ピー、プラットと外に四十五人はリッチモンドで裁判の結果として牢屋に入れられました、其の犯罪は謀殺、放火、叛逆罪及び刑事訴訟法の殆んど總ての罪でありました。

一般の人々は聖徒に對して嫌惡の念を懷いてをりましたから、彼等の友人でも助けることが出來ませんでした、*聖徒の辯護士大將ドニフアンは「最早辯駁の要なし、何となれば此の裁判官は既に汝等を獄屋に投ぜんと決心されてある、其故、若しも五百人の天使が天降りて汝等の無罪なることを斷言するとも少しも効果なからん」と言ひました。

*公判にて聖徒の叛逆罪なることを確めるところの證據の一つは彼等が末日に神の國が建てられることに關する預言（但以理書二章及び七章）を堅く信ずることでありました、彼等の謀殺罪は暴徒と戰つたことであつた、併しながらミスウリ州の人々が擅に「モルモン」教徒の所有物を掠奪し、又彼等を虐殺したことは全く之を不問に附したことでありました。

スミスと其の友人等とは十一月十一日より二十八日まで裁判せらるゝ間、夜も日も獄屋の裡で絶えず番人の卑劣なる話を聞く外は何ものもなかつた、此の番人等は、己等が曾てファー・ウェスト市で聖徒を虐殺し强姦したことを反覆して得々としてスミス等を輕蔑し嘲弄しましたが、或夜預言者スミスは此の猥褻で不潔極まる話を聞くに忍びず手錠を嵌められてゐても恐しく莊嚴に立つて雷鳴の如き聲にて其の番人を嚴しく咎めました、すると其の者は怖氣立ちて兵器を地に投じて預言者スミスの足下に跼まつて赦を哀願し口を噤み

ました。

漸く長老リグドンは保釋に付せられて生命を奪はれぬやうに逃げなければならなかつたが、ジヨセフ、スミス、ハイラム、スミス、ライマン、ウワイト、アレクサンダー、マツクレー、ケーレブ、バールドヰンはクレー郡リバーテ獄屋へ徙されて（他の人々はリツチモンド市で）一千八百三十八年より三十九年にかけての冬を過しました、此の牢屋に居りました間に、ジヨセフ、スミスは「敎義及誓約」といふ本の百二十一、百二十二、百二十三章にある祈禱や、預言や、敎訓を書きました。

聖徒は暴徒の手に委せられたれば、暴徒は愈よ其の暴威を逞うし、益〻聖徒の財產を掠奪し、破壞し、家屋に火を放ち、家畜を逐拂ひ賴りなき婦女を侮辱しました。

聖徒はボツグスの無情なる盡滅命令及びヒンケルが聖徒の全財產を讓り渡す契約の爲に殆んど堪へ難き程艱難辛苦をしました、然れども、聖徒は、法律上の無罪なる己等が斯る苦痛に遭ひながら何等の救濟も與へられぬといふ理由は決してないと思ひました、其故に嚮に自由を恢復せられたる所の敎會の司等は聖徒に加へられた苦痛を詳しく記し、救濟を

願ひ、又無法なる知事の壓制的命令を廢止することをミスウリ州の州會に上書しました、然るに其の唯一の應答には可笑程些少なる救助金を下附されましたが、其の大部分は分配官の給料の爲に消費されましたのです。

無頼漢は引續き「モルモン」教徒の所有物を掠奪したので一千八百三十九年一月に聖徒は悲しくも其の救濟を得ることの到底望なきを斷念いたしました、聖徒が該州を去らざれば殺さるべしといふことは公然にも陰然にも明かに知らせられました。嗚呼彼等聖徒は或は多年辛苦して貯蓄した財產や所有物は奪はれて、艱難を極め、或は杖とも柱とも賴む夫や父兄は牢屋に投ぜられて、衣服も食物も給せられぬ哀なる狀態となりました、而も冬の最中に永く住み慣れた其の鄕土をも見捨てゝ何處ともなく退去せねばならぬとは、何たる悲慘なことであらうか。

聖徒はかゝる次第（預言者スミスは獄屋に居りました）なれば、十二使徒會の會長ブリガム、ヤングは教會を司る責任を引受けて聖徒がイリノイ州への退去を劃策し之を實行しました、使徒會長ヤング及び教會に於ける兄弟は「ミスウリ州より退去するに、己の

及ぶ丈力を合せて相互に扶助し、又救助を受くべき正當の理由ある貧困者は、大將クラークがかの盡滅命令を實行し得ざる土地に遁れ出づるまでは、置去にさるゝことなし」といふ契約を作りました、幾百人となく其に記名したが、皆誠實にして悉く其を遵りました。

有名なる歷史家ホキットニは曰く「其の冬に男女老幼を併せて一万乃至一万二千人程の末日聖徒は尚無情なる無賴者に逐はれて、雪の凍りたる道に血汚の足跟を印して、ミスウリ州より遁れました、財產を奪はれて家も金もなき彼等聖徒は氷結したミシッピ河を踰え、イリノイ州に至つて、己等を其の州の懇なる人々に托せました、其の土地の人々は一同彼等の憐むべき狀態を見、其の受けた無慙なる迫害の談を聞いて聖徒に同情を表し、彼等を不憫に思ふにつれ、彼等の讎敵に對して嫌惡の念を懷きました、」と。

此の事を知つた預言者スミスは獄屋の檻房から聖徒を慰めんとて「シオンは破壞されさうに見えても將來には立派に繁昌すべし」といふことを書き贈りました。

ジヨセフ、スミスとハイラム、スミスは、酩酊したる牢屋の番人の默許を得て、ミスウリ州より遁れて、一千八百三十九年四月二十二日にイリノイ州クキンセ町に居る己等の

家族に再會しました、イリノイ州の諸所の如くクヰンセの市民も不運の聖徒を一方ならず善く迎へて同情を表したので聖徒は當分又無き避難所に投じたと感じました、イリノイ州の市民は衣服や食料や又は幾千弗となく金錢を聖徒に贈與しました、勿論聖徒に反對する者もあつたであらうが、イリノイ州とアイオワ州の多數の人氣は充分に聖徒に安心及び保護を與へました、兩州の知事は聖徒に味方をしました、ジョセフ、スミスが此處に到着した二日の後或る會議の議決に依りジョセフ、スミス、ヴヰンソン、ナイト及びアロンゾ、リツプリの三人は敎會の本部を建築すべき位置を擇ぶことになりました、此の時旣に「モルモン」敎會の司等は預言者スミスよりの忠告書に從つて兩州にも地面を買ふ取極をしました、クヰンセの上の方四十哩程のアイオワ州キオクック市、又キオクック市の上の方六哩程のナッシヴヰル市、又ナッシヴヰル市の上の方より四哩程のアイオワ州モントロース市の諸所に廣き地面を買ました、河を渡つてモントロースの彼岸にイリノイ州コンマースがあつてダニエル、エチ、ウエルスが住んで居りました、聖徒が彼より地所を極めて低價に買つたのです、五月一日スミスはコンマース市に附加の地面を買つて敎會の本部を建設

することに極めました、而して五月十日に己の家族を連れて川邊にある丸太で拵へた小さき家を住所としました、村は只六軒のみにて至つて小さき所であつて、植物繁茂たる健康に不適の濕地でマラリア熱の流行する土地柄であつた、其故に殖民しかけやうとしたる紐育の或る會社は「モルモン」教徒の代理者に喜んで其の土地を賣り捌きました、併しながら殆んど市を圍繞するミシシッピ河の見晴しの好き場所で實に美しき位置でありました、其の翌年名を變へてナーヴウと稱へました、ナーヴウの意味は風光明媚の樂境といふのであります。

ミスウリ州は此の民に對して怪しからぬ罪を犯したので、聖徒は貧しく、艱難辛苦を耐へ、四方へ濱々と離散して其の儘に居りました、其故此等の人々を一ヶ所に集めて或る地方に殖民するのは實に不思議なる偉業でありました、其に此所は又マラリア病の流行する不健康なる土地であつて、聖徒以外の人の住居に耐へざる濕地だと考へると、愈容易に出來ぬ大事業である、併しながら後西方大部の荒れたる沙漠は聖徒の願ふ通り庭園の如き美麗なる所となつた如く、該地方も神の恩惠の爲に適當なる住處に成ると神より約束されま

した、露程も疑はず、之を深く信仰して、貧苦に迫つて非常に苦んで居ながら、更に住家を作り始めましたが、始は激烈なる熱病の爲に大に妨げられました、病人のなき家は極めて稀であつた、預言者スミスも矢張病氣で床に臥して居ましたが、七月二十二日聖靈に深く感じて床を離れ、他の病人が床を出で全く癒ることをイエス、キリストの名によりて命じて彼等を癒し始めましたのです、此の多くの不思議なる癒病のことは奇蹟日として歴史にも昭々と記載してありますが、之は全く聖徒の厚き信仰の結果であつたのです。

カノン氏の著作ジョセフ、スミスの一代記に曰く「預言者スミスは多くの病人を招き己の家に入れて家に滿ちました、ところでスミス自身は職務を行ひつゝ彼等を介抱した爲に直ちに疲れて臥してをりました、然れども一千八百三十九年七月二十二日聖靈の特別の力が彼に降りました、スミスは其に甚く感じて床を離れ己の家に居つた病人を癒し始めました、スミスは彼等が床より出で癒さるゝことをイエス、キリストの名によりて彼等に命じました、而して信仰を以て其の命じたることを聽いた者は皆癒されました。

多くの病人はミシシッピ河邊に居りました故、スミスはシドニ、リグドンの住んで居つ

た小さき石造の家まで行つて其の沿道に居つた病人を悉く癒しました、就中生死の境に至つて居りましたベンリ、ジー、シエルウッドがございました、スミスがシエルウッドの天幕の入口に立つて彼が起きて天幕より出づることをイエス、キリストの名に依りて命じましたところが、シエルウッドは其の命に從ひまして全く癒されました、ベンジヤミン、ブラウンと其の家族も病氣で臥して中にもブラウンは死際に近してをりましたが、スミスは天主の名に依りて彼等を直ちに癒しました、スミスは小さき石造の家まで行つて河邊に居りました總ての病者を癒して後、長老キンバルを召して兩人で河を渡つてモントロースに居つた病人を見舞に行きました、此處に十二使徒の或る人及び多くの聖徒が居ました、最初に使徒會長ブリガム、ヤングを訪ねて彼の病氣を癒しますと、彼は起きて預言者と同伴して出で他の病人を訪問しました、其の次に兄弟フォルダムの家に立ち寄りました、彼の家族と友人とはフォルダムは正體がなくて既に息が絶えて居ると思つて居ましたが、此の一行は室に入るや否や、神の預言者なるスミスは生死の境に至つて居つたフォルダムの傍に行きて其の右の手を取つて彼に談をしましたが、兄弟フォルダムは口が利けず瞳孔は

據つて義眼の如くなり、何にも辨らぬやうになつて居ました、スミスは猶彼の手を持つて默々として暫く彼の目を眺めて居りましたが、間もなくフォルダムの面相が癒り變つて眼力が回復て看ることが出來るやうになつた、而してスミスが「我を知るや」と尋ぬれば、彼は低聲にて「然り」と答へました、スミスは復「癒される信仰があるか」と尋ぬれば「既に遲し、今少しく早く來りしならば癒されたるならんも恐くは今は難からん」と兄弟フォルダムがいひました、預言者スミスは「イエス、キリストを信じて居るではないか」と、フォルダムは弱き聲にて「信じて居ります」と答へました、そこでスミスは直立して同じく其の手を握つて暫時の間口を噤んで言ひ出さなかつたが、突然非常な大きな聲にて曰く「兄弟フォルダムよ我はイエス、キリストの名に依りて汝に命ず褥を離れて癒えよ」と、スミスの聲は人の聲の如くならず、神の聲の如きものでありました、家は土臺までも震動したやうであつた、兄弟フォルダムは床より飛び出でゝ發泡や繃帶を取り棄てゝ着物を着、パンと牛乳とを持つて來れといひました、其を食しますと預言者スミスと共に外へ行きました、兄弟ノベルも病氣でしたがスミスは彼をも癒しました、スミスは神の力を以つてモント

ロースの總ての病者を癒した後、渡船場へ行きました、此處で又他の一人が來ました、彼はジョセフ、スミスが病人を癒し死人をも再び生き返して居るといふことを聞いた故、妻の願に依りて來たのであるが病める己の三ケ月の孖子を癒され得べきかと頼みました、スミスは「我は汝の家へ行くことを得ず誰をか遣すべし」と、長老ウッドラフは預言者スミスに召されて其の人の家へ行き神の力に依りて其の子供を癒しました。

其の日暴徒は絶命えてをる人が癒されて、床を離れ他人の爲に祈をすることを見て一方ならず畏れて腰を拔かしました、其にも拘はらず、彼等は尙執念くも好き機會あらば預言者スミス及び其の兄弟を必ず殺し兼ねなかつたであらう、實に其の日は聖徒も惡人も此の世に神の力の現實するを看た忘るべからざる日でありました」と。

十二使徒は聖徒を此の新しき土地へ移し集める働の爲め、又疫害の爲に未だ「大海の向」へ傳道に行かれなかつた（其の前の年ミスウリ州で授けられし啓示に憑て行く樣に任ぜられました）が一千八百三十九年四月二十六日にファー、ウェストの神殿の位置で聖徒と告別をして再び神殿の土臺を据ゑ始めました、斯くて前の年預言者スミスに依りて聖徒に與

へられた預言は實現されました。

大尉ボーガートは此の預言のことを知つたので決して之を實現させぬと決心しました、此の決心が有つたればこそ四月の半頃ミスウリ州に殘つて居つた僅の聖徒を殘酷にも全く放逐することを敢てしたのである、此の上にもボーガートは如何にもして聖徒が到底其の啓示を實現することが出來ぬやうにしたいと希望して居りましたが、預言の日ボーガートが未だ起き出でぬ内午前一時に十二人會の七人はファー、ウェストで集會を開いて神殿の隅石を据ゑ、ウヰルフォルド、ウッドラフとジョルヂ、エー、スミスとを選んで使徒とし、三十一人を教會より除名し、尚殘りたる聖徒と告別をしてイリノイ州へ出發しました、かくて敵が起きぬ前に神の預言は實現されましたが、敵が豫ねて謀たることも遂に水泡に歸したのであります。

一千八百三十九年の夏と秋の間コンマースといふ所は存外早く進歩して不健康なる濕地より立派な町に成り、望ましく又衞生に適する住所となりました、聖徒の職業は不思議にも皆成功しました、又預言者スミスと他の役人より心を慰め、力を養ふ所の忠告と賢き訓

誡とを蒙りました、而して彼等の働の爲め多くの正直なる人は教を信じて教會に屬しました。

同年八月と九月とに十二使徒の七人は己も亦家族の者も病氣をした爲め大に苦んで居つたに拘はらず神に憑つて家族と別れて英國傳道に行きました、一千八百四十年四月六日にリヴアプールに着いて其より英國に滯在した間、大なる惠福を得て傳道をしました、新しき宣教師が來た爲に前にヒベル、シー、キンバル及び同役の人によつて開かれた傳道は尚一層盛大になつて好き結果を與へました。此の宣教師等は「千歲の星」と云ふ雜誌を發刊する社を設置し、モルモン經典を五千部、讃美歌書を三千部、小册子を五万部印刷し、又常設移民會社を設けました、三千人以上の改心者は教會に入りましたが、此の年始めて一千人以上は亞米利加のシオンへ移住しました、此の事業を司つた人なる使徒會長ブリガム、ヤングは一千八百四十一年七月一日に或る兄弟と共にイリノイ州ナーヴウ市へ歸りました。

其の間に預言者スミスは會員を新住所へ移し集め、又ミスウリ州より放逐されたる聖徒

が受けた艱難を合衆國政府若くは大統領に知らしむる準備をしました、一千八百三十九年十月廿九日上聞に達する爲に裁判官イラヤス、ヒッグビと共にワシントンへ出立して十一月二十八日に到着しました、其の翌日兩人は大統領の官舍へ行き、ミスウリ州に對しての要求を大統領ヴァンビュレンに上申しましたが、大統領は最初は彼等に關係することを好まずして「予何をすることを得べきや、汝等の爲に何等の仲裁を爲すことを得ず、仲裁すればミスウリ州全民の感情を害すべし」といひました、併し聖徒が出願する權利あるを主張しました、ところが大統領は前の言を變じて其の苦められたる民に同情を表して預言者スミスの宗教を聞きたいと云ひました、スミスは福音を彼に説明して例の通り教會は神のものであるといふ證據を熱心に立てました、此の次に訪問しました時に、大統領はスミスを無禮に迎へ、性急に其の歎願を聞き「汝の事件は正當なれども如何とも仲裁することを得ず、汝等に味方をすれば總選擧の時にミスウリ州の投票を失ふべし」といふ奇妙なる大評判の答を與へました、其故に預言者スミスが大統領を指して「彼は官職を得んが爲には人に追從することを厭はず、而かも誇り傲ることは其の特性で、正直と公平とを知らざるも

のである」といふたのは別に珍奇なる事ではありません。

スミスは其の冬の間東方に滯在して國の最も有名なる政治家を知人としました、國會の上院議員なるヘンリ、クレーは「モルモン」教徒の迫害の談を聞きて「汝等はオレゴンに行くが得策ならん」と答へました、謂ふ心は開化の永久に及ばざる別世界の如く當時思はれたるオレゴンに行きて終生故國の追放人となれとのことでありました、イリノイ州より選擧されたる國會議員は勿論政治的方針として(「モルモン」教徒は直ちに政治上優勢の權を有する樣子でした)聖徒の難澁及び請求を載せたる建白書又は願書を上院へ差出すことを定約しました、定約の通に書類は取次がれたが何にもならなかつた、合衆國政府の行政部でも立法部でもミスウリ州が殘酷にも聖徒に難澁を加へたことに關しては其の州を少しも※譴責しなかつた。

※預言者スミスは四百九十一人よりミスウリ州に對しての殆んど百五十萬弗の損害要償を其の建白書と一緒に差出しましたが、是は裁判委員に附托せられたけれども何にもならなかつた。

預言者スミスは政治家の大望は全民の利益及び平安を保護するとでなくてて、人氣を取

ることゝ、又傲ることであると知つて大に驚きました、漸く彼等と交際することを潔とせず、ワシントンを去つて一千八百四十年三月四日にナーヴウ市に到着しました。東方に滯在せる間、度々福音を宣べ傳へ、機に乘じてワシントン市で、又ペンシルヴェニア州チエスター郡の町々て、又フキラデルフキア市で大聽衆に說教しました（チエスター郡で後に教會の總監督に成つたエドワード、ハンターに始めて逢ひました）。

其の間ナーヴウと其の近方に於て教會はハイラム、スミスの導によつて益々盛に成りつゝありました、當時町の人口は三千人であつたが直ちに二万に殖え、ウワード部は二つより十になりました、而して町の以外農民の居る地方に三つ程ありました。

恐しき怪物が現れたやうに復新に迫害が初りました、一千八百四十年九月十五日ミスウリ州の知事リンバーン、ダブルユ、ボッグスは預言者スミス及び或る名高き長老を逃亡人と宣稱して彼等の引渡をイリノイ州知事カーリンに要求しました、之が爲に多くの人が迷惑をしました、其の前の日ジョセス、スミスの高齢なる父が死去したので、スミスは殊に心を痛めてをりました、さればミスウリ州の人に同情を寄せる人は無き位で知事カーリ

ンは其の要求書を送達せずして知事ボッグスに返却しました、然るに澄み渡る天空の一方にある片雲も遂に狂風猛雨を呼んで暗憺たる天地に變化せしむる如くに此の不愉快なる出來事は正にスミス及び聖徒全體に斷間なく加はらんとする災難の前兆でありました、此の災難は即ち預言者スミスが虐殺されたること、又不思議で無比なるものとして全世界に驚愕させる所の大退去即ち聖徒が開化したる地方より西方に居る野蠻人の野原へ放逐されることでありました。

一千八百四十年と四十一年とにかけての冬にリイノイ州會はナーヴウを市と認めて其に寬大なる特許狀を授與しました、預言者スミスは此の特許狀は「自由、大義に基いたので教會を暴行より救ひ出し政黨や宗派の區別を立てずして一切實直なる人々に保護を與へて安全に住まはせる」に適當したものであるといふた、一千八百四十一年二月一日に件の特許狀は實施になり、其の日最初の公選がありました、其の後二三日特許狀に記されたる通り、大學校は設けられ、ナーヴウ軍團は組織せられて、後にジヨセフ、スミスは其の中將になりました。

一千八百四十一年四月六日の大會の時ナーヴウ神殿の隅石が据ゑられました、而して神殿及び種々の公衆の建物の普請の成功を急ぐ爲め、預言者スミスは近所に散在せるステーキ部の聖徒がナーヴウ市に轉居することを彼等に勸めました、此の勸告に應じて聖徒は四方よりどし〲とナーヴウに移り「シオンの隅石」を据ゑる爲め即ち神殿を落成せん爲め又ナーヴウ市を大きくし且立派にする爲めナーヴウの聖徒と勢力を合せて働きました。

内國にも外國にも聖徒の事業は繁昌しました、フリガム、ヤング及び外の使徒が英國より歸りましたので、既に大に發達したるナーヴウ市は尙一層盛大になりました、ジョセフ、スミスの名聲は歐米兩洲中に廣まりました、一千八百四十二年にはスミスも聖徒も此の上も無い大繁榮をして居りました、米國の大なる新聞社の記者は近世の「軍人的預言者」及び其の兄弟に關して投書する爲にナーヴウに來ました、敎會の創立の時より此の時節は最も繁昌するに好時期でありました、新聞記者の望に任せてジョセフ、スミスは敎會創立や其の繁昌や其の迫害のことを簡單に記して與へました、其の內には敎會の信仰箇條も含んでありました。

其の他末日聖徒の教理や歴史を記載せる書物は全世界到る處に配布されました、預言者スミス自身で教會の機關雜誌「おり〳〵草」を編輯して之を以て多くの貴重なる眞理や教を擴めました、一千八百四十二年三月十七日婦人慈善會は組織せられました、又幾百人となく浸禮を受けました、市民は立派なる家及び美しき庭を造り、人口が殖えるに從つて工業も盛になり、而して聖徒の一致、勢力、及び勤儉の爲にナーヴウは頓てイリノイ州の最も大なる市になるらしく見えました、麗しきナーヴウの人口は速かに二萬人に殖えました。

シオンは實に繁榮になりつゝありましたが、教會は盛大及び名譽といふ小山の頂上に達したので預言者スミスが頓て又聖徒が過ぎ越さねばならぬ艱難辛苦に滿たされたる暗黑なる谷間を豫期し、己も亦シオンの不思議なる事業の爲に身を犧牲に供して殉教者となるべきを見拔きました。

第二章 雲暗憺、スミス銃殺の謀

一千八百四十二年四月九日ナーヴウステーキ部々長ジョセフ、マークスの子息の葬禮の

時預言者スミスが演說をして己の運命の豫期を始めて告げました、其の演說の内に己はもう此より長く生存するといふ神の約束或は生命の賃貸契約が無いからもう*死ぬべき人であると傍聽人に氣づけました、其の四ヶ月後八月六日アイオワ州モントロース町の兄弟と會談した時聖徒は又更に西方に+移住し大に艱難辛苦を受けねばならぬといふことを先見して其の著名なる預言を記載しました。

※預言者スミス曰く「兄弟ジヨセフ」は死に得べき人でないと思ふ聖徒もあるが其は間違つてゐる、勿論或る事業を成就せん爲には死すること無しと神より約束されたることも折節あつたが、最早其の働を仕遂げた爲め今よりは最早生命の賃貸契約が無い、普通萬民の如くに死すべきものである』と。

+其の預言は次の如し曰く「我は預言す、聖徒は引續き大なる辛苦を忍ぶべく、ロツキー山へ放逐せらるべし、多くの者は墮落すべく、或は我々聖徒を迫害する者に殺され、或は氣候に挫げて或は病氣によつて死ぬ者もあるべし、又或る聖徒は生命ありてロツキー山に行き、殖民し、市を作る事業に從事すべく、而して遂に彼等はロツキー山中の強大なる民となるを見るべし」と。

一千八百四十二年五月ジエ、シー、ベンネツトの野心あり、又不實なることが露顯しました、ベンネツトといふ人がナーヴウ市長に選擧せられ、大學校の學位を授與する役員に

選定され、又ナーヴウ軍團の少將に選ばれました、ベンネットは腦力及び才智ある人でしたが、品性が惡しくて又良心の無い人物であつた、併しながらナーヴウの特許狀を得ることに付き聖徒の爲め大に周旋しました。聖徒は其の良心の無き惡漢なることを最初に氣付かなんだので大に彼を尊敬じ、信用しましたが、後に彼は其の信用を辱しめて不面目なる行爲をしました、軍團の戰闘演習に言寄せてスミスを殺さんと企てたが、目的が外れた故、スミスと聖徒とに關して理由なき虛言を言ひ觸しました、其の虛言の中に預言者スミスは男女の不義を默許するといふことを男にも女にも陰に告げました、此は勿論己の惡事を隱す爲であつた、如何となれば其の後不義の爲に敎會より除名されました、除名されをるベンネットはジョセフ、スミス及び聖徒全體に付て最も惡き虛說を含む書物を著しました、而して之が爲に最早聖徒に對して偏頗心ある人民は尙一層嫌惡の念を懷きました、八月に十二使徒及び多くの長老は此の讒訴を論破し、卑劣なる疑念を晴らす爲め全地方へ派遣されました。

ミスウリ州に於ける暴徒の餘炎は爾來尙未だ消滅して居なかつた、五月インデペンデン

ス市で前知事ボッグスに暗殺未遂罪を犯した者があつて不實にも此は「モルモン」教徒の業であると誣告せられました、而してジョセフ、スミスは其の犯罪前の從犯者だといふ訴を起した者がありました、因てミウスリ州知事はイリノイ州治者にスミスの引渡を要求しました、其故に八月八日ナーヴウでスミスとオー、ピー、ロックウエルは捕縛せられたが市裁判所で審問の結果無罪放免となりました、併しながら其の後又スミスを敵の手に渡さんと謀る者も多くあつた故、スミスは暫く其の身を潜匿するが宜いと考へました、而して其潜れて居る間に神殿普請の繼續のことや死者の爲の浸禮といふ教理に關して數多の重大なる件々を手紙に認めて聖徒に贈りました、邪なる者は人類の成し能ふ總ての謀を盡してスミスを捕へんとしましたが是は皆水泡に歸しました、知事カーリンはスミスを捕り縛へる爲に奬勵金を出すといふ宣言書及び令狀を發しました、併し一千八百四十二年十二月トマス、フオルドは民政黨の者にしてカーリンの代にイリノイ州の知事になりました、而してジヨセフ、スミスは其の令狀や宣言書を撤回せんことを彼に出願しましたが、フオルドはスミスに裁判上の審問を受けんことを勸めました、從つてスミスは審問された結果復

再び自由なる人となりました。

スミスは少しの間安心が出來て一千八百四十三年二月六日にナーヴウ市長に選擧されました、次ぎの四月十二日パーリー、ピー、プラット、ロレンゾ、スノー、及びリーヴァイ、リッチャードスが英國よりの移住民の大なる隊伍を二つ程案内してナーヴウに到着しました、其の移住者の中にカノン家族がありました。

同年六月復舊訴の爲に預言者ジョセフ、スミスを謀叛人としてミスウリ州に引渡さんとする者がありました、ベンネットは此の亂暴の重なる敎唆者であつたが、彼様にして預言者スミスは復々逮捕された、否寧ろ暴力を用ゐて奪ひ去られ、殘酷なる取扱を受けたが、頓て裁判せられたる結果、又其の無罪なることが確められました。

此の間政治家は聖徒に對して偏頗心を民に懐かせて居りました、フォルドは民間の喧鬪を靜め、且人氣に叶はんとて、州會に任官の演説をした時にはナーヴウの特許狀を改めて其の權利に定限を付けることを勸告しました、スミスが聖徒を四方よりナーヴウ市に呼び集めたのは「モルモン」敎徒に政事上の優勢の權を得させせんとて巧に工夫したことゝ見做

されました、而して或る政治家は此の集合の爲に選擧權を有する「モルモン」教徒が増加することは大なる禍なりと佯言して居りました、其の結果として「モルモン」反對黨が組織されました、此は聖徒に對して不平を懷く種々の人柄から成立つたのであります、此等の者は己等の如く人民に大に不平や偏頗を起させました、八月に郡役人に選擧されたる聖徒が數人カーセージ市の郡役所で宣誓せんとて其の地へ行つたが、武器を携へたる暴徒に嚇されました、併しながら、せねばならぬ宣誓なれば之をしました、之が爲に反對黨は愈々怒つて尚一層聖徒に反對し、又若し將來にミスウリ州が預言者スミスに難苦を加へんとするならば其の州を助けるとの誓を新に立てました、依てナーヴウ市の近在に居つた聖徒の家を燒き、其の所有物を破壞し始めました、聖徒が知事フオルドに保護を願ひましたが、フオルドは聖徒が自衞せねばならぬといふ意味の答をしました、即ち迫害せられたる聖徒にとりてはミスウリ州の前の役人及び大統領ヴアンビユレンの「汝の事件は正當なれども如何とも仲裁することを得ず」といふこと、同樣になるのです。

ナーヴウ軍團は無賴徒の亂暴より聖徒を保護する爲め準備が調へてありました。

第三章　大統領の候補者ジョセフ、スミスの政略、ナーヴウ市の戒嚴令、スミス兄弟の殉教

一千八百四十三年より四十四年にかけての冬に預言者スミスは多くの合衆國に於て有名なる政治家に彼樣に問ひました、曰く「若し幸に大統領に選擧せられたならば我等の民に對する政略は如何なるものであらうか」と、只ヘンリ、クレー及びジョン、シー、カルフーンのみ是に答へたが、其の返答は決斷の無きものであつた故、預言者スミスは彼等を德義無き臆病者と見做して彼等を嚴しく詰りました。

其の頃ジョセフ、スミスは合衆國大統領の候補者であるといふ驚くべき程の報知が世に出ました、一千八百四十四年一月二十九日に指名されて翌五月十七日州民の集會で確定せられました、其の後預言者スミスの「合衆國の政略及び政權に關する說」と題する宣言書が印刷配布されました、其の中にスミスが最も人氣を立てる政事論に關する意見を述べてをる、即ち合衆國政府は奴隷を使ふことを廢止して奴隷の持主に其の代價を拂ふこと、國會

議員の年給を削減し、又官有地を賣つて其の代金を拵へること、謀殺罪を除き借財をして返還せざる者及び他の一切の犯罪者を禁錮するを止めて公益の爲め國道敷設だの下水工事だの共有水道だのいふ事業に働かせること、獄屋を學校にすること、暴徒や騷動を鎭むるが如き軍勢を使ふ程の權威は之を大統領に委任すること、肌の赤き土人の承知を得ば合衆國界を進めて大西洋より太平洋まで廣むること、テキサス及び他の地方の人民が己の國を合衆國に加へて一緒になりたいと出願したならば其を許すこと、等でありました、尙又此の他多くの立派なる主義がありました。

預言者スミスの政事上の意見を弘め、彼の選擧に周旋する爲め、十二使徒及び多くの長老は東の州へ遣されました、スミスが大統領の候補者となるを承諾した理由は己の民なる聖徒の政權や宗教權を保護するに盡力が十分に出來るからなのでありました、勿論大統領の競爭に勝つといふ信仰は薄かつたに相違ありません、何となればスミスは「我は大統領の職に就くも就かざるも一向頓着はせぬ、合衆國の大統領の職に立つよりも寧ろ今の役即ちナーヴウ軍團中將に立つて居る方を好む」といひました。

※スミスは曰く「苦めらるゝ無罪者を保護するに合衆國に於て出來得る限り勢力や政權を正當に得るは我が特許又權利であると信ずる、其故に若し厚德、公平、信實及び公益等の如き正善なる事業に從事する間に殺されても、其が合衆國の憲法及び法律の擁護の爲め必要であるならば、潔く此の身を犠牲に供するのである」と。

預言者スミスは選擧よりもオレゴンとカリフォルニアとの地方を探險させるに熱心して居りました、彼はナーヴウ神殿の普請が出來上つたならば軍團をして聖徒を該地方に導かしめて「一日に都市を設くる」ことを熱望して居りました、其故に若し總選擧の競爭が無かつたならばスミスが催した探險隊の七十五人は當地方へ發足したでせう、三月にスミスはオレゴンへ移住を欲する米國人を保護すべき法令の可決されんことを國會に請願しました、如何となれば其の當時に英國も合衆國も同じく其の地方を所有すると主張して居りましたからです、スミスは件の地方に殖民してロッキー山中に尙一つの州を別に立て、又テキサスをメキシコより保護する爲め十萬人を呼び集める特權を願ひましたが、種々樣々の妨害が起つて其の事業を成し遂げるとが出來ませんでした、併しながらスミスの目論見は中々無益なるものでは無かつた、スミスが死んでブリガム、ヤングが其の計畫を仕遂ぐるとい

ふ運命を包んで居りましたのです。

一千八百四十四年の春と夏にナーヴウの有様は實に可嘆き狀態でありました、聖徒は外部の暴徒から非常に嚇されましたし、市內の背教者は預言者スミス及び不運の市民を滅亡させんとて樣々の謀を廻らして居りました、ウヰルソン、ラーとウヰリアム、ラーとヒグビ兄弟等及びフォスター兄弟等は皆下賤卑劣なる背教者で、此の企を起した者の內の最も惡しき者であつた、是等の人々はスミスを「墮落したる預言者」と非難して別に新しき敎會を創立し、預言者スミスの元の顧問なるウヰリアム、ラーを其の管長としました。

一千八百四十三年七月十二日一夫多妻（附錄を見よ）又神の敎に從つて行はれたる結婚の契約は永遠に繼續するといふ敎理は記載されました、一千八百四十四年敎會の司等は此の敎理を既に陰かに敎へ實行して居りました、勿論ウヰリアム、ラーは元スミスの顧問であつたから此の事を知つて居りました、其てスミスを一夫多妻實行者と訴へて之を捕縛させましたが何事もなく放免になりました、併しながら此の背教者等は唯スミスに反對するのみでなく聖徒全體を迫害し苦めやうといふ根本の望がありました、依て此の目的を達

せんが爲めエクスポセターといふ新聞を發行しました、此の新聞の使命は無條件てナーヴウの特許狀を取消すことを唱道すること、又預言者スミスに對しての反抗及び騷動を起すなどのことでありました、此の新聞は一千八百四十四年六月七日始めて發行されました、而して唯不潔なる罵詈讒謗のみ記載してありました故に、市民全體は其を厭がりました、十日に市會議員が集會して其の新聞は不淨にして除くべきものと宣言しました、其で此の新聞は翌日市長ジョセフ、スミスの命令に依りて發行は停止され、又其の印刷機及び活字などは全く破壞されました。

間もなく其の所有者は市を發足してジョセフ、スミス及び多くの有名なる人々を兇徒嘯集罪者と訴へて彼等を捕縛させました、スミス等は假令逮捕されてもナーヴウ以外の地で審問されることを好まなかつたので、要求通りナーヴウで審問されたが放免になりました、其故に反對者は大に激昂しました、程なく「モルモン」反對黨と暴徒は武器を備へてナーヴウ附近に集つて聖徒と其の司等に復讎せんと斷言しました、で、其の狀況は實に怖しくありました、其の狀態を知事に上申したが返答がありませんでした、暴徒は必ず聖徒を

め、戒嚴令を布き軍團を召し出しました、斯云ふことを聞きて薄弱で優柔不斷な知事フォルド自身は州兵の首に立ちてどん／＼と集まる暴徒を兵士にしました、而してエクスポセター紙の滅亡に關して審問せられる爲に預言者スミスと其の友人とはカーセージに來べきこと及びナーヴウの戒嚴令を解除すべきことを命じました、聖徒は其の命令に服從しました、イリノイ州の知事フォルドは己の名譽及びイリノイ州の名譽を賭けてスミスと他の未決囚とを暴行より保護して之を偏頗なく正當に審問すると保證しました、且之を幾度も繰返して受合つたが遂に背約しました。

復州政府が保護を受合つたので、翌日知事の要求に從ひ軍團の兵は武器を引渡しました、六月二十四日の晩、預言者ジョセフ、スミスと其の兄弟ハイラム、スミス及び其の他十六名の友人はカーセージ市へ行きましたが、ジョセフ、スミスは「羊の如く屠殺場へ行きつゝある」と申しました、其の前にスミスは一寸退足を踏んで山へ遁れやうかと思つて或る友人と共に河を渡つて行たが、他の友人が彼を己等聖徒より逃走する臆病者と非難したので



殉教者 ハイラム、スミス

殉教者 ジョセフ、スミス

使徒 ウォラード、リッチヤードス

使徒 ジヨン、テイラー

カーセージ獄屋、虐殺の當時獄内に在りし四人

又戻つて彼等と一緒にカーセージへ行きましたが、屠殺される所に行きつゝあつたといふのは確なることでありました、何となれば假令彼等を亡き者にする法律が無くとも其の敵は無理にも彼等を銃殺せんと決心して居つたのである。

*『我は羊の如く屠殺場へ行きつゝあるが我心は恰も夏の日の爽かなる朝の如くすが〳〵しく落着いて居ります、萬人や神に對して犯したる罪も無ければ我良心は極めて平安であります、彼等若し我生命を絶つならば、我は即ち罪なくして死ぬのである、されば我血は頓て地より叫んで復讐を願ふべし、而して將來に世の人々は我を目して「彼は殘忍なる人の手に謀殺された」といふべし』と。

六月二十七日の忌日にジョセフ、スミスとハイラム、スミス及び其の友なるジョン、テイラーとウキラード、リッチャードスはカーセージの獄屋の二階へ入れられました、其の日午後五時頃預言者ジョセフ、スミスと其の祝福師の兄弟ハイラム、スミスは州兵より成れる二百餘人の暴徒に銃殺されました、ウキラード、リッチャードスは一度も撃たれなかつたが、ジョン、テイラーは幾度も撃たれて頓てやつとのことで生存りました。

無情なるカーセージ兵がカーセージに於て此の殘虐を行つて居た時に知事フォルドはナーヴウに於て武器を備へざる良民なる聖徒を苦めて、エクスポセターを亡ぼした罪の凶惡

なることを大業に公言して居りました、フォルドは暴徒の計略を知つて居つたに違ありません、如何となれば聖徒は暴徒が決して預言者を活かして逃げさせないと公に斷言したことを度々フォルドに注意けましたのであるからです、知事フォルドはスミス暗殺の報知を聞いた時「口が利けずなりました」併しながら是は其の罪の爲に悲哀するよりも寧ろ己が無難安然を心配して恐れた爲であつたのである、其の晩聖徒に自衛せよといふ命令を書送つて而してクヰンセ町へ逃げました、恐慌せるカーセージの暴徒及び市民も四方へ逃走してしまひました。

第四編

大管長ブリガム、ヤング教會を司ること

（自一千八百四十四年至一千八百七十七年）

第一章　ナーヴウ市退去の契約

預言者スミスが据えた基督教會の基は廣く又立派でありました、神は此の時已に其の基の上に建つべき複雜で且宏大なる上部結構の計畫や其の他の明細事を悉く知つた有力なる建築家ブリガム、ヤングをスミスの後任に選び給ひました、ヤングは實に意志の堅固さ達人にして此の大事業（教會を管理すること）を引受けて十分に其の任務を果すべき性格を具へて居りました。

一千八百四十四年六月二十八日に殉教したる司等なるジョセフ、スミスとハイラム、ス

ミスとの死骸がナーヴウ市に到着するや悲哀に沈んだ聖徒は一萬人集合して其の生命なき土即ち死骸を打見遣りましたが其の時の愁傷慟哭の狀態はとても筆にも記せず口にも言はれぬ程でありました、使徒ウヰラード、リッチャードス及び大佐マークハムは聖徒に平和を勸めて、其報讐を法律に任せよ法律若し之を成さずんば天の賞罰に任せよと言ひました。殉敎前二三日十二使徒は選擧遊說地より歸る命令を受けましたが、其の多數は丁度同年八月六日に歸りました。

十二使徒は預言者の訓練を受けたので、今や敎會を導くに十分に適當して居りました、殉敎の前にスミスは熱心に敎導に務めて居りました、十二使徒及び信心深き或る長老に神權の鍵を悉く授け、親子及び人類全體が永遠に結契せられる敎訓と方式とを明細に彼等に說き敎へて此の永遠結契の儀式を執行しました、說敎する度每に此の大切で肝要なる敎理を敎へて敎會の立つべき基を（敎會の政治及び敎理を敎へて）廣く且堅固にしました、其の生涯が短くも其の間に肝要なる大事業を起しました、存命の間多年大に迫害されて執念深き者に憎まれました、又始終「不忠なる兄弟」に裏切せられました、併し最早己が傳へ

たる神の教や忠實なる證據を己が血を以て堅くしました、而して一切の殉教者の如く此の血は「教會の種子」となりました。

管長會が組織せられてから、スミスが銃殺されたので、初代の管長會が消滅となりました、併しスミスが神より受けたる權威と其の鍵とは最早十二使徒に授けられました、ブリガム、ヤングの樣な偉人が十二使徒の會長に立つたのは教會の幸福でありました、聖徒は自然に其の人に忠告や訓誡を願ひました、シドニ、リグドンは殉教したる預言者スミスの第一の顧問であつたが前に彼はナーヴウ市の騷動を免れんがため、ペンシルヴエニア州へ移りました、而して此の時になりて聖徒の大管長に選擧せられんことを希ひましたが、聖徒は彼が大管長に立つことを好みませなんだ、而して相談會を二三回開いた上で、一千八百四十四年八月八日全會が一致して十二使徒會を教會の管長權を有する者と認めました（使徒會長はブリガム、ヤングであつた）聖徒の目にブリガム、ヤングは不思議にもスミスの樣に見え、其の聲もスミスの聲の如く聞えたので、彼は實に神の選びたる後任であると深く感じました、又ヤングは才能ある人で以前の行は皆善行でありました、而して福音

の規則により、又聖靈により任じられた最も確實なる案内者で聖徒の信用を受くべき人であつたのであります、其でヤングは預言者スミスの遺した事業を其の儘に引受けて結果よく之を司りました、カーセージの無情なる虐殺の結果を見た敎會の敵は「モルモン」敎會が決して其の預言者と共に死なぬといふことを明白と覺りました、たとへ預言者スミスと其の性格は異つてもブリガム、ヤングは等しく萬人に優りたる偉人でありました、實にヤングは千辛萬苦を征服して終局の大勝利を得べき道に聖徒を導く人※でありました、ヤングはスミスの据ゑたところの基礎に全世界の最も不思議で嘆美すべき建築物を建てる筈でありました。

※歷史家バンクロフト曰く「ブリガム、ヤングは一切の大家の資質即ち才能、人に勝れたる精神、人を吸引する力、及び己の了簡と意志とに力を與へる程の偉大なる體格を持つて居りました、若し大家と云ふ意味が道德上、精神上及び身體上に於て力にも技倆にも人に勝ると云ふとであるならば、ブリガム、ヤングは確に大家でございました」と。

暫くの間ナーヴウ市は平穏でありました、聖徒は貧苦に迫つても神殿や他の公衆の建物の普請を繼續しました、歐羅巴よりの移住民が入市して人口が愈々殖えつゝありました、

併し聖徒の敵は何時もの通り之に反對しました、恐くは彼等は聖徒を灑々に離散せしめて、全滅するの目的を達せねば、到底滿足はしないのでありましたらう、教會の司等は夙に覺悟を極めて居た西方への轉退を早晩實現せねばならぬ樣になるべきを見拔きて、其の司等は聖徒が盡力して聖なる神殿の普請を急ぐべきことを勸めました、如何となれば總ての聖徒が殉教したる預言者スミスに依りて神より啓示されたる榮光ある教理を守ることに依りて尚一層惠福を得ることが出來る爲めでありました、聖徒が大西方へ退去する前に神殿の或る部分が出來上つて一千八百四十五年十二月より翌年の一月までに幾千人となく神殿内に入りて、教會の役人より祝福を宣授し、又聖なる儀式や禮典を執行してもらひました。

一千八百四十四年の秋及び翌年の五月に預言者スミスと其の兄弟の謀殺人を裁判に訴へる事件があつたが、審問の後其の罪人は「褒められて放免になりました」聖徒が公平の處置を受けることを如何に望んでも徒勞でありました、一千八百四十五年一月イリノイ州會は人氣に叶はんとて議決を以てナーヴウ市の成立認可及び特許狀を取消ました、無賴漢は得たりと此の時ナーヴウで亂暴狼藉に及びました、同州の知事フォルド同年四月使徒會長ヤ

ングに書を與へて「樂境を得ん」が爲め聖徒を連れて西方のロッキー山へ「引込め」と勸告しました、是は實に聖徒が以前から確に希望したことであつたが只神殿の普請が出來上らないので西方へ移住する時を延べて居りました。

イリノイ州の檢事總長ジヨサヤ、ランボーンは曰く「我州會がナーヴゥ市の特許狀即ち市權に些の定限又は改正を加ふることをなさずして直ちに之を取消したのは、是乃ち無情の殘虐に聖徒を逆待することを免許したると同一である、然り苟も統治權ある一州の州會たるものが、常に亂暴狼藉を事とし、殺人の大罪を犯して、敢て憚らざる愚昧の惡漢を幫助けて、遂に全く其の威嚴を失墜せるは實に慨嘆の至りである」と。

カーセージでスミス兄弟を虐殺した惡人が放免になつたので一千八百四十五年の秋に暴徒は力を得て愈々大膽不敵に成つて復新に保護なき聖徒の家屋を焚き是等に樣々の迫害殘暴を加へました、聖徒は財產を亡され、家屋を焚かれてから、保護を得る爲めナーヴゥの近在に居る人々はナーヴゥへ遁れました、斯る狀態で知事フォルド*は此の騷擾を鎭めんとて州兵を召し出して市民を慰諭し又行政官に服從すべきことを暴徒に命じました、十月一日敎會の司等と州兵の司令官なる大將ハルデングと檢事總長マクチュガルと上院議員ドッグ

ラスと少佐ワレンは評議會を開きました。其の結果として「モルモン」教徒は翌春イリノイ州を退去する契約を立てゝ（聖徒が退去せねば鏖にされるとよく承知して居りました）其の代に暴徒は迫害を止めると成りましたが、暴徒は此の約束を守りませんでした、イリイノ州の或る九つの郡より代表者はカーセージに集つて評議して聖徒の移ることを要求しました。

※ウエルス氏は曰く『ハンコック郡の下の方に暴徒は「モルモン」教徒を放逐し其の財産及び家屋を焼き初めて、十日か十一日間抵抗なしに續いて町より町に行きて、所在る財産や家屋を焼いてしまひました』と。
リッチャードス氏は曰く「暴徒は聖徒を悉くナーヴゥへ逐ひ拂ひ、而してナーヴゥよりミスウリ河に陷れると斷言しました」と。

聖徒は件の契約及び教會の司等の決心を體して成る可く早く西方へ移住する準備を致しました、或は地面を賣り或は貸し、或は牛馬や車輛と交換しました、又種々の財産をも或は賣り、或は信用の出來る代理人に預けて賣らせました、斯くて一千八百四十五年は暮になりました。

第二章　イリノイ州より放逐せらる、

聖徒は殆んど七年間、多少の迫害を受けながらも。大方安全に暮らして物質上にも精神上にも大に進歩致しましたが、其數も最早二万人に殖えて居りました、併しながら是等の人々は殘らず己等の住家より出でなければならなかつた、再び己等の市より放逐せられたので、自身を殘忍無情なる土人に委して、文明開化の及ばざる地方へ旅行せねばならぬことになりました。

ナーヴワ市と其の近所で畑地幾百町歩、又家を二千戸及び多くの動産を賣物に出しました、尤も彼等の多くの公衆の建物や最愛の聖き神殿は之を賣ることを欲しなかつたが、他の財産は、之を無代價又捨賣にせぬ、換言れば相當の代價を以てといふ條件で、其の買受方を一般の市民に申し込みました、併しながら自ら好んで訂結びたる平和契約條件さへも守らぬ彼等市民に向つて如何にして憎める聖徒に金錢上の補助を與へんことを望むを得んや、

其故に聖徒は財産を賣つたとは雖ども全く無代價で投與といふてもよい程でした、聖徒は近傍各所の財産を集めて非常なる損をして其を旅行に要する牛馬や道具や車輛などゝ交換しました。

敵の手にせる銃劍の鋭鋒に急がされて多くの聖徒は辛じてミシシッピ河の東の岸に集つて、一千八百四十六年二月四日西方へ足を向けて河を渡り初めました、四日より河が凍るまで晝夜絶え間なく渡船を使ひ、凍つてからは氷の上を通りました、同月の半頃までに一千人と其の所有物はアイオワ州の岸に上陸しました、是等の人々は退去の道に進んで河より西に當つて九哩程の處のシュガー小川で初めて止りました、一面雪で天氣が殊の外寒くして聖徒は非常に苦みました、天幕及び車輛の裡に寢て聖徒全體殊に病者は身體及び精神上備に艱難辛苦を嘗めました、法律上の罪もなく人道に違ふこともなき彼等は第十九世紀に於て而も文明の民なり基督教徒なりと自ら稱する人々によりて其の樂しき郷土より放逐され、此中冬寂漠たる曠野に遁れ出でゝ顧みては我懐しき住家を雲烟摸糊の間に眺め前途は唯凛烈たる寒氣と吹雪とを冒して涯もなく人影も見えぬ雪の荒野をたどりて野蠻人の領土

へ移住するの外に道ないとは何たる慘事ぞや、嗚呼彼を思ひ是を思ふ聖徒の心の苦痛や如何ならん、想ひやるだに涙の種子であります、歴史家バンクロフトは「世界の歴史中ナーヴウの退去と等しき一大慘事が亦他にあるか」と絶叫したのは實に至當といはねばなりませぬ。

＊アイオワ州の人の直話なりとて大佐トマス、エル、ケインは曰く「聖徒は朝から晩まで無限なる行列の如く西方へ旅行しましたが、彼等の面上には甚しき落膽の色こそ認めなんだけれども小山の頂上に到る毎に暫く其處に止まつて彼のモア人(黑人)が其の郷土より驅出された時の如く必ず振返りて遠く隱見する已が住家や神殿と雲間に閃めける尖塔を打眺めました」と。

十五日に退去の首唱者ブリガム、ヤングは聖徒に追着いて之を假に隊伍に組織しました、ヤングは「イスラエル人の隊伍」即ち聖徒の隊伍に正直及び德義を勸め、嚴正にして而も懇切なる掟法を以て彼等の金剛杖とさせました、聖徒が最早忍んだ艱難、及び今忍びつゝある辛苦より氣を反らせる爲に少しづゝ潔白なる遊や氣晴をすることを容されました、使徒會長ヤング及び使徒等は聖徒がアイオワ州を過る時に保護せられんとを知事に請願したる後是等の人はナーヴウ市へ行つて告別をする爲に神殿で集會を開いて殘の聖徒に新に

宗教上の義務を教へました、然る後退去しつゝある聖徒の隊伍へ歸つて三月一日引續き進行することを命じまして其の日五哩ばかり行きました、其の時より日々に雨や雪に降られ泥濘の地面を通り、賴なき者の味方なる神の慰を得て日の暮れる西方へ旅を續けました、聖徒の多數は貧苦に迫つて居つたが、尙又無くてならぬ物の無き人もありました、併しながら斯いふ次第にして皆出來る丈心を安んじて居りました、無理に不足をいふことなく悲歎することもなく、絕えず身を愼み、神に祈り、力を盡して働き、又音樂を聞いたり舞踏したりして讃美歌を歌ひ大に喜びました。*

※歷史家ホヰットニ曰く「斯の民は何等の妨害を受くることなく、己が先祖の神を其の命じ給へる如くに禮拜せん爲め、此の地を出立して原野に隱潛せしは、恰もイスラエル人がエジプトを退去せしが如し、そは彼等の子々孫々が預言を授くる聖靈に養はれ、艱難辛苦に因り健全で勇敢なる民となり、頓て大勢力を以て山間より躍り出で己等に約束されたる土地を恢復し得る樣になる爲でありました」と。

三月二十七日チャリトン川に近きショール小川で尙完全な組織が出來ました、十人、五十人、百人と組別をして各組に長を立てました、後から聖徒が追付いて來た爲に此の隊伍は大に殖えて間もなく車輛の數は大凡三千に增し牛も何千頭となく殖えて其他羊も馬も驢馬も

餘程ありました、アイオワ州の野原で不可思議に早く多くの町が出來ました、此等の町は「行路に於けるシオンの假ステーキ部」と名けられました、其の内の最も大きいのはガーデン、グローヴとマウント、ピスガであつた、而して後から來たる聖徒の爲に此の町の近所で農業をして居りました。

十二使徒の會長ヤング及び或る聖徒は六月の半頃ミスウリ河の沿岸に至りましたが、七月に聖徒の多數は此河に來てケインスヴキル町(今のカウンセル、ブラフス)を建設しました、而して其後隊伍の或る部分は河を渡つてポタワトミ及びオーマハー土人の領土に殖民してウキンターヽクワータス(今フロレンス)町を設けた、其の人口は四千人ばかりでありました。

會長ヤングは當年の夏に探險隊を率ゐてロッキー山脈へ行く豫定でありました、而して近頃英國より歸りました使徒ウキルフォルド、ウッドラフは此の時マウント、ピスガで既に此の探險を志願する人を集めて居りましたが、茲に最も奇怪な出來事が起つてヤングの計畫を妨害した爲め西方に移住することを翌春まで延ばすことになりました、此の出來事は聖徒の國なる合衆國の政府は墨色哥戰爭の爲に使用すべき志願兵として五百名より成れ

る大隊を要求したことてす、此の時アイオワの曠野に於てウヰンターー、クワータスよりガーデン、グローヴまでの間に離散せる假の村の全人口は凡そ一萬二千人の「モルモン」敎徒でありました。

第三章　二つの軍事的事件

合衆國が何の目的ありて「モルモン」大隊を徵發したのてあらうか、聖徒の幸か將不幸か、該敎徒が差出した保護請願の應答としてか、或は上院議員ベントンが言ふた「彼等若し此の徵發に應ぜずんば不忠の叛民として之を全滅せん」との恐喝を實現するが爲か、兎も角も之が如何なる目的であつても此の徵發の通知は天幕に住む「イスラエル人の隊伍」(聖徒)の人より人へ流言された時、たしかに一大災難と見做れました、聖徒は之を以て愛國心の有無を試さんとてか、若くは己等を全滅せんとの計略なるべしと思ひければ此の徵發に應ずるも應じないも、己等は直ちに剿絕に了るならんかと甚だ心配いたしました、讀者諸君よ艱難辛苦に迫つて最早殆んど勢力の無い該敎徒間より五百名の壯丁即ち隊伍の精華を奪

ひ去らしむる後の狀態を想像せよ、殘餘の者は保護給養なき食客にして而かも野蠻殘忍なる土人の領土を通過しつゝ、無比の退去の危險や困難辛苦に遭遇しつゝあるに非ずや、されば聖徒は此の慘狀の因りて來るところ皆己等の中より血氣の壯丁を徴發したる國の冷酷なる行爲にありと考へました、如何でせう、合衆國は既に該教徒を國境外へ放逐したではありませんか、又彼等が差出した一切の救濟請願をば度外に置いたではありませんか、然るに今となつて、此の政府は聖徒に何の關係もない戰爭の軍用に五百名の壯丁を徴發するとは世の中には隨分勝手な道理もあればあるものです、さればミスウリ州の迫害やイリノイ州の殉教（虐殺）や同州の知事に虐待されたると、又當時彼等の惡しき狀態などが續々と聖徒の心中に浮んで來ました、故に此の際に處する彼等の方針や彼等の司等が如何に此の事件を解決すべきや等のことが到る處の談柄となつたとはさもあるべきことでありました。

西方の陸軍の司令官なる大將カーネの部下の大尉ジエムス、アレンは七月一日カウンセル、ブラフスに到着して義勇兵を募らんとて來たと使徒會長ヤングにいひました、ところ

がブリガム、ヤングは直に「足下の徴兵に應ず」と答へました、「モルモン」教徒は忠義なる者で愛國心の篤き人であつたから此の危急存亡の秋にも己が盡忠報國の精神を十分に表す返答が出來たのです。

ウキンター、クワータスに人が不足でしたから會長ヤングと外の長老は新兵募集の士官として他の村々に行きました、マウント、ピスガで多くの人が入隊しました、それで使者は派遣されて他の村とナーヴウ市へ行つて徴募された人々の補充として中年や青年や又は老年の人々を連れて來ました、ピスガの義勇兵がカウンセル、ブラフスに到着したので、七月十五日に其の徴募が完了したのです、聖徒はバウリ（公園の如き處）で集會しました、會長ヤングは演説して「今日は家族のことを顧るべき時ではない、我等聖徒たる者は國の爲に進んで此の徴發に應じなければならぬ、是は吾等の爲すべき義務である、私は苟も聖徒であるならば當然此の徴兵に應じて喜んで二三年間安樂を犠牲に供するであらうと確信する」と。

當時に其處に居りました大佐ケインは此の徴發を約言して曰く「遠隔の村落に於ては或

は此徵發に對して呶々する者がないでもなかつたが、中央部に於ては忽ち聖徒集會を催し、徵發に應ずることに相談を一決した、而して嚮の日或は燒かれ、或は奪はれた殘餘の物品を納めたる土藏より亞米利加の國旗を取出して、之を樹木の梢に立て、三日經たぬ内に最早大隊の兵を募り、其を組織し、又發營する準備が出來たといふ報告が來ました」と。

七月十五日の晩に大隊の兵、即ち五百四十九名は親睦會に與りて、讃美歌を歌ひ、音樂を聽き、舞踏し、又己等の愛する親類や友人に別れて、十六日に西方へ出陣いたしました、此の大隊はミスウリ河より太平洋まで徒歩にて二千哩程の淋しき曠野を通りて危險及び困難を冒して漸く一千八百四十七年一月廿九日にカリフオルニアに*到着しました該教徒を如何に罵る者にても斯の如くして忠義の眞僞を試された上は何人でも敢て其の盡忠愛國の心を疑ふ者はありますまい。

*大尉ジエ、アレンが死した後大隊の司令官となれる中佐セント、ジヨルヂ、クツクは曰く「歷史中を如何に能く調査するも此の歩兵の行軍力と等しきものはない、其の通つた所の十分の九は或は野蠻なる土人及び猛獸のみの棲む曠野、或は水なき爲め一匹の生物も居らざる沙漠であつた、其故殆んど見込のないのに想像も出來ぬ大働で將來の旅行者の享有する深き井戸を幾個も堀りもした、案内者なく、人跡なき曠野

に入り、一滴の水なき所に於て幾度も陣取りしたり行進したりしたのである、而して山羊の外何物も越え難き断崖を辿り、眞直に立てる岩の狭き破目に鐵梃や鶴の嘴を以て馬車の通路を堀つて行きました」と。

件のことは其の第一の軍事的事件である、之に關係した人々は口に言はれぬ最も凌ぎ難き逆境を耐へて盡忠愛國心を立派に表しました、是は「モルモン」教徒の永遠なる榮譽であります。

尚一つの軍事的事件は斯樣であります。

一千八百四十六年教會の司等がナーヴウを出てから殘餘の聖徒は其の市を發足する準備に盡力しました、其故に一切道理を辨へる人々は滿足すべき筈でありました、然るに「モルモン」反對者は「モルモン」教徒は州を出てざる積だと虛信をし、又之を忌憚なく斷言しました、七月に此等の反對者はナーヴウを攻撃する爲に兵士を募り集めましたが、其の時ナーヴウ市の新しい市民は戰を避けました、併し九月十日と十二日カンベル教會の牧師なる大佐ブロックマンは暴徒を率ゐてナーヴウ市を攻撃せんとしました、ナーヴウの市民は敵に向はんとて集りました、十二日に一時間餘戰ひましたが、市民は小數なる爲め敗れ

て幾多の死亡者がありました、其の後暴徒は五六日間其の市を取圍みましたが、漸く條約が出來ました、其の要領はナーヴウ市の降伏すること、殘りたる「モルモン」教徒（六百人餘ばかりありました）は早速州を出づること、一切の人及び財産を暴行より保護すること、又病人を親切に取扱ふことでありました。

*先づ五月一日より最後の聖徒がナーヴウ市を出でた時までイリノイ州の暴漢は絶えず亂暴狼籍に及んで居りました。

然るに市の暴徒に降伏するや暴徒は無理無慙に其の條約を破つて、市民を非常に輕蔑して、終には直ちに立退かざる聖徒に劍を以て迫り、家具家財を置かしめたるまゝ其の住家より放逐して了ひました、九月十七日に聖徒の最後の一組は市を出てミシシッピ河を渡つて行きました、斯て聖徒は病者も貧困者も殘らず放逐されて雨宿も一錢の金もなく又始んど一枚の着物も一片の食物もない位てミシシッピ河の西の方の曠野へ追出されました、無頼者は聖徒が發足したる後、市に置いた財産を掠奪し、酒類に醉ひ、聖徒の聖き神殿に入りて卑猥き謠をうたひ、又樣々に亂暴を極め、其の聖なる普請を瀆しました。

放逐されたる「モルモン」教徒は何處へ行つたであらうか、大佐ケインは演說して曰く「彼等は何處に行けるか、最後に見えた彼等は病人や負傷者や不具者及び盲目を携へ、歎しき行列にて新しき住家を探さんと西方の天涯俯角を通り越して見えなくなりました、斯云ふ事の外誰も彼等の有樣や居る所に關する事を知つた者は無かつた、其故に好奇心ある世人の常として遇ふ度每に聖徒の運命につき語り合ひました」と。

如此一方には聖徒は種々のことを忍びつゝあり、又他方には其の同胞なる「モルモン」大隊の義勇兵は愛する國旗の下に行進して國の爲に戰はんとて墨色哥の曠野を辿りて居りました。

件のことは第二の軍事的事件であるが、合衆國の統治權あるイリノイ州及び知事の汚名臭聞と薄志弱行とは最も目に立つ對照で、是亦永遠に其の州及び知事の恥辱として記憶さるゝであらう。

元ナーヴゥ市の二万人の人口は今「イスラエル人の隊伍」として野原に住んで居りました、着物も食物も足りぬ爲め非常なる苦痛を感じました、彼等の内に熱病が流行する樣に

なつて多くの人が永眠に就きました、ウキンター、クワータスの一ケ所で六百人餘は土に葬られました、併し其でも聖徒は熱心に働き將來に安樂に此世を送ることを望んで何時にても氣を散じて心を安んじました。*

*聖徒は大に働き、歌と讃美歌を歌ひ、又潔白な遊や氣晴をして氣を散じました、ウキンター、クワータスに居りました間、又西の方ロッキー山へ旅行して居つた時、此の末日聖徒は甚く感じて出來る丈熱心に次の如き有名なる開拓の讃美歌を歌ひました、曰く

一、來れ、聖徒よ、苦をおそれずに、
　よろこびもて道をすゝめ。
たとへ旅でそつらくは見ゆれ、
　なが日のごとめぐみ來らん。
われらはつとめて、由もなき
　うれひをのぞくぞよかるべき。
さらばぞ、よろこび胸に滿たん。
　善きかな、いとも善きかな。

二、いかで我が世をかなしく思はん、
　悲しむべきことはあらじ。
われら今よりたゝかひ避けは、
　のちにはなど報酬得べき。
なが身をよろひて、勇み立て、
　御神はわれらを棄てざらん。
やがてぞわれらはかくかたらん、
　善きかな、いとも善きかな。

三、神のそなへしところを探らん、
はるかに遠き西の國ぞ。
害を爲すものそこには絕えて、
聖徒はみなめぐみうけん。
われらはうたごゑ高くあげ、
主君なる御神をほめたゝへ、
一きは高くぞかくは云はん、
善きかな、いとも善きかな。

四、たとへわが旅をはらで逝くも、
さいはひなり、いともよしや。
われらうれひをのがれ出でゝ、
正しきもの共に住まはん。
若しまたわれらはながらへて、
聖徒のやすらひ得んを見ば、
この折り返しぞいかならん、
善きかな、いとも善きかな。

（末日聖徒讃美歌第五十四）

ウヰンター、クワータス　といふ町を規律正しく作つて道を横と縱にして丸太や芝土を以て家を大凡七百斤程建てました、其他禮拜堂又色々製造所や工場や製粉所や木挽場などを建しゝ、町の周圍に石と土を以て大なる垣を造つて町を堅固にしました、聖徒は皆忙しくて用の無き人は無かつた、教會の組織に拘はつて宗教上の集會は開かれ、宣教師は傳道に

派遣され、又學校は設けられました、或る聖徒は國の西部の州々に離散して仕事を覓め、又或る聖徒はナーヴウ市へ遣されて其處の獰惡なる暴徒より遁れつゝあつた憐なる僅かなる聖徒を助ける爲に馬車や食糧を持つて行きました。

聖徒は斯くして一千八百四十六年より四十七年にかけての冬を送りました。

第四章　開拓者及び最初の隊伍

一千八百四十七年一月十四日に使徒會長ブリガム、ヤングは神の啓示を受けて「イスラエル人の隊伍等が西方への旅行に關する天主の御意及び其の戒」を聖徒に知らせました、此の宣言の内に聖徒が西方への旅行案内として適當なる訓誡と命令があります、聖徒は之に從つて直ちにウヰンター、クワータスを出て、曾て見たことの無き曠野にある住所へ發足する準備に取掛りました、聖徒の多數より先に出でゝ道を設くる爲に體軀の強健き人を一百四十四人*擇びました、四月七日に此等の開拓者はウヰンター、クワータスを出立して八日にエルク、ホーン河に近く泊りました、此處から又旅行を續けてウヰンター、クワータス

より六十哩ほど行つた時即ち四月十七日より二三日間に此の開拓者は軍事上の中隊として完全に組織されてプリガム、ヤングは其の中將に、ステヴエン、マークハムは其の大佐になりました、又其の他に大尉は十四人ばかりありました。

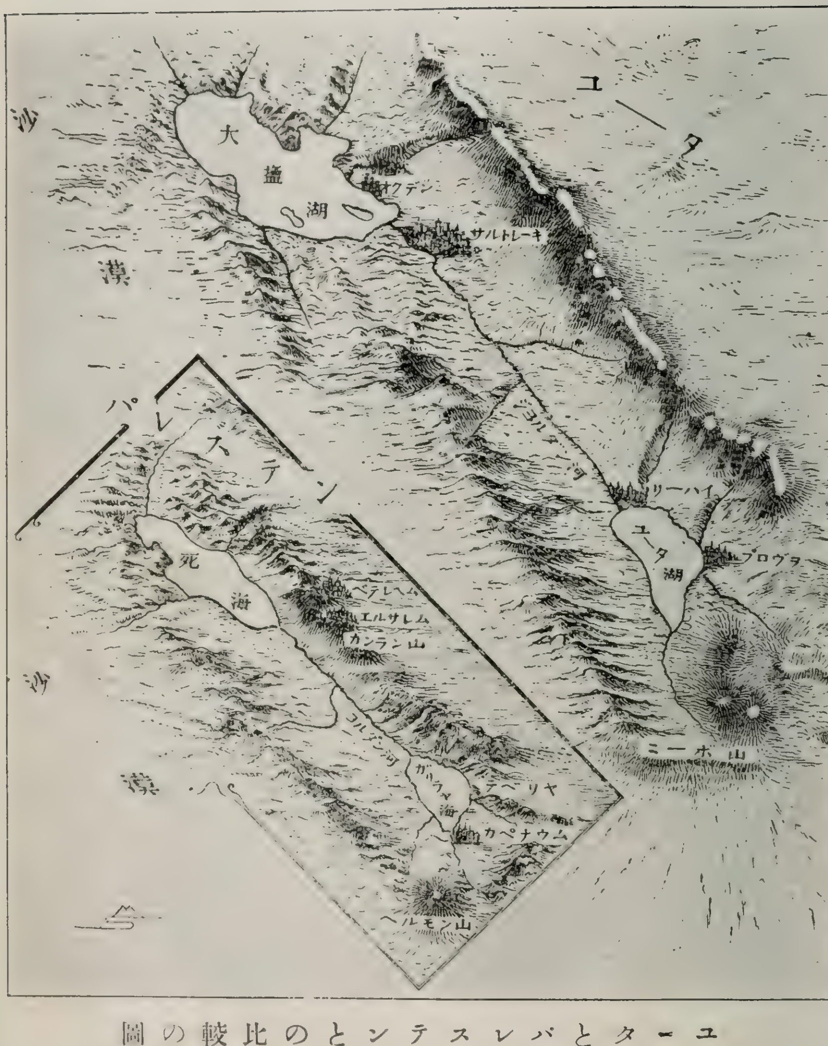
＊此の中一人なるエリス、エームスは病氣に罹つて引返したから、開拓者の數は男百四十三名、女三名、子供二人のみてした、此等の人は車輛七十二輛、馬九十三頭、驢馬五十二頭、牡牛六十六頭、牝牛十九頭、犬十七匹、又鷄を少しばかり持つて居りました。

此の中隊は河に橋梁を架け、曠野や山に道を拵へる準備が出來て、必要があらば、戰ふ武器を備へて、三ヶ月と十七日間に一千哩の旅を繼け、西方へ開拓せんとて行進しました、プラット河の北の岸を歩行いて、後より來る聖徒の爲に六百哩以上程の新道を拵へて、其から獵師の小徑を辿つて行きました、原野及び沙漠を通り、山や川を越え、幾多戰慄すべき經驗を重ね、七月二十四日（當時から有名なる日）に漸く使徒會長ヤングと其の開拓者の隊伍は大鹽湖の原野に到着しました、該開拓者の司なるブリガム、ヤングは以前に此の平穩なる境土を異象に見た時に「此處は我民なるイスラエル人が己等の天幕を張る可き場所である」との啓示を神より授かりました、此處はロッキー山中で空氣が稀薄て清燥てありま

した、而して感謝の情に滿てる該開拓者の面前に見えた境域は新しきシオンの地でありました、其故に喜悦に堪へずして大滿足にて讃美の聲を揚げて*ロッキー山を震はしめました。

＊歴史家バンクロフトは曰く「聖徒は北米の中央へ行きて地理又眞にパレスチンに符合する新しき聖地に到着しました、例へばパレスチンに死海といふものがあればユータに大鹽湖があり、パレスチンにガリラヤ海があれば、ユータにはユータ湖があり、パレスチンの死海とガリラヤ海との兩湖を相聯ぬるヨルダン河があれば、ユータにも大鹽湖とユータ湖の間をジョルダン河が奔流して居ります、パレスチンにヘルモン山があれば、ユータにもニーボー山があり、又パレスチンに沙漠があれば、ユータにも沙漠がある、其の他尚數多の相似たる所がありますと。

廿五日は日曜でしたから該開拓者は宗教上の集會を二回催して無事に該地方に着したことを神に感謝いたしました、說教者は昔の預言即ち「よき音信をシオンにつたふる者よ、なんぢ高山にのぼれ」と、又、神は「己が民を山のあひだにかくし」又「すゑの日にヱホバ(神)の家、もろ〳〵の山のいたゞきに堅立ち、もろ〳〵の嶺よりもたかく擧らん」(以賽亞書四十章九節及び同上二章と二三節)と云ふ事は己等該敎徒がロッキー山に移住することに關する預言であると主張しました。



ユータとパレステンとの比較の圖

些の猶豫もせず其の翌（廿六日）朝早く起きて馬鈴薯や穀物を播き初めました、近傍を探險する爲に五六の隊伍が組織されました、此の隊伍は殖民地の北の山に登つて其の頂上を（諸國に對する旗を樹つるに適當せる所なれば）旗の峯と名け、河と湖水と溫泉へも行きました、廿八日に神殿を建つる位置を擇び、略市の設計を定めました、八月の初頃十二使徒及び多くの他の聖徒は再び浸禮を受けて曾て神に立てた誓約を今又新に立てました、聖徒は後から來る殖民者の爲に或は土地を耕し、或は材木を伐り且搬び、或は建築に從事し、或は土坭を太陽に乾燥して煉瓦を造りました、東方へ歸る前に皆兄弟や友人を助ける爲に出來る丈盡力することを欲して居りました、然れば此の中には閑なる者とては一人も無くて皆繁忙でありました、此の開拓者が大鹽湖の原野に到つて暫くの後「モルモン」大隊の人は百四十名歸り、又ミシシッピ州よりの聖徒も大凡百名此處に來ました。

八月二十二日大會でシオンに尚一つのステーキ部は組織されて老ジョン、スミスは其の部長に選擧されました、此の時該殖民地は大鹽湖市と名けられ、地方の小川や山の谷及びジョルダン河も各命名され、又大鹽湖に灌ぎ入る河流の全地方をグレート、ベーソン

ンと名けられました。

十七日七十一名大抵「モルモン」大隊の人で善く組織されてウヰンター、クヮータスに歸りました、其の後八月廿六日會長ヤング及び百七人の隊伍（此等の人は大抵大隊の人で、其の家族は聖徒の多數と共に居りました）は該殖民地に殘る人々に告別を告げ、深く名殘を惜みてウヰンター、クヮータス※に向け發足しました。

※ウヰルフオルド、ウッドラフ氏は曰く「我等は家具や糧食の多くを積んだ車輛を以て險き山谷を踏み越えて、一千哩以上の惡しき路を通りて聖徒の爲め安宅を設くべき地方を覓めました、此所に二哩四方の市府の町割をして此所より七哩程の山から伐り出した材木と陽光に乾かした煉瓦を以て十エークル（一萬二千二百四十坪ばかり）の市角の周圍に大垣を造りました、而して其の内三百六坪を覆ふだけに丸太を以て粗屋を建て、又其の外十エークル程の地面に玉蜀黍と野菜とを播きました、此皆一ヶ月内にいたしました」と。

此の時に當り聖徒の五六隊伍は以前に出で、草分をした開拓者の後を追ふて既に發程して居りました、此等の聖徒は最初の移住民と名けられました、使徒會長ヤングの言ふて置いたことに遵つて六月にエルク、ホーン河の岸で隊伍に組織されました、使徒パーリ、ピー、プラットと使徒ジョシ、テイラーは此の隊伍を監督したが、其の下に移住民を司る委員



放逐せられたる聖徒の西方への退去



聖徒の通過せし難路



最初の開拓者の住みし丸太家

會がありました、男女子供を合せて一千五百五十三人程あつた、又車輛五百六十輛及び牛馬大凡五千頭程ありました、此の全體の司はジョシ、ヤングで、其の守法官はジョシ、ヴァン、コットでした、百人の頭は四人（ダニエル、スペンサーとエドワード、ハンターとジエデダヤ、エム、グラント及びエブラハム、オー、スムート）あつて尚其の他五十人又は十人の小分にも各組頭があつて、其から砲隊があつてシー、シー、リッチは其の大將でありました、件の隊伍等の内にユータへ來てユータ州を建設した多くの名高き人の内にジヨルヂ、キユ、カノン（其の時に二十歳の靑年であつた）イライザ、アール、スノー、ジヨン、スミス（サルト、レーキ、ステーキ部長に選擧された人）ロリン、ファー、サッチャー兄弟、ウヰリアム、ハイド、ジエコブ、ゲーツ、ウヰリアム、タブルユ、ライダ、ウヰリアム、シー、スティンズ、ジエセ、エン、スミス、チヤンセ、タブルユ、ウエストがあります。

聖徒は二つの隊伍に分れてエルク、ホーン河を出ましたが一隊は六月十八日に出立し、今一隊は七月四日に發足しました、併しながら牛馬は多く死に、又時々物に恐れて突然に

逃げ出し、尙又土人の爲に大に妨げられたので、旅行の進步は甚だ遲々てありました、旅行中に六、七人が死に、又多くの子供か產れました、此等の旅行者が以前に出た開拓者に再び逢つた時には非常に喜悅びました、スキート、ウワータ小川で使徒テイラー及び監督ハンターの發言に依りて會長ヤングの爲に立派な宴會が催されました、折々肝要なる評議會が開かれました、而して聖徒は大鹽湖よりウヰンター、クワータスに歸りつゝある開拓者に逢つて始めて己等の到處が解り、又該開拓者に大に慰められて元氣を恢復しました。

九月の末つ方件の離散したる隊伍等は大鹽湖の原野に入り始め、十月の半前に此の隊伍は皆無事に目的地に落ち着ました。

大鹽湖より引返した兄弟等は十月三十一日にウヰンター、クワータスに到着しました、其の多數は前の歲一千八百四十六年七月十六日國の徵發に應じて家族と別れた時より只の一度も友人や愛する家族に逢つたことが無かつたが、此の時こそ一方ならざる歡迎を受けました。

第五章　ブリガム、ヤング教會の大管長となる、蝗の大害、多數の聖徒西方への移住

此の時にシオンのステーキ部は二つありました、一つはミスウリ河の岸にあつて十二使徒會長ヤング及び使徒の多くが其處に居りました故、尚教會の本部でした、他の一つはロッキー山中大鹽湖の傍にありました、絶えず艱難辛苦を受けた聖徒は斯くて一千哩程離れて居つたから尚百倍したる障害に迫つて居ても皆一致して、出來るたけ愉快を盡して一千八百四十七年より四十八年にかけての冬を送りました。

ウヰンター、クワータスに於ける聖徒は頗る順境に居りました、無論病を患ふ人もあり、又死んだ人もありましたが、此の地の氣候は大に健康に適して居りました、全體として此の良民は心身堅固で互に親切で、又平和に住んで居りました、安然無事で、此の冬を過して熱心に働いて、豫想せる翌春の移住旅行の準備を致しました。

預言者スミスが殉教したる時より教會に管長會がありませんでしたから十二月五日に使

徒は集會して管長會を組織することに極めました、依りて使徒會長なるブリガム、ヤングを本教會卽ち末日聖徒耶穌基督教會の大管長に撰びました、而して二十七日又翌年十月八日にグレート、サルト、レーキ市に於ける教會の大會で聖徒は之を確定しました、使徒會は大宣言書を作つて聖徒が山の中の新しきシオンの地へ移住することを勸め、又すべて「天下の諸國諸族諸民及び此等の大統領、皇帝、王、親王、貴族、治者、君主、及び裁判官が我等(聖徒)に加勢して、ヤコブの神の爲に神殿を普請し、又平安の地、樂境の市、諸所の壓抑せられる人の爲に平和の住處を建設する」樣に願ひました。

グレート、サルト、レーキ市の人口は一千七百人でありましたが、是等の人は其の逆境に住める割合には不自由少なく其の冬を送りました、其の冬は雪は多分に降りませんで、長閑でありました、該教徒がグレート、サルト、レーキ市に到着したら十月三日最初のステーキ部の組織を完全にしました、老ジョン、スミスを其の部長にしてチャールズ、シー、リッチとジョン、ヤングは其の顧問に選ばれました、其の他高等裁決院が組織せられ、タールトン、ルーイスは監督の役に選ばれました、「モルモン」大隊の或る人はカリフオルニ

アより歸りて麥や玉蜀黍や馬鈴薯や蔬菜の種などを持つて來ました、而して其の後或る聖徒が大平洋の海岸に行つて種子と家畜とを輸入して歸りました、翌春聖徒の食すべき野菜としては只山の セゴ(百合の類)の根と防風の根及び薊のみに限つて其の牛肉は非常に惡くありました、或る人は衣服が無い爲め野獸の皮を着ま　た、又野猫と狼と狐と家鼠と南京蟲が多いので新しき移住民は大に當惑しました。

＊彼等は四百二十三軒の家に住んでなりました、耕された地面は五千一百三十三エークル（一エークルは一千二百二十四坪ばかり）おりまして其の内八百七十五エークルは冬小麥が播かれてありましたのです。

併しながら之を將に來らんとする蝗の大害に比ぶればまだ物の數とするにも足らなかつた、一千八百四十八年五と六月に此の黑き無數の害蟲は庭や畑に入りて到る處の植物を悉く食ひ盡しました、其の殖民者はセゴの根と薊とを食して將に餓死せんとする人の如く成つて、其の蟲を殺し作物を保存せんとて盡力しましたけれども徒勞でありました、作物が無くなり、又其を食ふべき人も餓死をする恐がありました、此の危急存亡の秋に鷗の大群が大鹽潮の島々より飛び來り、朝より夕に至るまで絶間なく、此の蝗を喰ひ、而して腹に

滿つれば之を吐き出して復他の蝗を喰ひました、毎日此の如くして忽ち此の害蟲即ち聖徒の大敵を亡くして了ひました、該地方の殖民者は之を看て驚くべき不思議なことゝしました、嗚呼彼等は之を只不思議なことゝして看過し得たてあらうか、否此實に神の恩惠てあつて、是に依つて彼等は餓死より助つたと考へ、感謝に滿ちたる誠心を以て神を讃美し、禮拜しました、而して今日でも聖徒は此の鷗を呼んて聖鳥といふのは別に珍しきことてはありません、又新しきユータ州の少年はセゴ百合と鷗が大に强氣なる開拓者に助を與へたことを何時も記念して、之を愛すべき筈であります。

一千八百四十八年八月十日該移住民はロッキー山中の新しき鄕土で初めて作物を穫ることを祝ひました、パーリ、ピー、プラットは曰く「大麥や小麥や裸麥や燕麥の大なる把々及び他の作物を高き柱の上に上げ結びて公示しました、而して聖徒は神に祈禱と感謝とを捧げ、讃美歌を歌ひ、演說をし、音樂をし、舞踏をし、又互に祝して其の心の悅を色に顯しました」と、「モルモン」大隊の或る人はカリフォルニアて仕事を得て暫く其處て働きました、彼等は文明世界を動かすカリフォルニアの砂金地を發見したる人の中てありました、それ

で大鹽湖の原野に歸る時に砂金を少し持つて來ました、彼等が歸つてから新しき移住民の人口は大凡一千八百人に殖えました。

又ミスウリ河の岸に於ける聖徒のことを申しますれば、一千八百四十八年の初頃教徒の多數をロツキー山に移す用意に熱心に着手し、近々にウヰンターー、クワータスを出立する豫定であつたのです、聖徒が東方に於て一つの準備所を要した故に其の司等はアイオワ州會にポタワトミ地方を別にして一つの郡を組織せんことを出願しました、而して河の東方今日のカウンセル、ブラフス市より上の方二三哩の所にケインスヴヰル町を設けました、「モルモン」教會の移住者は五六年間此處で、曠野を通つて西方へ旅行する一切の準備を致しました、歐羅巴より來る聖徒はルイシアナ州ニユー、オリーンス市より河で此の町まで來て此處よりロツキー山へ行きました、河で來た最初の隊伍は使徒フランクリン、デー、リツチヤードスに導かれて、當年ウヰンター、クワータスよりロツキー山へ出でた最初の隊伍の發足する少し前にウヰンターー、クワータスに到着しました。

此處を出立する準備として五月十四日日曜集會で大管長ヤングは己と共に大鹽湖の原

野へ行く人々にも又殘る人々にも公に祝福を宣授致しました、又此の際に聖徒がロッキー山中より追ひ出されることが無かるべしと預言しました、二十四日にヤングは聖徒を導いてエルク、ホーン河へ出足して其處で之を完全なる隊伍に組織しました、而して六月の初頃西方への旅行を始めました、隊伍は三つあつた、ブリガム、ヤングは全體の司でありましたが（ダニエル、エチ、ウエルスは傳令使でエチ、エス、エルドリッヂは守法官であつた）最初の隊伍――一千二百二十九人及び車三百九十七輛――を導いて發足しました、其の後にヒベル、シー、キンバルは第二番目の隊伍――六百六十二人及び車二百二十六輛――を率ゐ、ウヰラード、リッチヤードスは第三番目の隊伍――五百二十六人及び車百六十九輛――を導きました、七月三日最後の車が出て、からウヰンター、クワータスは殆んど無人の處になりました、此の移住者の中に後ユータ歴史に於て有名となる人はロレンゾ、スノー、フランクリン、デー、リッチヤードス、ジョセフ、エフ、スミス、ニユエル、ケー、ホヰットニ、ロバート、テー、バートン、ホゼア、スタウトと多くの他の人々でありました、近き内に傳道に行くべき使徒はケインスヴヰルに泊りました、一千八百四十九年二月七日其の町で

理由を以て此の價値なき廣大なる地積を必要とするか、此の殘忍なる土人や怖るべき猛獸の棲み、且旋風常に沙塵を揚げ、仙人掌と豺狼の外に見ることを得ざる地方や又此の廣大なる沙漠や、或は麓より頂上まで一面永遠に雪を以て覆はれ、到底足を踏み入るべからざる限なき山脈を如何なる用途に充てんとするや」と。

然るに放逐せられたる「モルモン」教徒は此の土地の中央に己が住家を建てることを好みました、此の土地に自由を得て居りましたのみならず、將來にも同じく自由を得ることゝ思ふて此處を愛しました、聖徒は酷き働及び神の惠福に因りて盛な市を幾十となく設け、沙漠や野原を庭園と變じ、又益人口が殖えたに因りて中央より遙に出でゝ隣州にて殖民地を多く設けました。

第六章　殖民事業、食料の缺乏、通用貨幣の鑄造、移民、移住永代資金の設置

オルソン、ハイドはフロンテアル、ガーデアンといふ新聞を發刊し始めました。

＊バンクロフトは其著者ユータ歷史に記して曰く「是等の隊伍に逢へる人々は皆其の正々堂々として行進することや、敵の攻擊を防がんとて沈着に且迅速に列を整へることや、又整然として秩序よく宿營及び家畜の周圍に番兵を置く等のことを見て、移住民の旅行するよりかも寧ろ完全に組織されたる軍隊といふが適當なるべしと嘆賞したり、而して實は此の天主の軍勢に優りて此よりもよく組織され、又此の以上老練に將ゐらるゝ軍隊は世に稀なるべし」と。

×此の外に凡ての隊伍の內には車に繫いだる牡牛二千十二頭、牝牛九百八十三頭、馬百三十一頭、驢馬百十六頭、又車に繫かざる牛三百三十四頭、其の他羊六百五十四頭、豚三百三十七頭、鷄九百四羽、犬百三十四匹、猫五十四匹、山羊三匹、鵞鳥一羽、家鴨五羽、家鳩十一羽、栗鼠一匹、蜜蜂と其の巢五つばかり持つて居りました。

件の隊伍等は皆最初の開拓者の道に從つて行きました、大管長ヤングは一千八百四十八年九月二十日にグレート、サルト、レーキ市に到着しました、而して其の後一ケ月の內に總ての隊伍は無事に着きました、其で人口は五千人に殖えました。

最早敎會の全體は聖靈に滿されたるブリガム、ヤング即ち合衆國の最も有名なる開拓殖民者に導かれて、「亞米利加の大沙漠」へ行つて其處に住んで居りました、此處は總て旅行者の好まぬ荒地で實に淋しき所でありました、此處は廣大なる西方の中で最も望なき厭ふ

或る開拓者はグレート、サルト、レーキ市に到着するや己が家畜群の爲に牧場を設けんとて、北方へ行つて今のテヴヰス郡に殖民しました、此の新しき村は漸次に大きく成つたので、一千八百四十八年の暮頃※今日のバウンテフルとケイスヴヰルとファーミングトン町等の所に近く殖民地がありました、同年一月に大尉ジエムス、ブラウンはマイルス、グッドイアール氏の持つた地面を買ひました、此の地面の內に今のオグデン市の位置及びウヰーバ郡の大部分がありました。

※「モルモン」大隊の大尉なるデー、シー、デヴヰスは今のファーミングトン町に近き所に移住したので其の地方はデヴヰス郡と名けられました。

大管長ヤングの訓誡に遵つて件の地方に殖民したのであります、是はヤング氏が己が民を以て山間に殖民する爲の立派なる計畫の一事でありました、ヤング氏が一千八百四十八年九月にグレート、サルト、レーキ市に到着した時に最も氣に留めたのは殖民することでありましたが、食糧が不足で如何にして之を儉約することが出來るかといふ難問がありました、作物を獲りましたが人口が多く殖えた爲め全體に足りませんでした、新しき隊伍の

人は食糧を多分に持つて來ませぬ故に翌年作物を獲る前に食糧は大層不足になつて聖徒が大に難澁や辛苦をしました、而して不幸にも一千八百四十八年より一千八百四十九年に亘つての冬は非常に寒くありました、併しながら皆一致して相助け、親切なる同情を表し合ひ、食糧有る者は貧困者に其の食糧等を分け與へましたから其の難苦を減じ、其の心を慰められました。

十食物として土より草の根を掘り出し、又家の屋根に張つてあつた獸の皮を取つて寸々に切つて之を煮ました、市の近所には野獸は殆んど無かつたが魚は少しありました。

聖徒が斯くて難澁をして居りました時ヒベル、シー、キンバルは三年經ぬ内「東州の商品」は紐育よりも大鹽湖の原野で廉價に賣られると預言しました、天下諸所の冒險を好む人がカリフォルニアへ砂金を覓めん爲め旅行してサルト、レーキ市を「中繼場」として己が商品や食料や道具を貧しき殖民者に讓つて尙早く己が目的地へ行かれる樣に牛馬と交換しました、是によりて使徒キンバルの預言は不思議にも實現されました、而して一千八百四十九年聖徒は大鹽湖の原野に入りたる第二の記念日を立派に祝ひました時に前の年の預言

は最早實現されつゝありました、其の時の大宴會で西行移住者は幾百人となく嬉々たる「モルモン」教徒と食卓を共にしました、神の惠福によりて使徒キンバルの預言は實現されました、神は洵に聖徒を保護し給ふて居りましたが、其でも或る聖徒は金を覓める氣になりました、其で聖徒の多數は將に西の砂金地へ移住せんとしましたから若しも此の時教會の司等に最も賢明なる決斷と勢力の限りに斡旋することが無かつたならば之を引留めることが出來なかつたに相違がありません、若しも聖徒が砂金を覓めんとてカリフォルニアへ行きましたならば是よりも大なる教會の大災難は無かつたのでありませう。

司等は人々が尚一入熱心に働く樣に之を勵ました、一千八百四十八年の秋五千エークル（一エークルは一千二百二十四坪許り）の地面は開墾せん爲に區劃割をされまして其の內の八百エークルの地面は冬小麥が蒔散らされました、其の他に會議堂を設計し、道路を敷設し、製粉所や木挽工場を建て、幾多の橋梁を架しました、又ビッグ、カタン、ウッド谿谷の水流をサルト、レーキ市へ引き入れんことを勸告しました、聖徒の各自に該地所が領與せられし時始めて彼等の中に其の城と賴める市內を出でゝ其の地所に竈を立てた者がありま

した。

通用貨幣の足りない時の不自由を濟ふ爲に一千八百四十九年一月聖徒は紙幣を造りました、五十仙（一圓）の札や一弗（二圓）の札を拵へました、之が大鹽湖の原野で物を印刷した始であります、又カートランド保産組合銀行の或る紙幣を通用することを決斷しました、其て預言者スミスの預言の一つは實現されまして、此の紙幣は現金と同價になりました、漸く「モルモン」大隊の兵士がカリフォルニアより持つて來た砂金を以て通貨を鑄造する爲め型を求めて二弗五十仙や五弗や十弗や二十弗の金貨を鑄造して暫くの間之を通用しましたが、國の法貨の爲に不通用になつたから之を地金として國の造幣局に賣りました。

聖徒は世上の働に取りかゝつて働きながら宗教上の義務を忘れずに總て教會組織にある各會を時々開きました、一千八百四十九年二月十二日チャールス、シー、リッチとロレンゾ、スノーとイラステス、スノーとフランクリン、デー、リッチャードスは選ばれて使徒とせられたので十二使徒の定員會の空席は補はれました、一つのステーキ部を完全に又永久に組織して、市内に十九のウワード部を組織し、銘々に監督を置きました、教會の會員

はシオンで集合すべきことも能く記憶してをりました、一千八百四十九年には大貌利顛に三万の聖徒がありました、其の中の一万人は過ぎさつた一年と三ヶ月の間に教會に入つたのです、而して司等は此の聖徒が西方を開拓するを助けんが爲め、又神の命令に遵はんが爲め、ロッキー山へ移住することを好みました。

其故に其の内の貧しき移住者に金錢上の補助を與へる樣に十月に移住永代資金を設けました、此の移住永代資金として多くの金を得たるが爲め四十年以上の間歐羅巴に於ける幾千人の聖徒は其の世智辛き窮境を脫して景氣好き亞米利加へ移住が出來る樣になりました、總監督エドワード、ハンターは此の移住事業を始め、又翌年の移住者を世話する爲に東方に派遣されました、其の時に多くの重立つた長老は傳道者として派遣されました、或る長老は佛國、スカンヂナビア半島、以太利、下カリフォルニア、大平洋のソサイエテ諸島へ行つて始めて傳道し福音を信ずる機會を人に與へ、又或る長老は傳道の事業を助けんとて既に宣敎師の居る所へ行つて神の道を弘めました、移民補助會社の支配の下に西方へ參つた最初の移住隊伍は一千八百五十年十月十三日にサルト、レーキ市に到着しました。

聖徒は殖民することを繼續しました、今日のユータ、サンピート、トエレ、セヴキール、アイヨン等の郡、又南方の外の郡をも探撿して之を殖民しました、其の後探撿隊及び殖民隊は四方の各地へ行きました、而して此等の人々の内に樣々の商人や職人があつて、牛馬なり食料なり道具なり其の他必要の物品を十分に持つて行きました、此等の人は大抵志願者でしたが、宗教上から適當に組織せられて、大殖民者ブリガム、ヤングの許に送致けられました、民政事を施行する前に教會の役人は人々の裁判官として之を支配し、又一切公衆の事業を司りました、而して聖徒は其の支配及び訓誡に依りて沙漠を開拓し、町と市を設り、大事業を致して居りました、此の開拓者の働は實に不思議でありました、今日では彼等と其の子孫とは墨色哥より加奈太まで一千哩以上の長き地方に住んで居りますが、此の凡ての大西方なる統治權ある州と領土の山間には聖徒の繁昌する村も市も多くあります、聖徒は即ち離散せるイスラユル家の殘の者にして各國より亞米利加のシオンに集合して居ります、而して神は之を以て實に「奇くて最怪き事」を爲し給ひつゝあります。

第七章　領土ユータの行政組織、合衆國中央貫通鐵道及び電信線敷設の出願、土人の懐柔及び反亂

一千八百四十九年の春よりユータの眞の政治上の歴史は始まるのです、之までユータの殖民者は合衆國政府に治められずに教會の最も善き組織に依りて支配されました、施政の必要は無い位で、尚又施政する時間もありませんでした、我國政府は聖徒全體を外國に放逐したに拘はらず、教會の司等は却つて始終國政府の管下に居ることを好んで居りました、而して愈他の宗教の信者がユータへ移住するに從つて此の事を一入希望しました。

合衆國と墨色哥が戰を止めて一千八百四十八年二月二日グワダルペ、イダルゴ媾和條約を結び、其に記名捺印したので我合衆國は廣大なる西方を得ました、後に之をカリフオルニア、ニヴアダ、ユータ、ニユーメキシコ、アリゾナ等の州や領土にしました、末日聖徒は己が國に加勢して此の地方を墨色哥より取つて開拓し始めました、而して此の新しき領土には該聖徒の外には先づ何人も居ない位でしたが、該聖徒は元氣の好い人で此處を開拓

し、殖民することが出來ると思つて居りました。

聖徒は此の西方で民政事を施行するの必要を感じたれば「領土若くは州政府を設置することに關して凡そシエラ、ニヴアダ山脈の東方、上カリフオルニアの市民に協議を遂げんが爲め」一千八百四十九年三月の初頃評議會を催しました、此の評議會は三月四日サルト、レーキ市に開會しました、四月三十日此の會はブリガム、ヤング及び二千二百七十人の記名したる請願書を博士ジエ、エム、バーンハイセルに持たせてワシントン市に於ける國會に遣りました、此の請願書の内には「成る可く遲滯なく、我國の最も立派なる憲法によりて、出來る丈寬大なる領土行政の成立認可」を願つてあります。

此の評議會は國會が該請願を聞届けて法律上の政府成立を認可するまで委員會に假憲法を作らせて之を以て民を支配することに極めました、三月十日該評議會は選定せられたる委員會の作つた假憲法を可決し、假政府を設けてデゼレト州と名けました、其の他に上院及び下院から成立つ州會を設けて其の權力と職務を指定し、又ブリガム、ヤングを知事に選定しました、此の新しき州は殆んど二年間國會の承認なく、全く此の「モルモン」教徒の

政府に依りて治められました、此の政府は「モルモン」教徒たると無信者たるに係はらず、何人にも公平の處置をしました、而して通過移住者が絶えず己等の葛藤を此の裁判所に訴へたが、該裁判所の判決は偏頗なく公平で實に名聲嘖々たるものでありました。*

※合衆國陸軍測量部附の工兵大尉なるハウワード、スタンスブリが一千八百四十九年八月二十八日サルト、レーキ市に着して同年の冬を其所で送り、一年間領土ユータに滯在し、大鹽湖の原野及びユータ湖と其の近在を探撿し、又之を測量しましたから右の如く證言するのであります。

一千八百四十九年七月二日デゼレト州會はサルト、レーキ市で開會して上院も下院も議決を以てデゼレトが合衆國の統治權ある州と認可せられんことを復請願することに極めました、其で更に歎願書を作つてアルモン、ダブルユ、バビットを國會への代表者に選擧して之に歎願書及びデゼントの假憲法を持たせてワシントンへ遣しました、同年十二月二十七日バビット氏はイリノイ州選出の上院議員ステヴエン、エー、ドグラスを以て該書面及び己がデゼレト假州の代表者委任狀を國會へ提出しましたが、國會は此の歎願を聞届けずにバビット氏を國會へ入らせなかつた、其の代に九ヶ月を經過してから「ユータの爲に領土

政府を成立する法令」を可決して、大統領ミラード、フキルモールは之に記名し、一千八百五十年九月九日に實施になりました、而して大統領はブリガム、ヤングを領土の知事に任じました、ブリガム、ヤングは一千八百五十一年二月三日宣誓して四月五日デゼレト州會を解散して假州の政府を廢止して領土ユータ政府を開始しました。

假州會は多くの法律を作つたが、其の最も大切なる法令は左の通であります、一千八百四十九年より一千八百五十年の冬にサルト、レーキ、ウキーバ、ユータ、サンピート、ジユアブ、トエレ等の郡を成立する法令を作り、デゼレト大學校に特許狀を與へ、一千八百五十一年一月九日グレート、サルト、レーキ市の成立を認可し、二月六日オグデン市マンタイ町プローヴヲ市パロワン町の成立を認可し、二月八日末日聖徒耶穌基督教會を法人にしました、其の後領土政府の議會は此等の法令を可決して正當なる法律としました、一千八百五十一年八月の第一の月曜日にユータの人民は議會議員を選擧し、又國會への第一の代表者に博士バーンハイセルを選擧しました。

領土ユータが成立されて一千八百五十四年の暮頃まで種々政事上の變化がありましたが

之は大抵中央政府の派遣したる裁判官に關係がありました、此の官吏が種々の非行をした爲に大統領は幾度も之を免職して更迭せました、此の變化が行はれて居る間にユータの人民は尚一層重要なることを致して居りました、知事ヤング及び議會の議員は他州の市民と益々親密に交際せんことを好んだので、一千八百五十二年三月三日國會へ請願書を出して太平洋の海岸まで中央貫通鐵道及び電信線を通ずることを願ひました、其の理由の内に「太平洋方面へと又太平洋方面よりとの移住民は頗る多大なれば天下の最も寛大にして且卓越なる我合衆國政府は宜しく迅速なる注意と守護の念慮と開發的補助とを與ふべきものであります」と、又若しも之を敷設せんとせば「適當なる道筋を得ることが出來る、而して又斯云ふ鐵道がなければ、到底我合衆國の市民の利益の爲にカリフォルニア及びロツキー山の鑛產富源を十分に開發することが出來ませんが、此を敷設すれば、支那及び東印度諸島の貿易品は殘らず我國の中央を通過するので、亞細亞と太平洋の貿易は大抵我國民の支配となるべく、更に現今他路を廻送する何百萬弗に上る商業上の物貨は我合衆國の州々を通過するに依り、我市民は是に依りて潤澤を得られることになります」と、一千八百

五十三年知事ヤングは領土ユータの議會に教書を與へて中央貫通鐵道の必要なることを勸め、又此の必要を十分に説明して國會に請願するの急務なることを其の議員に勸告しました、其故に一千八百五十四年一月庶民の大評議會が催されて市民はサルト、レーキ市を經て太平洋までの鐵道を敷設せんことを出願する準備をしました、併し又其の後請願することも必要でありました、而も十五年以上經過しなければ、鐵馬即ち汽車の轟々たる響は尚まだ聖徒の避難せる谷間を震動せしむることが出來かねたのでありました。

新しき移住民が來たので、村と市との數は愈々増加し、又大きくなりました、北方のベアル河よりグレート、ベーソンの南方の端まで、又サルト、レーキ市の東西にも末日聖徒の殖民地は三十ばかりありました、公衆の建物や商館が出來て居たし炭坑や鐵坑を發掘してあつた、又到る處の製粉所や木挽場は忙しくありました、領土政府は製造業に奬勵金を與へて之を保護しましたから所々に製造場が出來て他地方からの輸入品が減少しました、領土ユータの歳入は二万六千弗以上でありましたが、其内一万弗を以て幼稚の事業を養成し、地方を測量し、新道を敷設し、橋梁を架し、又教育上の事業を進歩せしめました、一切末日聖

徒の殖民者は到る處の殖民地にて何時にても公衆の建物として最初に學校を建てたといふことは讀者諸君の注意を喚起すに足る處と信じます。

一千八百五十三年二月十四日現在サルト、レーキ市に建設されてある大神殿の地面に始めて起工して同年四月六日其の建築の隅石を据ゑました、四十年の後一千八百九十三年四月六日に此の建物は出來上つて献殿されました、而して「此の建築の壯麗善美なることは米國中或は随一と稱し得ずとも恐くは他に之に勝るものなし」と喧傳されました。

一千八百五十三年十月教會の大會で多くの人がアイヨン、トエレ、サンピート、ボックス、エルダー、ジュアブ等諸郡の殖民地へ行く樣に喚び出されました。

大管長ヤングは賢き仕方により土人を親切に扱ひました故に土人は漫に聖徒に敵對しなかつた、ヤング氏が土人に對して終生執りたる穩當なる方針によりて、ユータに於ける多くの財產は土人の爲に損害を受くることなく、殺傷の危害を加へらるゝことも極めて少かつた、此の方針は「土人とは戰ふよりも寧ろ之を養ふ方が經濟である」といふことでした、而してヤングは普通の市民としても知事としても政府の土人支配人としても又教會の

大管長としても何處までも此の方針を變へずに實行いたしました、かゝる卓越せる「モルモン」教會の大管長が此の通り老練に土人を取扱ひましたに係はらず時々戰がありました、其の第一は一千八百五十年と一千八百五十一年とに起りました、其の後一千八百五十三年まで平和で在ましたが、墨色哥の商人がユータへ來て鐵砲や彈藥や馬など土人の女や子供と交換して後之を奴隷として賣りました、知事ヤングは此の貿易を惡しきこととなりと主張して土人及び墨色哥商人の感情を害しました、言ふまでもなく此の墨色哥人が土人を煽動した爲に一千八百五十三年土人は聖徒に逆つて來て所謂るユート（ユートは土人の支族の名です）戰爭が起りました、該地方を通過する移民も無理に土人を銃殺したので、聖徒は大に困難を致しました、漸く一千八百五十四年の春に平和條件が出來ました、此の戰爭に白色人種の者は二十人又多くの土人が殺されました、又領土及び其の人民は大凡三十万弗の損害を蒙りました。

第八章　永遠結婚及び一夫多妻

一千八百五十二年八月二十九日サルト、レーキ市に於ける教會の大會にて宗教上の教義として公然發表せられたる最も興味あるものは一夫多妻主義を執るといふことでした、併し夙にナーヴウ市とウヰンター、クワータス市で又ユータで、聖徒は永遠結婚の中に含まれる一夫多妻といふ教理を實行して居りました、一千八百三十一年神は始めて此の教義を預言者スミスに啓示し給ひました、而して一千八百四十一年ナーヴウ市でスミスは始めて之を或る重立つた長老達に教へました、すると預言者スミス及び其の長老は此の教義を實行致しました、永遠結婚の啓示は一千八百四十三年七月十二日に記錄に載せられました、永遠結婚といふ教理の中に一夫多妻のことが含んであるけれども、人は多妻を持たねばならぬとの教ではありませぬ、永遠結婚とは、結婚は永遠に繼續するといふ意味です、聖なる神權を以て地に於て繫ぐことは天に於ても繫ぐのである、其故に聖なる神權を有する人が結婚式を執行するならば、其の夫婦は一世のみの夫婦でなくて、永遠に夫妻の關係を有するのである、即ち復活した後も夫妻である、此の教義は一般の人類の意見即ち結婚は死ぬ時までの契約であるといふことゝ全く反對で、男女が神の言葉に適ふて正式を以て結

婚すれば、其の交際は永遠に續くし、又此の夫妻及び家族の關係は未來の世にて永遠に繼續するのであるといふことです、其故に人が未來の世に於て崇及び榮光を受け、又永遠に存在すべき不滅なる子を數限なく產じ終に一神となる程の勢力を得る爲には永遠結婚は最大なる必要事件であるのです、預言者スミス※は虐殺される前二年以上の間何よりも此の永遠結婚と云ふ立派なる敎義及び死者の爲の浸禮と贖救と永遠結契の儀式等のことを最も留意して敎へました。

※預言者スミスは曰く「神の性質を知り、又人々が面と向つて語る如く人が神と顏を合せて直話が出來るといふことを確に承知するのは福音の第一の原理である、—中略—嘗て神は我等の如き人でありましたが、今は最高位に達せられたる人に成られて彼の天にて君臨して居らせられる」と。

ロツキー山で聖徒は自由を得て居りましたから此の八月の日該大會でブリガム、ヤング氏は心を慰める此の敎理即ち永遠結婚及び其に含有さるゝ一夫多妻の敎を公然と發表しました、是まで唯ジョセフ、スミスと重立つた長老のみ此の敎理を知つて密に之を實行したのであつた、如何となれば其の時代の人々の偏見や學問や傳說及び意見に相反した故で

あつたのです、此の時から宣教師は全世界へ行つて此の教義をも宣べ傳へました、此の後一夫多妻の教は合衆國政府の官吏と「モルモン」教徒の最も相反する問題となりましたが、漸く一千八百九十年九月二十四日教會の大管長ウキルフォルド、ウッドラフは、一夫多妻に關する宣言を發して其の實行を止めました、翌十月の大會の時聖徒は其の宣言を一つの掟法と見做して其を承認しました、而して今日では一夫多妻の教理を教へぬし、又實行することを許しませぬ、併しながら總て眞實なる聖徒は己等のシオンの地に點々散在する聖なる神殿に入りて一世のみならず、永遠に繼續する結婚の式を擧ぐるのであります。

第九章　ユータに於ける凶作、手車隊の大災難

知事ヤングの最初の年期が滿ちますと小人がヤング及び總ての末日聖徒に就て流言したる無根の事を事實と信じた合衆國の大統領は復「モルモン」教徒ヤング氏を知事に任ぜざるべしといふことが明になりました、併し大佐イー、ジエ、ステプトの行爲の爲め、大統領は此の決心を變へました、大佐ステプトはカリフオルニアへ軍隊を率ゐて行く途中に一千八

此の人を知事に任じましたが、ステプトは叮寧に之を辭退しました、而して重立つた「モルモン」敎徒や非敎徒や中央政府の司法官や陸軍の士官と一緒にヤング氏を知事に再任することを大統領に出願しました、すると大統領は其を聞屆けてブリガム、ヤングを知事に任じ、復土人支配人に任じました。

一千八百五十五年十二月十日チャ－ルス、シ－、リッチとジョルヂ、キユ、カノンと外の人がサンフランシスコ市へ出立しました、カノン氏は當地に於て毎週一度發行する「ウエスタ－ン、スタンダ－ド」新聞社を設置して、一千八百五十六年二月二十三日始めて之を發刊しました、其の當時モルモン經典は布哇語で出版されました。

一千八百五十五年十二月十日議會は始めて領土の新しき都フキルモ－ルで開會しました、此の開會期間に尙一度領土ユ－タを合衆國の一州と認められんことを出願しましたが成効しませなんだ、當時紐育で「モルモン」といふ新聞の主筆ジョン、テイラ－及びジョルヂ、エ－、スミスは此の出願及び州憲法を國會へ提出する委員として選定せられました。

一千八百五十四年より一千八百五十五年にかけて蝗が多くあつた爲又水の不足な爲作物が外れました、一千八百五十五と六年の冬は殊に寒くありました、牛、羊は何千頭となく或は寒氣に斃れ、或は餓ゑて死にました、該災難が續々と起りましたので、聖徒は大に難澁をして再び草の根を堀り出して其を食ひて生命を支へました、饑饉の用心に食糧を蓄へた人もありましたが、貧苦に迫つた人々を快く助けた爲め、其の僅の貯は直ちに無くなりました、物を有つた人は物を有たぬ人に分け與へました、斯くて多くの難澁を免れました、歴史家ホヰットニ曰く『「共立主義」の金科玉條は即ち「協和及び平等」でありましたが、此の時にも「モルモン」教徒は協和及び平等を重じて互に相助け、又他宗旨の貧しき信徒と總ての貧しき人を助けました』と。

聖徒は斯くて難澁をして居りました時に土人は所謂るテンテク戰爭といふ一揆を起しました、此の一揆に殖民者は十二人殺されました、一千八百五十六年ユータへ旅行した聖徒は土人の亂暴の爲に種々の辛苦を致しました。

同年東方より來た多數の手車隊が大損害に遇つたのは其の年の最も大災難であつた、而

して之が爲に教會全體は意氣沮喪して悲哀に沈みました、『曾て「モルモン」教會の司等の調査によれば、移住する聖徒は牛を車に繋いで其を以て西方へ旅行するよりも手車を挽いて旅行するが經濟で、且迅速であるとのことで、爾來ミスウリ河の界で、手車を拵へて之に荷物なり食糧なりを積んで力の强い人等に之を挽せて歩く次第でありました』當時に移住する聖徒は大抵英國人にして凡てゞ五つの隊伍があつた、是等の人は手車を挽いて沙漠や川を徒歩にて渉り、山に辿つて一千三百哩の曠野を通つて、サルト、レーキ市へ行くことに極めました、三つの隊伍は三ヶ月旅行して比較的好き都合に大鹽湖の原野に到りましたが、後の二隊は早い冬の雪に降られて暴風に中りました、此の二隊は餓ゑて言ふに言はれぬほどの難澁を耐へて辛じて其の存命者は大鹽湖の原野に入りました、最後の一隊は四分の一以上程死んだので、只六百人許サルト、レーキ市に到着しましたが、若し救助隊が生命を堵して其の隊伍を迎へに行かなんだならば皆死んだのでありませう。

第十章　ユータの遠征軍

合衆國政府は領土ユータのことは無頓着であつた、然りユータと其の正當なる請求とを輕々に看過しました、ユータが他州と同樣に州と認められるを願ふたが其を認可しなかつた、他の領土にならば議會と役所の費用及び土人の騷動を鎭める入費として幾多の金を支出したが領土ユータには支出を吝みました。

而して甚しきに至つては多くの策士をユータへ遣して民の裁判官としました、良民の中に彼等に同情を表し、又彼等を信用する人が無かつたので、彼等は國民が「モルモン」教徒に對する冷淡と偏見を尙重大にせんと努めて樣々の謀を廻らしました。

中央政府の派遣したる裁判官が數人退いて他へ行きましたので、ユータの裁判所は事務が輻輳し且澁滯して居りました、其故に一千八百五十二年ユータ議會は法令を設て地方裁判所に「議會が法令を以て禁ぜざる限り慣例法に依る裁判に於ても又衡平裁判に於ても民事及び刑事上に於ける自治裁判の權能」を與へました、此の故に種々の葛藤が起りました、中央政府の派遣したる裁判官は地方裁判所が總て上級裁判所の權能を無効とすると斷言しましたが、「モルモン」教徒は若しも地方裁判所に以上の特別の權が無かつたならばユータ

に於ては民事及び刑事裁判所は實際無きに等しと主張しました、當時就職中の二人の中央政府の派遣したる裁判官（スタイルスとドランモンド）※は邪心卑劣なるもので前任者と違つて下級裁判所と其の役人の權威を度外視しました故、人民も此の二人の者を保助せなんだ、其て勢力も人望も無くて裁判官スタイルスは己の管理した裁判所を據無く止めました、一千八百五十七年の春スタイルスはワシントンへ歸つて據無く裁判所を止めたと誓言しました、其の誓言の內には人民が裁判所の記錄書を燒き、己に暴行を加へんと恐喝したといふことなどがありました、尤も人民が其の記錄書をスタイルスの事務所より取つたのですが、其を能く保存して而して後に之を出しました、併しながらスタイルスの誓言は四方へ廣つたので、國民が其を信じて尚更「モルモン」敎徒を非難しました。

※歷史家バンクロフトはドランモンドに關して曰く「ドランモンドは己の妻と家族とを養育もせず、又扶持もせずにイリノイ州に打捨てゝ、ワシントンの路頭に於て見出した賤業婦をユータへ連れて之を己の妻と吹聽して裁判所にて己の側に座らせました」と。

裁判官ドランモンドは大に人望を失ひました、放逸不行跡のみの爲でなくて、職務上に

不都合があつた爲でもありました、其故に遂に辭職せんと決心しました、一千八百五十七年三月三十日辭表を檢事總長ジエレマヤ、エス、ブラクに呈しました、其の理由の内に多くの捏造したる讒誣があつた、教會の司等の命令に從つて領土ユータの大審院の記錄と書類が亡されたと云ふこと、又中央政府の派遣したる裁判官が保障なく始終人民に輕蔑せられ、困せられ、迷惑をかけられると誣告しました、又知事が無理に犯罪人を赦免し、己の願のみが叶ふ樣に豫め陪審官に言ひ含めるのであると誣告しました、人民は司法部を翫弄物視し居る故若し「司法官が十分に己が職務を執行せんとするならば輕蔑せられ、嘲哢せられ、遂に謀殺せられる」と言つたのである、而して辭表の結文には速かに知事を更迭し、而して「其の新知事を補助する爲め十分の兵力をユータに置く」ことを勸めました。

大統領ビューカナンは此の虛報及び不平を鳴らせる他の官吏よりの些細な苦情を實際と信じて、輕忽にも十分なる取調もなさず、ユータに騷動があると思ひました、併し「モルモン」教徒は其の當時も現今も永久にも國家と國法に忠義を盡して居るので、其の吹聽された誣告に一々答辯したに拘はらず合衆國の役人と人民とは滿足しませなんだ、大統領はヤ

ングの職を褫ぎ、アルフレド、カンミングを知事に任じて儼然新知事の權威を保障する爲め領土ユータ守備兵として二千五百名の兵を組織させて之に總て軍用品を携帯させてサルト、レーキ市へ行進すべく命じました、此の兵は若し必要あらば何時にても其の必要に應じて無法なる人々の騷動を鎭める目的でありました、一千八百五十七年六月二十九日に此の兵の司令官は處置方法を敎へられました。

※當時に最も人心を沸騰させたることは奴隷問題でありましたが、大統領ビューカナンは奴隷を所有する南部の人々に同意を表して居りました、而して將に起らんとする南北戰爭に於ては南部が勝ち得ることを熱望して居りました、故に此の望が叶ふ樣に不忠にも國兵を成る可く離散せしめんと努めたと云ふ說があります。

ユータへの郵便が中止されたので、「モルモン」敎徒は己等が國家の陰謀者と目指されをることを知らぬと共にユータへ軍勢が來つゝあるとをも知りませなんだが、一千八百五十七年七月廿四日該地方に移住十年祭を盛に執行して居りました最中に東方より使者なる三名の「モルモン」敎徒が來て政府の追討軍がユータへ行進して居ると云ふことを始めて聖徒に報知しました、其の晩大管長ヤングは聖徒を集めて演說する內に曰く「煽言者は我

等聖徒が國家に對して叛を企てたと誣告したので、大統領が此の領土を鎮撫せんとて軍勢を召集して此處へ遣すのである―中略―我等は未だ曾て國法に逆ひしこと無く、此の後も又叛を企つる意志も無し、然れども若し此の民を亡ぼさんとて來る國あらば全能なる神の守護を得て我等は之を撃退せん」と、やがて再び其の祝祭は續けられました、人心は動搖しなんだが、其の時から戰爭は聖徒間の殆んど唯一の談柄となりました。

九月八日大尉ヴァンリートがサルト、レーキ市に到着して懇ろに歡迎せられました、此の人の使命は食料を買ふことや、合衆國政府は「モルモン」教徒に干渉もせず、又彼等を苦めないと云ふことを聖徒に告げることでありました、又軍勢をユータに遣されたる目的は新官吏を任に就かせる爲であるとも云ひました。

九月九日大管長ブリガム、ヤングは此の人と面會をして答へて曰く「足下が其の所信を告ぐるものなることは私の疑はざる所である、然れども足下は未だ私程に能く其の眞意が解つて居らぬ―中略―足下が買はんとする物品は十分にあるけれども足下には何も賣られませぬ、而して又足下の軍勢をも此の原野に入れることは出來ぬ」と、

大管長ヤングはミスウリとイリノイ兩州にて兵事に關して積んだ所の經驗に依て、兵隊の主張することを信用せず、其の目的を疑ひました、如何となれば何故に其の官吏を兵力なしに遣さなかつたであらうか、以前に該聖徒は合衆國政府の官吏に敵對したとが無かつたから、今何故に兵力を以て官吏を就職させる必要があるであらうか、其の眞目的は確かに隱されてある、其の眞目的は「モルモン」敎徒を鏖殺にして其の家屋や所有物を破壞して彼等を全く滅亡させるのでありました、ブリガム、ヤングは斯云ふ樣に考へて其の兵を入らしめぬことに極めました。

大尉反駁して言ふには、若し足下が寡少の兵力を以て此の峠を守つて、今、來つゝある國兵をユータに入れないとするも、政府は二三ケ月を出でず、援軍を送つて總て斯る抵抗を壓して進入するに相違は無いといひました、大管長ヤング答へて曰く「足下が陳べられた通てあると承知して居るが其の兵が到着したならユータは唯沙漠のみであつて、一切の家屋は燒かれ、一切の樹木は斫り倒され、又一切の畑は荒蕪してあることが解るのであらう」と。

大尉は之を聞いて非常に驚くと同時に深く感じました、而して之を陸軍卿に報知せんとてワシントンへ戻りました。

此の大尉が立去つた後九月十七日知事ヤングは領土、ユータに戒嚴令を布ましたナーヴウ軍團を完全に組織して、ダニエル、エチ、ウエルスを中尉にし、國兵の進入を防ぐ爲め靑年及び老成者二千五百名を召集しました、十月の初にグリーン河でロット、スミスは國兵の軍用品と馬車に火を放ちて之れを燒き、又ブリッジヤ兵營を無くしました、頓て侵入兵は饑ゑ、又寒氣に挫け、大に勢を殺がれてブラックス、フォークへ退いて其處て冬を過さねばならぬことになりました、其故に十二月の初にユータ民兵は番人の外皆町に歸りました、翌春まで兵は此のまゝに居りましたが、春になると必ず再び戰が始まるに相違が無いと聖徒は覺悟をして居りました。

其の間に知事ヤングは大佐トマス、エル、ケインに賴んで眞相を大統領ビユーカナンに報告させました、すると大統領は此の大佐を密使に任じて調和的の通信を帶ばせ、ユータへ派遣しました、大佐ケインは一千八百五十八年二月二十五日サルト、レーキ市に着しま

した、而して大佐は新知事が軍勢なしにユータへ入るならば差支はないが兵隊の之と共に入ること、又領土の何れの市にも何れの殖民地にも陣を取ることは聖徒が之を許さぬといふことを明に知りました、大佐ケインは雪を踏みてブラックス、フォークへ行つて軍勢の必要がないといふことを知事カンミングに直ちに得心させました、すると兩人でサルト、レーキ市へ出かけて四月十二日に到着しました、知事カンミングは大管長ヤングに懇ろに迎へられて遲滯なく、平穩に己の新役に就かしめられました、大佐ケインは己の崇高なる平和的使命を全ふしたので、其の成功したことを報知する爲め再びワシントン市へ歸りました、是に於て大統領ビユーカナンは此の軍隊の處置に窮せざるを得なんだ。

六月ケンタキ州知事パウエルとテキサス州少佐マツクロークは講和委員としてサルト、レーキ市で大管長ヤングと會見しました、此の二人は合衆國の大統領より、總て國權に服從する「モルモン」教徒の過去の罪と謀叛を悉く、又快く赦免する書面を持て居りました。

大管長ヤングは己の地位を陳べて曰く「不束なる己の罪を赦免することにつきては大

統領ビユーカナンに感謝します、併しながら果して如何なる罪を犯せしかを解するに苦む、「モルモン」教徒たる我等は今も昔も國法を守る忠義なる良民であるといふ一つのことを知るのみである、勿論ロット、スミスは國兵の軍用品を積みたる馬車を焼いて了ふたのである、其は實に暴行であつた、若も此の罪を赦さるゝことならば謹んで赦免を乞ふのであります」と。

會見の結果遂に軍勢を當地方に入らしむることに決しました、併しながら其の兵はサルト、レーキ市を距ると四十哩以内の地又は領土の何れの町や殖民地に陣を取るべからざる條件がありました、六月二十六日該兵がサルト、レーキ市を通つて南方へ行き陣を取て其處をフロイド兵營と名けて一千八百六十年まで其處に居りました、一千八百六十一年其の最後の兵が出立しました、該兵の多くは南北戰爭に出ました、大統領ビユーカナンが「モルモン」教徒を征討せんとて遣した遠征軍の司令官アルバート、シドニ、ジョンストンは南部の反對黨に加はつて戰爭に出ました。

該兵隊が始めて大鹽湖の原野に入りて四方の荒廢を見て非常に感じました、聖徒は最早

兵隊の約束を信用せずに、行衞も知れず、三万人南邊へ遁れたのです、聖徒の逃走した村と市には只松明を持てる番人のみ居りました、是は若しも敵兵が聖徒の居た所を通つて再びファー、ウェスト市とナーヴウ市の如き名狀すべからざる暴行をせんとするならば番人は聖徒が刻苦勉勵して儲けた家屋と所有物を松明を以て火を放ち燒盡さんと決心して居りました、知事カンミングは聖徒が逃走せざる樣に忠告しましたが徒勞でした、大管長ヤングは曰く「知事よ我等は軍隊が背約することを毫も意とせざることを熟知す、丁度之と同樣の折に於て我等の武器なき男子は無慙にも殺戮され、我等の處女は强淫せられ、又我等の妻は我等の面前に於て强姦せられて、死にたることを目擊したのである、知事カンミングよ我等は軍隊の反覆常なきを熟知す」と。

斯くて聖徒が己の町より遁れたことを「移動」と申されたのです、此の「移動」は聖徒に加はつた迫害及び其の犧牲的精神に富めることに就きて大に合衆國と歐洲との人民の注目を惹いたのである、此等の國民は此の「移動」に關して深く研究し所謂「モルモン」敎徒は勇氣に富み、信仰堅く、而して誠實なる者であると認めて、大に新聞紙上に之を賞揚しまし

たのであります、斯くて「モルモン」教徒は大に世人の同情を得ました、聖徒は自分の家屋と市とを全く犠牲に供し運命に一任したが、此度は幸に其の災難を免れました、斯くて「移動」の目的を達したので聖徒は再び己が愛する町や市に歸りました。

斯くの如くして所謂「戰爭」は終局を告げましたが、政府は何等の利益をも得ず、又目的をも達せずして、却つて一千五百万弗の國費を費して全く愚弄されたことになりました、併しながら此の戰爭によりて「モルモン」教徒は己等の主義を重じ、之を守り、危難に逢ふ毎に勇氣百倍し、國家に忠義を盡す人々であると世人に認められて、大に貴ばれ尊敬さるゝ様になつたのでございます。

第十一章

恢復期間、改心を促す運動、電信線及び鐵道の敷設、シオン共同商會の組織

該軍勢がユータを出發してより中央貫通鐵道が出來るまでの間は實に聖徒の歷史に於て恢復期間と稱すべきものであります、此の期間は聖徒がロッキー山間の原野に入つて以

未曾て無き程の神聖なる祝福を受けて精神上の進歩が出來る樣になつたのみならず、又物質上に於ても最も盛大となりました、即ち電信及び鐵道を敷設して貿易する樣になつた時であります。

一千八百五十四年より五十六年に至る間の浮沈の爲め教會の多くの會員は絶えず艱難辛苦を嘗めるので、疲勞しました、之が爲め自づと己が義務を怠つた、故に信仰が薄く成つて道德上の罪を犯す樣になりました、是まで聖徒全體の不思議なる一生の間總ての繁昌や成功をしたのは信仰に因つて出來たのである、聖徒にとりては宗教は刺激劑であり、又助言者であつた、又此の通に繼續しなければならぬのです、是故に罪を犯したる者及び教に無頓着になつた者の信仰を恢復させんとて働かんとしました、一千八百五十六年九月十五日ケイスヴキルに於ての大會で「改心を促す運動」が始まつて、內國にも外國にも教會全體に行はれて、一千八百五十七年の春と夏まで大なる奮勵を以て運動を繼續しました、到る處の監督と宣教師と重立つた長老等は盡力しました、會員は悔改めて高慢と貪慾並に肉體上及び道德上の不潔なること、其の他一切の罪を止める樣に勸告されました、それ

で總ての聖徒は謙遜して前に神に立てた誓約を更に立てゝ、再び神の恩惠を蒙ることが出來ました、或る事に於ては或は此の「改心を促す運動」を過度に行つたかも知れませんが、大抵好結果を得ました、若しも此の如き改心が無かつたならば聖徒は皆快くは「移動」の時に起つた犧牲をせなんだであらうし、又後の年に其程に盛大なる進歩を見なんだであらう。

一千八百五十八年八月五日太西洋の最初の海底電線の敷設が出來上りましたが、此日は萬國歷史中の有名なる日であります、此の日より三年三ケ月も經ぬ内に一千八百六十一年十月二十四日中央貫通電信線の敷設が出來上りました、此の電信線なる飛脚が合衆國の中央を通つたので、太平洋の海岸に於ける談話は即刻に太西洋の海岸に通ずる樣になりました、而して之が聖徒の地方を通過した故に聖徒は直接に全世界と交際する樣になりました、是は聖徒にとりて新時世發展の信號でしたが、聖徒は新時世に處するの準備をして居ました、「モルモン」教徒は凡そ時世の變遷及び發達の際に處する臨機應變の才に富むといふのは幾度も評判の種になつたのです、而して此の時にも其の能力の偉大なることを示しまし

た。

同時に南北戰爭といふ内亂が盛に行はれて居りました、此の時大管長ブリガム、ヤングが合衆國東方へ發したる最初の電報は實に「モルモン」教徒が如何に忠實なるかを明に表示するに足るべきものであります、其の電報は「心安かれ、ユータは決して脱國すること無し、曾て我等が嬉しかりき國の憲法及び法律に忠實なることは今猶昔の如し」と。

其の次の大事業はデゼレト電信線を敷設したことでありました、一千八百六十五年から六十七年までの間に「モルモン」教徒は僅少の現金を以て五百哩の電信線を敷設して一哩は百五十弗を費しました、其で四方に居る聖徒の最大なる町相互の間や教會の司等と即刻に交通が出來るし又教會の司等が領土の到る處へ訓誡と勸告とを速に與へることが出來ました、一千九百年まで教會は絶えずに之を用ゐましたが、其の年之を大なる西方電信線組合に賣り渡しました。

聖徒の住めるシオンは東邊と千里隔絶して居る爲に奇妙なる民と見做されましたが、一千八百六十八年に遠からず鐵道が出來上るので、啓示を蒙りたる聖徒の大管長は此の隔絶



シオン共同商會



グローヴス末日聖徒病院

が直に除かるゝことを見拔いて居りました、財政的及び社會的大變化が起ると知つたので、聖徒間より貨幣の流出するを防ぎ、且又貿易に於ての主權を聖徒に保有せん爲め「ユータの人々は宜しく自ら商業に從事すべし」と大管長ヤングが申しました、其の後シオン共同商會を組織して一千八百六十九年の初頃商業に從事し始めました、大抵の町に支店がありましたが、其の多くは或は破産し、或は其の業を已めました、然れども該商會は人民に大なる利益を與へたに相違がないと謂はねばなりません、今日でも此の商會の支店が五六もあります、本店は實に巨大の貿易をして居る、而して「モルモン」教徒の現在の藩屏であるといふても好い位です、此の商會は聖徒を一つの團體として維持するに大なる力であつて、世間に於て財政的勢力を保たしめ、ユータで一切の物品の定價を一つにしてユータの經濟界を落着け、民に自己の資力を運用せしめ、又聖徒の社會的平等を大に保護して居ります。

一千八百六十九年三月八日中央貫通鐵道なるユニアン、パシフヰク鐵道がサルト、レーキ原野まで出來上りました、斯くてユータ開拓者の希望及び再三再四の請願が叶ふたの

であるが開拓者の請願のみが此の巨大なる事業を起させて其を周旋したのではない、「モルモン」教徒自身はエコ溪谷の上からオグデン市まで其の道を開鑿しました、而して鐵道の東部は何百哩も開拓者の歩行した曠野の道を通つて行くのである、前に述べた大事の日にオグデン市に集つて居つた多勢の人々は鐵馬即ち汽車に向つて「ユータは汝鐵道を歡迎す」と、又「中央貫通大鐵道の敷設を祝す」と叫びました、同年五月十七日オグデン市よりサルト、レーキ市までユータ中央鐵道を敷設し始め、一千八百七十年一月十日に出來上りました、是は悉く「モルモン」教徒の事業でありました、其の後一千八百七十一年五月ユータ南部鐵道、同年九月ユータ北部鐵道を敷設し始めましたが、ユータ北部鐵道は今はオレゴン、ショート、ライン鐵道の所有になりました。

其の間始終宣教師は外國に遣されました、又國々より多くの移民がユータへ來ましたが、年々に聖徒が此等を迎へに二頭挽の馬車を幾百も持つてミスウリ河へ行きましたのである、此の移民の爲に人口が始終殖えて居りました、多くの新しき殖民地が出來ました、聖徒の勤儉と出精とに因りましてユータの荒蕪地が豊なる地方となりました、精を出して働

いたる農夫に導かれた有効の河流の庇蔭で、潤なき平原は實に青々としたる田畑となつたのであります、平和はシオンの山中に普く充滿しました、子供が開拓者の實歴談を愛聽して感心しました、×到る處に學校及び會堂が速かに出來て日々に喜ぶ幼年と少年とは學校に行き、神の恩惠を知つて忝なく思ふ民は會堂に入り、聖靈に滿されたる神の僕の説教を恭しく聽いたのであります、聖徒即ち神の選民†は手織の粗末なる衣服を着たに拘はらず滿足を感謝して眞心に神を畏れ、正直、厚德なる人々でありました。

*一千八百六十七年より七十三四年まで領土の或る地方は蝗といふ害蟲の爲め、大に困りました、度々此の害蟲は幾年も續いて一切の作物を喰ひ盡したのであります。

×唯一の格外なることは即ち一千八百六十六年と六十七年領土の南部に於けるブラック、ハーク土人戰爭でありました、大將デー、エチ、ウエルスはユータ民兵を以て善く働き聖徒の町を遺憾なく保護しました。

†一千八百六十七年サルト、レーキ大會堂（幕殿）の普請は殆んど出來上つたので、十月に教會の大會が其の內で開かれました、其の際にジヨセフ、エフ、スミスは選ばれて使徒の役に任じられました。

「デゼレト新聞」は一千八百六十七年十一月始めて日刊新聞として發行せられましたが、之は一千八百五十年六月十五日より一週に一回、一千八百六十五年十月八日より一週に二回發行せられたのであります。

一千八百七十年一月一日「オクデン、ジヤンクシヨン」（新聞）は始めて發行された、同年六月六日「サルト、

レーキ日刊ヘラルド」（新聞）は發行せられ、同年一月「モルモン」即ち後に「サルト、レーキ、トリビユン」といふ新聞は始めて發行されました。

第十二章

官吏の聖徒攻撃、パレステン聖地への旅行、相互發達協會、教育、大管長ヤングの逝去

聖徒の利益と便宜を謀らんが爲め又聖徒を貪慾なる商人より保護せんが爲に大管長ヤングは躊躇なく實業的方針なるものを定めたのでありました、其の結果としてシオン共同商會を組織し、鐵道を敷設し、其の他種々起業を致しました、そこで不平を鳴らしてゐた或る「モルモン」商人は大管長ヤングに反對して教會を去つて一つの分派を起しました、故、教會より放逐されました、多くの非信徒は此等の者に加勢して「モルモン」教會と其の司等に對して大なる爭鬪と反對とを起したのである、一千八百七十年に此の反對者は自由黨を創立しました、其の首領等の唯一の目的は當時、官職に就いてをる總ての「モルモン」教徒の官位を褫いで領土に於ける政治的主權を奪ふことでありました、此の政黨は自ら領

土ユータを治めることが出來ぬならば必ず之を倒さうと決心したのです、其故に政治的爭權の歴史中に殆んど比類無き無主義の反對を致しました。

此の邪なる政治家の誣告と讒言とに因りて全國民は激動しました、大統領ユリスス、エス、グラントは前大統領エブラハム、リンコーンの政略を捨て「モルモン」教反對者の虚説に因りて偏頗にも教會に反對することに決心しました、此の反對は中央政府の派遣した官吏を以てするのでありました、其の官吏の中ユータに於ける「モルモン」教會の反對者中最も決心の強きは知事ジエ、ウヰルソン、シヤフアーと裁判長ジエムス、ビー、マツキーンでありました、彼等をして其の偏屈なる使命を遺憾なく成功せしめん爲め合衆國政府は兵力をユータに遣したのであります、知事シヤフアーは少しの間務めて死にましたが、其の後任者はシヤフアーの壓利的方針を繼續しました、裁判長マツキーンは裁判上の專橫的行爲を以て領土民兵を先づ以て解散したのである、そこで己も同職者も聖徒に敵對される心配がなくして尚一層擅に彼等を困らせることが出來ました、かくてマツキーンは己の職務に大なる恥辱を與へたので、彼を任命した政府は其の無分別で壓制的行爲を默許するこ

とが出來ないで彼を免職しました。

其の間に大管長ヤング其の他教會に於ける重立つた人々は屢々捕縛されて裁判所の無法なる手續に對し己を辯護するために莫大なる金錢を費して誠に非常なる迷惑をしたのであります。

此の反對と迷惑とに拘はらず教會は些少の動搖もなく少しも衰へずして、殖民することは續きました、一千八百七十三年力を込めてアリゾナに殖民地を設けて町を建設せんとしました、三月八日多くのユータの殖民者はサルト、レーキ市に集まつて殖民することに關して大管長ヤングから種々教へられました、此の殖民者は最初に失敗しましたが、此の不首尾が經驗となつて漸く成功といふ實を結びました、而して今領土アリゾナに聖徒の繁昌する町が多くあるのです。

其の前の年(一千八百七十二年)十月十四日副管長ジョルヂ、エー、スミスはパレステンへ向つて旅立して翌三月二日に己の伴と一緒に橄欖山に登つて神聖なる集會をしました、そして祈禱を以てパレステンの地をユダヤ人の集合すべき所、又再びエルサレム市を*

建設すべき所に當てました、副管長スミスは歸國して一千八百七十三年六月十八日にサルト、レーキ市に到着して一千八百七十五年五月一日死にました。

＊大管長ブリガム、ヤングと副管長ダニエル、エチ、ウエルスは副管長スミスに信書を寄せて曰く「我等はユダヤ人が天父の御意を遂げ、又預言が實現さるゝ樣、集合する前、其の準備の爲に足下がパレステンに着した後該地方が豐なる地方となる樣に其の地に天福を宣授し、其を天主の御心に任せることを願ふ」と。

一千八百七十四年と七十五年亞米利加土人に福音を擴めることがありました、而してトエレ郡とセイント、ジョールヂ町などの所で幾百人も福音を信じて入會しました、レーマン人（土人）が有神權者より神の律法に從ひたる結婚式を始めて執行して貰つたのは一千八百七十五年一月でありました。

一千八百七十五年の夏年若き末日聖徒の男子相互發達協會及び女子相互發達協會が創立されました、四年の後一千八百七十九年十月其の※機關雜誌なるコントリビユトールが始めて發行されました、此の會員は「モルモン」教徒の男子と女子とであつて、幾万人もあります、一千八百四十九年サルト、レーキ市の第十四ツワード部で、長老リッチャード、バラ

ンタインは日曜學校を組織しましたが、教會中に愈盛になつて當時に殆んど三万人の日曜學校生徒が*ありました、勿論普通の教育も盛大でありました、到る處の殖民地や町村には一般の子弟の學ばるゝ學校のあることを誇りました、而して此の學校はユータと同年齢の州や領土の學校に比較するに足る學校でありました、ブリガム、ヤング氏は一千八百七十五年十月十六日プローヴヲ市でブリガム、ヤング高等學校を設立し、一千八百七十七年七月二十四日ローガン市でブリガム、ヤング高等學院を設立しました、此の當時に一千八百五十年十一月十一日に開校されたデゼレト大學校も盛況でありました、教會の司等は何時も眞の學問と教育との大賛成者であつて、亦聖徒の大多數は司等の施設と其の方針とを熱心に賛成し、補助したのです、其の結果ユータは大西方の州と領土との中で教育上の進歩に於ては第一×となつてをります。

※ジユニアス、エフ、ウエルスの發起したるコントリビユトールといふ雜誌は十七年間繼續しましたが、一千八百九十六年七月十九日其の發行者所有者なる使徒エー、エチ、カノンは死にました、其故に少しの後に其の發行はやみました、コントリビユトールの代りに一千八百九十七年十一月一日男子相互發達協會の機關雜誌なる「發達時代」が始めて發行されました、一千八百八十九年女子相互發達協會の機關雜誌なる「婦女

リックス高等學校



ワレズ高等學校





ブリガム、ヤング大學第一講堂



同第二講堂

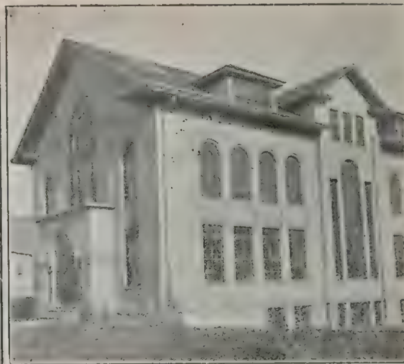


同第三講堂

ブリガム、ヤング高等學院



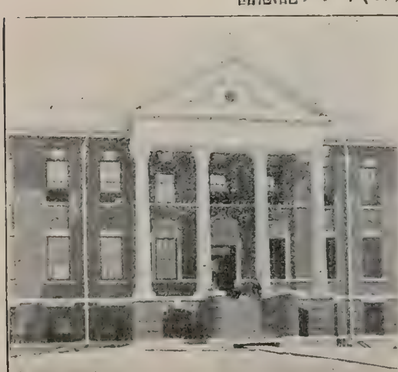
本講堂



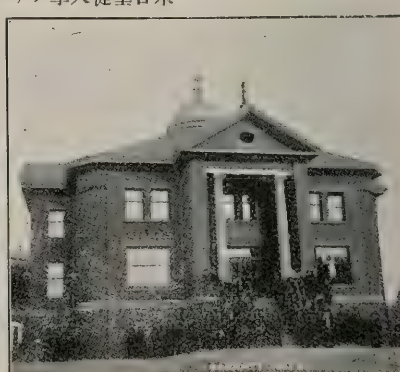
機科講堂



末日聖徒大學ブリガム、ヤング記念館



同商學館



同バラット館

雜誌」は始めて發行されました、如此此等の協會は双方とも其の雜誌を所有して居ります、一千八百六十六年一月一日副管長ジョルヂ、キユ、カノンは「幼年の敎師」なる日曜學校の機關雜誌を發起しました、今日の日曜學校は之を所有して居ります。

×「學校雜誌」は一千八百九十三年シカゴ市で開會したる萬國博覽會に於ける各州と各領土との學校出品に關して曰く「其の獨創的なること及び其の功績あることに於ては西部の州と領土の中でユータは優に第一位に立つのである、—中略—西部山脈の裡に於ては他の地方の最も善良なる敎育方法を凌ぐべき處のものを完成しつゝあるが、之は大に其の土地の人々の特種なる根氣に依りて成功したのであります」と。

神殿を普請することは繼續進行しました、一千八百七十七年四月六日から八日までセイント、ジョールヂ町で開かれたる敎會の大會でセイント、ジョールヂ神殿を獻殿して九日其の内で種々の儀式を執行しました、同月二十五日マンタイ神殿の位置を、又五月十八日にローガン神殿の位置を成聖したのであります。

一千八百七十七年の夏にシオンの各ステーキ部の組織を完全にし、有神權者の定員會を整頓し、天より示されたる通り敎會の政治を完全にしたのです、ユータの建設者なるブリカム、ヤングは此の悦ばしき働をして己の一生涯の最後の月日を送りました。

一千八百七十七年八月二十九日大管長ブリガム、ヤングは己の家族と親友の集會せる中で最も靜穩に永眠に就きました、聖徒全體は哀悼したのであります、ブリガム、ヤングは三十三年間聖徒の司と訓導者でありました。聖徒がナーヴウ市を退去した時、彼等を導いて亞米利加の沙漠に殖民した事業は洵に近世の最も壯大なる事業の一つと見做されるに違はありません、ブリガム、ヤング氏は實に十九世紀の豪傑の一人でありました。

第五篇

大管長ヤングの逝去より現在までの事件

（自一千八百七十七年至一千九百六年）

第一章　ジョン、テイラー大管長に選定せらる、教會の創立五十年記念祭

教會の敵は、ブリガム、ヤングが死んだ後「モルモン」教會が必ず倒れると幾度も豫言しました、併しながら間もなく教會は人間の一人の才能或は勢力に依りて成立つたものでなく、神の啓示に基いて、キリストが其の隅石であるといふことが却つて明白に了解されたのである、ナーヴウ市で教會を司る後任者の順序が定められました、大管長ヤングの死後は十二使徒の會長なるジョン、テイラーが其の定員會と共に教會を司る權威ある人でした、一千八百七十七年十月教會の第四十八回後期大會で聖徒は全會一致して此の定員會を教會の管長權を有する者と認めました、此の際に聖徒は教會幹部の役人の職務の繼續を其の役

人の順序に賛成しました、最初に教會の有神權者の各定員會は最上の有權者會より最下の有權者會まで、順々に立上つて右の手を擧げて教會幹部の役人の繼續を賛成しました、而して終に集會全體は立上つて擧手を以て此の役人を繼續することに決しました、聖徒が滿場一致したのは、教會が必ず倒れる前兆といふよりも、寧ろ聖徒が新に力を得て教會と其の教理とを躊躇なく信じて疑はぬといふことを示すことでありました。

之より三年の後即ち一千八百八十年十月教會の大會で教會歷史中に於て第三回目なる管長會は組織されました、ジョン、テイラーは大管長に、ジョルヂ、キユ、カノンとジョセフ、エフ、スミスは其の顧問に選定されました、當時ジョン、テイラーは七十二歳でした、彼は一千八百八年十一月一日英國ミルンソルプに生れ、一千八百三十六年カナダに於て斯の教會に屬し、二年の後啓示に依りて使徒に任ぜられました、宣教師としては英國と佛國（此の國にも傳道事業を開始したのである）と獨逸國と合衆國の州々に出て傳道をしました、其の間大に著述の事業をしました、英國を除いて件の國々で教會の新聞を編輯し、モルモン經典を佛語と獨逸語に翻譯することを監督し、又其の當時及び其の後大切なる教

理の書物を發行しました、何時も預言者スミスの親友であつて、スミス氏の殉教の時にテイラー氏も彈丸に中つて己の血を殉教者スミスの血と混ぜたのであります、聖徒の總ての旅行に於て、又ロツキー山に於ける住所に於て常に屈指の人物でした、聖徒は彼を己等の「自由の主張者」と認めて悉く彼を信用しました。

紐育州で六人の信者が集つて末日聖徒耶穌基督教會を創立してから最早五十年になります、昔日の如く現在のイスラエル人即ち聖徒は五十年記念祭として一年間愉快を盡すのでした、而して此の記念祭の影響をして聖徒全體に及ぼさしめんが爲め、一千八百八十年四月の定期大會は使徒會長テイラーの發言を贊して聖徒は移住永代資金に對する負債の半額を免除することに決しました、此の元金は七十萬四千弗で元利金は百六十萬四千弗でありました、而して正直な貧しき債務者に對しては殆んど元利金の半額即ち八十万弗を免除し、餘裕ある債務者に對しては殘の半額を返濟させることに致しました、而して十分の一として十五萬一千七百九十八弗は教會に納むべき義務となつて居りましたが、其の半額即ち七萬五千八百九十九弗を其の貧しき者に免除してやりました、其の他貧しき者に好い牛

を一千頭(敎會は三百頭を出してステーキ部は七百頭を出すことでした)及び羊を五千頭(敎會は二千頭を出してステーキ部は三千頭を出すことでした)分配することに極めました。

一千八百七十九年は雨が少くて非常な旱魃でしたから畑の物が不足しました、領土中に小麥は餘分にありませんでした、其故に婦人慈善會は小麥種を六千七百九十石貧しき農夫に貸付けることに極め、其の農夫は無利子で、且都合付き次第に其を返濟することにしてやりました。

其の年は大喜悅の年となりました、一己人としては貧しき負債者の借金を緩める樣に勸められ、シオン共同商會其の他銀行等も正直なる貧困者の負債を幾分か緩める樣に勸められました、聖徒は嫉妬怨恨の念を起すことなく、相愛して使徒會長テイラーの訓誡即ち「我等は神の惠を受けつゝ互に相惠まん」といふことを善く守りました。

同年サルト、レーキ市で大喜悅と大奮發とを以て七月二十四日の開拓記念日を祝ひました、此の際領土の到る處より多くの人々が來ました、其の日の大行列には總ての職業、工業、學校、結社、敎會の附屬會、商業、美術及び藝學等に關係ある者は悉く遺憾なく代表

されてありました、行列した後人々は大會堂に集會して時宜に適當なる祝典を行ひ、又交交記念すべき經歴談を演述しました、其の他執行順序中特に記載に値するものは、即ち宣教師が福音を弘めた二十五ヶ國から二十五人の代表者が顯れたことであります。

〝當時に日曜學校の生徒は三万三千人あつて、男子相互發達協會の會員は一万人ありました、今日（一千九百六年）日曜學校生徒は十二万五千人あつて、男子協會の會員が又殆んど三万人あることを考ふれば之は此の「奇くて最怪き事」即ち該教會の進歩と勢力の證明に成りませう。

當日使徒會長テイラーは其の最後の演說の内に次の如き珍しき預言をしました、「近き將來に於て樣々の事件が起りませう、我等は信仰を盡し、力を竭して神に信賴するに非らざれば、我々聖徒に向つて來らんとする迫害や誘惑などに打勝つことが到底できないのである――中略――今日ほど我等が謙遜して祈るべき時はないし、又神に忠義を盡し己に克つて福音の眞理を守るべき時はないのである」と。

使徒會長テイラーの預言の通になりました、其の次の年々は教會の最も凌ぎ難き多事の時でありました。

第二章　エドマンズ、タカ法案の動搖、大管長テイラー隱遁中の逝去

聖徒が平和と安心とを享有した間は只瞬間でありました、最早酷い艱難辛苦を甞める時が到來したのである、一千八百八十一年の夏、他の宗教家と政治家とは聖徒の一夫多妻といふ教義の實行を停止せんとて聖徒を攻撃し始めました、是はユータで始まつたが間もなく全國が激昂しました、人々が「モルモン」教徒が不行跡や罪惡を犯す不忠義なる者だといふ怖るべき虛言をしたので、全國民及び國會議員は激昂して聖徒に對して大なる反動を起しました、政治家は之を口實に官職の報酬と俸給とを貪り、他教の牧師等は或は失望し或は執念深き怨恨を懷いて聖徒を攻撃したのであります、該政治家も牧師も一夫多妻教義が惡いと思ふよりも前に述べた理由を以て聖徒を迫害しました、國會は未決中の一夫多妻實行禁止法案を速かに可決するやうに督促されました、「モルモン」教徒の上書、異議、宣言書、歎願書等も小人輩が極力流布させたる巧なる誣告の取消に向つては遂に其の功を奏しな

かつたのであります。
以前一千八百六十二年七月二日に大統領エブラハム、リンコーンは「合衆國の領土及び州内に於て一夫多妻實行を止め、且實行者を罰する法案」に記名して國法としましたが、永年間實施にならなかつた、併し國會が追加法案としてエドマンドズ法を可決したので、一千八百八十二年三月二十二日大統領アーサーは之に記名して國法としました、其の法によりて一夫多妻主義を新に實行する人は選擧權を剝奪せられ、五年以内の禁錮に處せられ、五百弗以内の罰金を附加せられることになり、又既に多妻を有つ人は一人以上の婦女と同棲すれば、六ヶ月以内の禁錮に處せられ、三百弗以内の罰金を附加せられることゝなりました、一夫多妻の實行者と信者とは陪審官となる資格がなく、又其の實行者は公職に從事し、投票することができなかつた、一千八百八十七年エドマンドズ、タカ法といふ追加法案が可決されました、此の法案には從前よりも一層の權利を官吏に授け、一切の結婚の證書を地方裁判所（該裁判所の裁判官は合衆國大統領之を任命する）に保管させ、該教會の法人を禁じ、大審院に教會の事務を結了させ、又其の財産を官沒させる權力を有たせてをりました。

のです、而して選擧權を保有することに極めた「モルモン」教徒は多妻を捨て法律に服從するといふ誓約を此の官吏に結びましたが、他の數千人の者は遂に選擧權を剝奪されました、かくて政權を奪はれたので、「モルモン」教徒は司法官の爲に大に惱まされました、最初にルツドガ、×クラーソンは裁判所に訴へられて、一千八百八十四年十一月三日有罪と判決されて、四年間禁錮され、八百弗の罰金に處せられました、其の後條理も立たぬ無慙なる法律上の迫害がありました、一千人以上の男子は己の家族を棄てゝ法律を守ることを約束せざるが爲に懲治監に入れられました、何百人となく、世を忍び或は退隱せねばならぬ次第と成つて、多くの家族は當分別れて絕交するのでありました、聖徒は誠に言語に盡されぬ程悲哀して辛苦に耐へました、偏頗なる警察官の命に從つて陪審官と成つた者は、必ず有罪と決せんと狂氣の如く熱中盡力せる撿事の內意に一致しました、それで先づ罪の有無に拘はらず、嫌疑を受けたら捕縛され、捕縛されたら裁判に付せられ、裁判に付せられたら有罪と判決され、有罪と判決されたら法律の全刑罰と全科料を申渡されるのでありました、

無理非道の策士（中に非常に放逸な者もあつた）はユータを建設した尊敬すべき老練家に尾行し、或は其の住家へ侵入しました、政府は特別に附加專用金を送つて法律の實施を勵行しました、有給の探偵吏は幾人も人民の中を徘徊しました、子は父母のことに關して問はれ、妻と娘と女中等は度々專務の陪審官に煩はされて不面目で尾籠なる質問を受けて其に答へねばならなかつたのであります、聖徒は所謂佗しき暗黑の一夜を送つて居りました、聖徒は教會の司を取られて彼等の訓誡を受けられずに悲哀に沈んで居りました、而して人を頼にせぬこと、又神を信仰して天主に信頼せねばならぬといふことを知るやうになりました、民としては少しも義務を怠らぬし、己を迫害する人に對して暴行を加ふることは一つも無かつたが、聖徒を忿恚せしむべき處作は十分に聖徒の敵にあつたのであります、聖徒の敵は聖徒が何ぞ公然と法律上の罪を犯して全民の滅亡を招かんことを始終尾け狙つて居りました。

×クラーソン氏は其の後シオンのホツクス、エルダーステーキ部長となり、今十二使徒の一人であります。

一千八百八十五年二月一日より退隱しつゝありました大管長ジヨン、テイラーははか

なくも一千八百八十七年七月廿五日此の境遇の裡に死にました、かくて束縛されたるイスラエル人（末日聖徒）の悲哀の裡に大管長テイラーは己の愛する教會の爲に生命を捨てゝ殉教者となりました、彼が終生服膺したるところのものは「神の國の外希望する所無し」といふことでありました。

大管長テイラーの二人の顧問は其の死の公文の中に曰へり「大管長ジョン、テイラーは此の領土にて合衆國政府を不實に代表したる官吏の殘虐に依りて殺されました」と。

第三章　局面一變、ウヰルフオルド、ウッドラフ大管長となる、一夫多妻禁止の宣言、

ウヰルフオルド、ウッドラフは十二使徒會の會長であつて彼と其の定員會は教會を治める責任を受けました、使徒カノン氏とスミス氏とは使徒會に復しました。

一千八百八十九年四月教會の大會を催すまで使徒會は教會を司りましたが、四月七日の大の會で、第四代の管長會を組織してウヰルフオルド、ウッドラフを大管長に任じました、

彼は己の顧問としてジョルヂ、キユ、カノンとジョセフ、エフ、スミスを選びました。
聖徒に對する官吏の攻撃は宥められずに續きましたが、聖徒は其の忍び難き境遇を耐へ忍ぶべく色々の手段を用ゐて居りましたから以前ほど辛苦を感じませなんだ、當時の政治上の歴史中には裁判上の歴史と等しく「モルモン」教徒に對して攻撃的行爲が多く記されてありました、領土の行政部は司法部と一致し、力を合せて聖民を滅亡させんと盡力しました、若し他日此の當時の歴史を詳細に語りますならば慥かに當時の官吏をして顏色無からしむると同時に其の苦められたる聖徒の名譽を高めるのである。

「モルモン」教徒は己が正當なりと確認したる宗教權を政府が剝奪せんとする度毎に何時も裁判所に於て其の權を力守せんとしました、一夫多妻主義は教義の一部分なりと信じました、故國會には之を禁ずる法律を制定する權利がないと固く主張しました、是に於て國の大審院は一夫多妻實行禁止法が正當なるものであるや否やを研究したる結果合衆國憲法第一追加法は宗教の自由を保障するはするものゝ一夫多妻といふ教義の實行は到底正當とすることが出來ぬ、故に一夫多妻實行禁止法は合衆國憲法に適ふて居る、併しながら其の

法律の適用實施は甚だ不正で且殘酷であつたと詰責しました。

此の間政府は躊躇することなく不絶一夫多妻實行禁止法を實施せんと務め、又以前より一層激烈なる處置方を熟考したのみならず、之を適用すると恐喝して居りました。

聖徒が此の艱難を受けつゝある最中に大管長ウヰルフォルド、ウッドラフは悲哀に沈んで眞心を以て聖徒の爲に天主に祈禱を捧げました、すると最早一夫多妻主義の實行を止めることを聖徒に勸告するやう天主より命ぜられました、故に一千八百九十年九月二十四日大管長ウッドラフが此の命令を含む宣言書を發しました、翌月六日教會の後期の大會で聖徒全體は大管長ウッドラフが發した一夫多妻禁止の宣言を正確で守るべき神の掟法と見做したのであります、爾來聖徒は此の教義を教へもせず又實行もいたしませぬ。

最初に神は聖徒に此の教義を啓示し給ひましたが、今此の實行をも禁止し給ひました、聖徒は三十年間驚くべき反對を蒙りながら公に一夫多妻を固く主張して、其の教義を辯護し、常に己が義務を盡し犧牲及び艱難辛苦を忍んだに因て神に義なる民と見做されました、聖徒がミスウリ州のジヤクソン郡で神の御旨を成すに妨げられた時と同じく神は聖徒が其の

命令を守らんと熱心に務めた爲め滿足し給ひました、神の御志は達せられました、聖徒は該敎義を辯護せんが爲め普通の場合に於ては入り得ざる著名なる合衆國の上流官吏社會に福音を說明し、又所謂「モルモン」敎の正確なることを證する機會を得ましたのです。

政府及び國民は「モルモン」敎徒が爾後多妻を娶るを止めると公言したことに對して最初は疑念を懷きましたが、漸く之は確に該敎徒の實意であると信じました、其に又以前に「モルモン」敎徒は民黨を設けて殘らず其に入りて政治上のことに依らず何に依らず一致して居りましたが、該民黨をも止めて各自別れて當時にあつた樣々の政黨に加盟しました、此の二つの行爲の爲め「感情の融和及び局面一變の時代」となりました。

第四章　聖徒の神殿

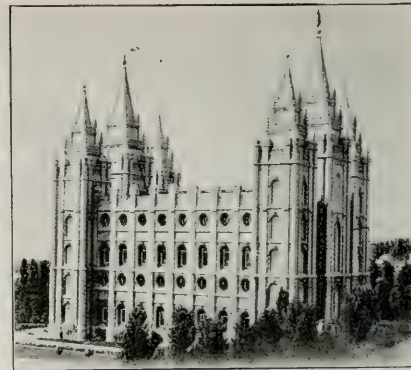
聖徒はユータに四つの莊嚴なる神殿を普請して其の中に生者は己の爲め亦死者の代に多くの聖なる儀式を執行して居ります、セイント、ジョールヂ町の神殿は一千八百七十七年一月一日、ローガン町のは一千八百八十四年五月十七日、マンタイ町のは一千八百八十八年

五月二十一日、サルト、レーキ市のは一千八百九十三年四月六日に献殿されました、ウヰルフォルド、ウッドラフ氏が大管長の役に立てる間にサルト、レーキ市で神殿の落成及び献殿せられたることは教會の大事件中の一つでありました。

一千八百九十二年四月六日例年の大會の際に四万人の聖徒（教會の歴史中の最も人數の多い集會）の前にサルト、レーキ神殿の頂石を据ゑる式が行はれました、多年間此の式を待ち望んだ聖徒は四方より集りました、而して教會幹部の役人の殆んど皆が聖徒と共に集つて聲を合せて「ホザナ」と叫びました、六日午前十時より聖徒は先づ大會堂内に集會して讃美歌を歌ひ、祈禱を捧げました、又說教する人もありました、午前十一時に入堂した一万二千人及び入堂の出來なかつた數千人といふ大衆は神殿の南側にゆきました、此の行列は唱歌隊を先頭として管長會、使徒會、其の他總て有神權者の定員會其の順序を正しく整列しました、其の日の式は短簡でありましたが、聖徒の歴史中に熱心で感動を與ふる式としては誠に無類でありました、音樂と讃美歌ありて後、副管長ジョセフ、エフ、スミスが開會の祈禱をしました、大管長ウヰルフォルド、ウッドラフが演壇の前まで進んで「汝等



カートランド神殿



サルト、レーキ神殿



ナーヴウ神殿



ローガン神殿



セイント、ジヨールヂ神殿



マンタイ神殿

イスラエルの家筋の者及び天下諸國の人民よ注意せよ、預言者、先見者、啓示者なるブリガム、ヤングが我が神の神殿の土臺を据ゑ、又其を献納したのであるが、我等は今其の頂石を据ゑます」と言ふて電鈕を押しました、既に準備が十分に出來て居つた電力で以て聖なる普請の最後の石を据ゑつけました、然る後使徒ロレンゾ、スノーに導かれ、四萬人の聖徒は彼に和して聲を高らかにハンケチを振ひながら「神と御小羊(イエス、キリスト)にホザナ〱〱、アメン〱〱」と三度繰返して叫びました、而して一千八百九十三年四月六日に神殿を献殿することが出來るやうに普請を落成せんと決定しましたが、該大會は喝采場裡に滿腔の喜悦を表しました、かくて唱歌隊が閉會の讃美歌を歌ひます、と副管長ジョルヂ、キユ、カノンは最後の祈禱をいたしました。

只一年間に其の普請を落成するのは殆んど出來ぬことの樣でありましたが、聖徒が思ひ切つて全力を盡して一年間に其の莊嚴なる建築物の內部を完成せんとて金品を嗇まずに寄附して最も上手な職人を雇ひました、而して神の恩惠に依りて其の盡力は善き結果を生じて豫定の如く該神殿が落成しました。

一千八百九十三年四月四日の火曜日大會堂内に例年の前期の大會が開かれて二日間續きました、六日の朝入場切符を與へられたる二千五百人が神殿に入りて初めて内部の立派で壯麗なる裝飾や附屬品を觀て神殿の三階の大なる集會室に集まりました、總て敎會幹部の役人が出席しました、管長會、十二使徒、大祝福師、七十人會總長會及び總監督會の總てが聖徒の集會に出席することの出來たのは此の永年の間に之を以て始めてとするのでありました、選拔されたる三百人の唱歌隊はエヴアン、ステヴエンスに導かれて讃美歌を歌ひまして大管長ウッドラフが神殿の献殿祈禱を捧げました、其の後副管長カノンと大管長ウッドラフと副管長スミスは時宜に適切にして敎訓多く又心を慰むべき演説をしました、其の演説の重なる主旨は天主がシオンを慰め給ふこと、シオンが其の大恩惠を與へらるべき時の近きこと、有神權者は一致して居るといふことでありました、(此の預言は當時に立派に實現されて居つたのでありました)聖徒は寛仁にして、互に其の罪を赦し、葛藤を避けて、相愛し、神の御旨に應ずる樣に勸められました、而して若しも其の勸に從はゞ未だ曾て無き程の賴母しき時來らんと約束されました、其の大會に出席した凡て

の聖徒は聖靈に感じて神が聖徒の献殿したる神殿を受納し給ふたことを悟りました、多くの聖徒は甚く感に打たれて落涙する程喜悦びました、聖徒が四十年間種々なる苦勞と犧牲とをしましたが、今回神は該神殿を己が聖なる住所として受納し給ふたことを、聖靈に依りて總て此の時集會したる聖徒に啓示し給ひましたから聖徒は無上の喜悦を得ましたのであります。

同日午後聖徒の集會が尚一回ありました、其の後此の如き集會が二十九回ありまして、都合三十一回ありました、出席人の平均數は二千二百六十人であつて、献殿式を見た大人は七萬人でした、其の他に日曜學校の子供の一萬五千人の爲め特に集會を催されました、大人と兒童とを合せて八萬五千人が其の式を見たのです、教會の各ステーキ部（三十七あつた）より聖徒が來て居りました。

最後の集會は一千八百九十三年四月二十四日月曜日午後催されて五月の始に教會の儀式を執行する爲に開殿されました。

第五章　領土ユータ合衆國の統治權ある一州となる

大管長ウキルフォルド、ウッドラフが教會を治めました間に政治上の最後の大事件はユータが合衆國の統治權ある一州と認可されたることであります、ユータが國會へ遣した代表者なるジョセフ、エル、ラーリンスは一千八百九十三年に授權法案を提出しました、十二月十三日に國會下院は其を可決しました、而して一千八百九十四年七月十日に上院が之を通過して十六日大統領グローヴア、クリヴランドが之を認可しました、永らく祈り願つた法案の表題は次の如し、曰く「ユータの人民が憲法及び州政府を設け、又合衆國の本州と同樣に統治權ある一州となるための授權法」と、此の法の內に人民が永年望んだ政府の設置方法は細に記載してありましたが、ユータの本當の在樣を知らぬ國會は「モルモン」教徒が確に多妻主義を禁止したか否やを試さんとて先づユータを州と認むるを二年間延期したのであります、併し此の法に規定せる箇條に從つて一千八百九十四年十一月の最初の月曜日の翌日なる火曜日に特別の選擧がありました、其てユータの人民は己等の代表者とし

て百七人を選擧しました、此の人々の特別の職務はユータ州の爲に憲法を作成ることでありました、是等の人々が一千八百九十五年三月一日正午十二時サルト、レーキ市に集會して直ちに憲法を作成することに取りかゝりました、サルト、レーキ市の市民で教會の使徒なるジョン、ヘンリ、スミスが該會の會長に選ばれまして大管長ウヰルフォルト、ウッドラフは開會の祈禱をせん爲に選ばれましたが、病氣の爲に己の第一の顧問なるジョルヂ、キユ、カノンが代理して祈禱いたしました、該會は六十六日間務めました、漸く一千八百九十五年五月八日憲法が完成しました、而して翌十一月の選擧の際に人民の大多數が此の憲法を承認しました、此の憲法によつてユータ州の婦人は選擧權を與へられました。

新しきユータ州の官吏が選擧されたので、一千八百九十六年一月六日に職務に着手しました、最初の知事はヒベル、エム、ウヱルス、最初の州務卿はジエムス、テー、ハンモンド、國會下院への最初の議員として選擧されたる人はシー、イー、アレンでありました、其の後ユータ州會はユータより國會上院の最初の議員としてアーサ、エル、ブラウンとフランク、ジエ、カノンを選定しました。

第六章　開拓五十年の記念祭

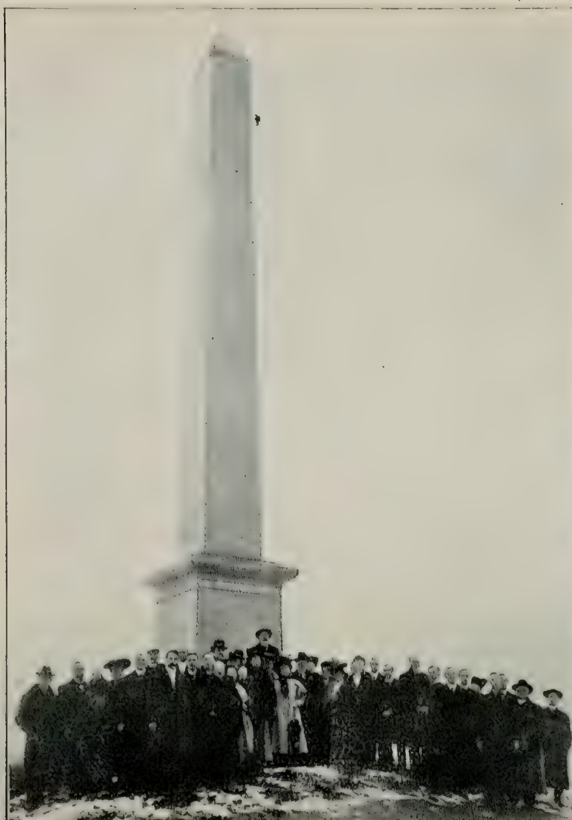
開拓者がユータに入りて其の荒地に足を踏み入れてより殆んど五十年を經たのであります。

大管長ウキルフオルド、ウッドラフは其の義俠なる開拓者の組の存命者中最も老いたる人であつて、一千八百九十七年三月一日サルト、レーキ市の大會堂內にて己の友人及び己を敬慕する人々を集めて己の九十歲の誕生日を祝しました、賓客は大會堂に充滿しました、州知事、州會議員及び多くの官吏—信徒と非信者と—が出席しました、是はユータの人民が殘らず漸く睦じく暮す一つの證據でありました、畏敬すべき大管長なるウッドラフが殆んど總て出席した人と握手禮をしましてから少しも疲れた樣子もなく己が住所へ行つて最も親しき友人の爲に催されたる晚餐會に出席いたしました。

當時既にユータの人民は草分の開拓者が當地に到着した五十年の祝祭を催さんことを考案へて居りました、知事ヒベル、エム、ウエルスは第一期の州會へ提出した最初の教書中



ブリガム、ヤング開拓記念碑



シーセフ、スミス記念碑

にユータ建設の五十年祝祭を催さんことを發言しました、(此の教書は一千八百九十七年一月八日州會で讀まれました)州會は直ちに之に應じて州民を代表せん爲め十五人の市民を選んで之を「ユータ五十年祝祭委員」と名けました、此の委員は直ちに必要なる準備に着手して皆一致して熱心に働きました、而して州會は之が爲に一萬五千弗(三万圓)の經費支出を可決し、又教會と鐵道會社及び人民が格外に金品を寄附した結果盛大なる五十年の祝祭がありました。

一千八百四十七年にユータに到着した開拓者はユータの内外各處に離散して居りましたが、彼等の住所の知られた人は皆サルト、レーキ市へ往復する旅費及び同市に滯在する間の入費を給與されて非常に優待されました、該祝祭の重立つた事項の第一は七月二十日(火曜日)大管長ブリガム、ヤング及び開拓者の爲に建設したる記念碑の除幕式でありました、老いたる開拓者は演壇の周圍に居りました、州知事及び存命で居る白髮の開拓者の最も高齢なるウキルフオルド、ウッドラフが演壇に立つて居りました、是等の人々の面前で銅像の除幕をしまして大管長ウッドラフが獻碑祈禱を捧げました、此の式は旨趣が深く

人心を感動せしむる悦ばしきものでありました、のみならず此を目撃したる人々は五十年間の不可思議なる働と變化とを認むるにより大に感服し、又神に感謝する樣になりました、同日午後サルト、レーキ市民は存命で居る五百人の開拓者を稱讃する爲め大會堂所謂る幕殿内にて大歡迎會を催しました。

該祝祭の二日目(廿一日)に一千八百四十七年より一千八百九十七年までの發達を示す爲に立派なる「發達の假裝行列」がありました、即ち其の五十年間の歴史を顯す爲め種々の各時代各處の風俗狀態に擬した造物を拵へて車に載せました、此の車は二頭乃至四頭の馬に牽かれて恰も活動寫眞の如く道路を通過しました。

二十二日即ち該祝祭の三日目は兒童の日であつて、サルト、レーキ郡とウキーバ郡とテヴヰス郡の各町より來た一万人の兒童の行列がありました、開拓記念碑の前を通つて此の大勢の兒童は花を投じて其の臺を全く埋めて花の山を積み重ねました、該記念碑を去つて大會堂に集まりました、そこで或る女兒が一万人の兒童を代表して最も老いたる開拓者なる大管長ウヰルフオルド、ウッドラフの頭に立派なる花の冠を載せました、又ユータ草分

の開拓者の總てに神の恩惠あらんことを祈りました、其の日の晩には「實際的及び想像的サルト、レーキ市」を顯すところの行列があつたのでありました。

此の祝祭の終の日(二十四日)の立派なることの内又々壯大なる行列がありました、其の中に開拓者の古き馬車と牛車があり、又白髪の開拓者(大管長ウッドラフのみ乘車しました)が高齡の爲に手足も戰きながら歩行きましたが、道の兩側に立ちました大勢の人々が此等の老功者を見て大なる感に打たれ、一同喝采の聲を揚げました、而して開拓者は悅び笑ひながら此等を認めました、晩にカピトル小山で煙花を揚げたのが此の祭の最後の餘興でありました、六萬人以上の人々が之を見ました。

該祝祭は義侠なる開拓者を尊び褒めること、人々を樂ませること、過去の事を追回せしむること、若き男女を感動せしむること、ユータの財源を廣告すること、又ユータの五十年間の進歩發達を審さに表すことゝして十分に成功しました、經濟上に於ても成功したのです、如何となれば委員が該祝祭の入費を拂ひました後二千弗(四千圓)の殘金の外に尚記念物及び記念物陳列館がありました、而してユータ州の人民は何人に拘はらず遺憾なく、

ユータ五十年祝祭を觀、又「モルモン」開拓者の成したる事業を褒める爲め平等に集まりましたので、皆心を合せ、以前よりも一層親密なる關係のあることを感ぜしめました。

第七章　米西戰爭に於けるユータ兵

一千八百九十八年二月十五日合衆國の戰闘艦メインが西印度キユーバ島ハバナ港に碇泊して居つた時に爆裂して沈沒しました、此は無論スペイン軍の士官の奸謀に出たに相違ありません、之が爲めスペイン國と合衆國が戰爭をする樣になりました、同年四月十三日合衆國々會下院が開戰布告案を可決確定しましたが、十六日（土曜日）に上院がキユーバ島の獨立國なることの宣言書を追加しました、而して十八日上下兩院は開戰布告案と追加宣言書を可決確定しました、四月二十一日愈戰端を開きまして合衆國の巡洋艦ナッシヴキルが材木商船ビユエナ、ヴエンチユラに實彈を發射して其を捕獲しました、二十三日大統領ウヰリアム、マッキンリが十二萬五千人の義勇兵徴發令を發しましたところユータ州知事ヒベル、エム、ウエルスがユータ州の分即ち二年志願兵五百人を募らんとて召集宣言書を出

しました、ドグラス兵營に置かれてあつた黑人の兵は市民の萬歳及び喝采の聲のみならず、「戰鬪艦メインを記憶せよ」といふ言葉も耳に響いて二十日に早やサルト、レーキ市を出立したのでありました、而して此の兵はサンワン小山の戰鬪に於ける最勇の兵と稱へられて名高くなりました、四月二十三日、以前にサルト、レーキ市に置かれたる步兵第十六聯隊が北方よりオグデン市に到着したが知事ウヱルスと幕僚及び民兵士官等に迎へられました、而して五千人の市民は奮つて此の兵を熱心に歡迎しました、此の兩隊は戰地に行くのでありました。

二十八日(木曜日)大管長ウッドラフと其の顧問は義勇報國の念を鼓舞する爲め勸告書を發して合衆國政府のユータに對する徵發に末日聖徒の青年が速かに且欣然として應ずることを勸めました、新兵募集官が派遣された處、直に精力有つて勇敢なる青年は我が國の爲め全力を盡すの決心にて徵發に應じ入隊しました。

五月一日夜明に海軍少將(今大將)ジョルヂ、デユウヰが合衆國の亞細亞艦隊を以てマニラ港に於て西班牙艦隊を全滅せしめた大勝利の報告に依りて今新ユータ州の各地方よりサ

ルト、レーキ市の大集屯地へ集合しつゝ、ある志願兵は大に感動して愈熱心になりました、各町村の人々は國旗を立て、諸多の協會と組合と敎會と學校は愛國音樂會を催して種々の唱歌と音樂と演說とをしました。

五月二十日少佐リッチャード、ダブルユ、ヤングと少佐エフ、エー、グラントがエー(A)とビー(B)砲兵中隊の兩隊約三百人と大砲八門ばかりを持つてサルト、レーキ市を出立しましたが、市民は神の大恩惠が其の兵士にあらんことを願つて其の行を壯にしました、此の兵は比律賓諸島へ行くのでありましたが、二十二日サンフランシスコ市に着するや非常に歡迎されました、其の後二十四日大尉ジョセフ、イー、ケインがユータ騎兵を八十二人率ゐて出立しました、而して十五日に大佐ジョン、キユ、カノンがトーレのラッフ、ライーダス(志願乘馬狙擊兵)アイ(I)中隊を率ゐて編成する爲にワヨミング州シャイエン市へ出立しました。

此の敎會史上に該戰地に於けるユータ兵が義勇奉公の精神を發揮したる武勇談を記載するの特權はないが、兎に角に該兵士が盡忠したる爲にユータ州及び我が合衆國は大に譽ち

れました、以前からユータに敵對せし人々がユータ州民の大多數は「モルモン」敎の信者であつて、皆不忠で愛國心の全く無き者だと絶えず誣告し、特にユータが統治權ある州と認可されぬ以前は甚しかつたのであるが、今回ユータ兵の報國的行爲の爲何時までも緘默する樣になりました、ラッフ、ライダースは一千八百九十八年十月二十八日フロリダ州ジャクソンヴヰル市で解隊になつて、同月ユータへ歸りましたが、比律賓島マニラ砲兵中隊は一千八百九十九年八月十六日まで兵役に服して同日サンフランシスコで解隊になりまして、十九日にユータに到着することになつて居りました、其故に知事ウエルスが宣言書を發して十九日をユータ州の休日としましたので、州民は熱心に其の日を守り、眞心より悦んでユータ兵を歡迎しました、かくの如くユータの全民はユータ兵の歸州することを悦び且該兵を歡迎しましたが、此は當然のことであります。

此等の男子は己の義務を克く務めて人々より忠勇なる軍人と稱せらるべき兵でありました、實に戰勝の月桂冠の一部は彼等の荷へる處でありました、團隊としての彼等は歷史上に無上の光榮を荷ひ、又ユータ州は彼等を以て永遠の誇としました、而して個人としては

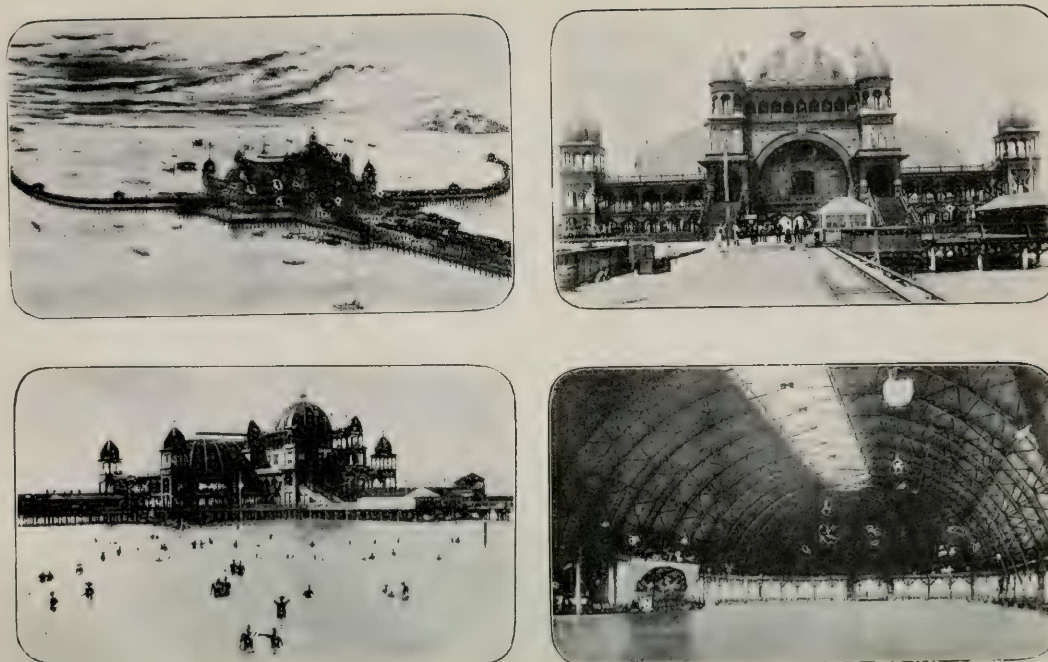
比律賓諸島戰爭で、最も盡力したる模範的人物と見做されました、其故に軍事上の達人から彼等は義務を大切に重じ其を盡し、熱心で、才能あり、且品行方正の勇士として賞賛せられ、又尊敬されました、かくて自らの名聲を揚げたのみならず、我が大共和國の諸州の中でユータ州の名を非常に高めました、其故に總てのユータ人は悉く其の兵の武勳に注意して己も亦其に參與せるかの如くに感じました、今も猶其の如く感じ、又其の兵士の勇氣と名譽との爲に利益を受けつゝあることを忘れては居りません。

普通に運命と稱せらるゝものは運命と云よりも寧ろ神の恩惠と見做さねばならぬが、ユータ兵は旅行と戰鬪及び歸國中には大に此の神の恩惠を蒙りました、自然の嵐及び人事上の災に苦めらるゝ事なく、該兵の運送船は安穩に大洋を渡航りました、戰地で此の兵は常に前列に居つたに拘はらず死傷者は不思議にも少く、戰地へ行つた三百五十四名の内に僅かに十三名の死者がありました、かくて全能なる神は不可思議にも其の勇士を敵の彈丸と疫病より保護し給ひました。

第八章　大管長ウヰルフオルド、ウッドラフの逝去

大管長ウヰルフオルド、ウッドラフは一千八百七年三月一日コネチカット州ハートフオルド郡フアミングトン町(今エーヴアンと稱す)で生れ、一千八百九十八年には九十二歳でありました、敎會の創立三年後即ち一千八百三十三年十二月三十一日ウッドラフ氏は浸禮を受けて入會しました、其て殆んど創立の時より敎會の愈々盛大になることを見、又注意して其の不思議なる歷史を己の日記に載せました、而して其の日記は最も念を入れて油斷なく書いた人の日記の中で最も能く出來て居りました、ウッドラフ氏の一生涯は珍しくも敎會の歷史に關係が深くあるのです、一千八百三十四年一月二日敎師の役に任ぜられた時より累進して神權の凡ての位に上り一千八百三十九年四月二十六日ファー、ウェスト市で十二使徒の一人に任ぜられた時まで常に敎會の司等と交際してシオンの事業即ち敎會は神の事業であると能く覺つてをりました、而して敎會の進步の爲め如何なる働に任ぜられても何時も熱心で忠義を盡して其の働を誠實に行ひました、敎會の最も成功したる宣敎師の一人

で又最も信實なる僕の一人でした、青年時代より教會と共に成長して多くの驚くべき變化を見、又末日聖徒に對する神の不思議なる取扱を經驗しました、ウッドラフ氏の一傳記は教會の歴史の如く前半後半孰れも輕重し難き所でありますが、末日聖徒耶穌基督教會の大管長に在職の間實に教會の奇事中に最も著しき大事件は許多ありました、其の主なるものを記せば次の如し、聖徒が恐しき迫害を受けたので一夫多妻の實行を禁止したこと、多妻主義に關する宣言に依りて民黨と自由黨とを解散したこと、ユータ州民が國の各種の政黨に加盟したこと、四十年間を費してサルト、レーキ神殿を普請し之を神に獻殿せしこと、ユータ州民がリーハイ町で砂糖製造場を建設して其の供給を他に仰がざる樣に砂糖を製造して幾百万弗となく貯金し、其の蓄積力を示したること、大鹽湖上に於てサルテーアと云ふ舞踏館及び水浴場を設けたること、オクデン河の水を用ゐて電燈及び電力を起したること、ユータが合衆國の統治權ある一州と認可されたこと、ユータ開拓者がサルト、レーキに到着した際の五十年記念祭を行ひたること、又ユータ義勇兵が一千八百九十八年米西戰爭にいでたこと等てあります、五年前サルト、レーキ神殿を獻殿した時ウッドラフ氏の預



大鹽湖上の大水浴場の内外（サルテーア）

言したこと、即ち神が近々にシオンを慰藉め、又大恩惠を與へ給ふべしといふことが既に實現されました、而して此の高齡なる神の僕ウッドラフは其の確に實現さるゝを見るまで生存へて、一千八百九十八年九月二日サンフランシスコで死去しました。

其の死去及び死去以前のと略記すれば斯樣である、ウヰルフオルド、ウッドラフは數年の間外に病氣とてはしなかつたが、不眠症によりて一千八百九十八年八月十三日養生の爲め己が妻エンマと副管長ジヨルヂ、キユ、カノンと其の妻と共にサルト、レーキ市を出立して太平洋の海岸にゆきました、思ふに出立した時は元氣好く愉快を盡したこととでせう、サンフランシスコ市に到着して當地の末日聖徒の集會で說敎し、又太平洋海岸の八十歲より九十歲までの老人の集會で公に演說をしました、實に悅んで居りました、九月一日泌尿病で非常に苦みましたが、翌二日午前六時四十分大佐アイザク、トランボの家で死にました、此の晩サウザーン、パシフヰク鐵道會社は無賃で其の遺骸を葬車に載せてユータへ送りました、此の汽車は四日(日曜日)午前七時五分オグデン市に着しました、オグデン市ではウヰーバステーキ部長會と高等裁決職と各ウワード部の監督等と近接地方より來れる

數百人の重立つた長老及び當市の各階級や宗派に屬する多の長幼男女はオグデン停車場に集まり、逝きたる司に敬意を表せんとて、皆一齋に帽を脱し肅然容を改め聲を潜めて其の汽車の入り來るを眺めました、其の汽車の到着せる五六分前にサルト、レーキ市よりリオ、グランデ鐵道の臨時汽車が、オグデン停車場に着きました、副管長ジョセフ、エフ、スミスと敎會幹部の多くの役人とウッドラフ家の人々が此の汽車に乘つて來ました、サンフランシスコよりの汽車が到着したら葬車はサルト、レーキ市に行く樣に直ちにリオ、グランデ鐵道線路へ移されましたが、オグデン停車場より發車する前に葬車の戶が開かれました、それで數百の人々は葬車の內を通つて永き眠に憩みたる眞實正直で尊敬すべき司の遺骸を覽るの機會を得ました、副管長カノンと握手禮をした人もありましたが、カノン氏は旅行及び三日前からの耐へ難き出來事のため、疲れて少し病氣でありました、けれども尙多くの朋友と挨拶することが出來ましたが、其の手を握りながら涙を零しました、ウッドラフ氏の質素なる寢棺はカリフォルニア州の馨の好き花に取りまかれ掩はれました、のみならず死去したるウッドラフ氏の成熟したる生涯の適當なる徽章として棺の上に熟したる稽ある

小麥の束が置いてありました、足の方に花の柱が立ち、頭の方に薔薇の花で出來た枕に似たる者があつて、而して百合花、翠菊、和蘭石竹及び色々の花が灑々と其の周圍に散つて居りました、此の知名な人の遺骸が己が愛せしユータに着せし日は九月の長閑なる日でロッキー山中に限る實に淸麗なる秋の天氣でありました、其に又聖徒が此の日を斷食日として守りました、天然自然の莊嚴なることゝ聖なる安息日の平和と宗敎上の信仰とに依りてさすがに此の日は人々が感動いたしました、最初は好奇心で集まつた人々も今は眞面目に悲哀の底に沈みました。

汽車がサルト、レーキ市に着して寢棺と花などを葬式馬車に載せますると直ちに其の馬車を始として其の後に親類と朋友の馬車は大凡三十臺行列となつて、當市の中央街を通つてリバーテー公園を過ぎ、ウッドラフ別莊へ行きました、後で一千八百九十八年九月八日（木曜日）當市の大會堂内にて葬會を開くことに極めました、其の日ユータ州の四方より何千人となく會葬いたしました、大會堂内の無比壯麗で淸楚なる裝飾を簡短に記せば左の通であります、講壇に白き毛緞子と白きリボンが立派に掛飾つてありました、唱歌隊の大なる組

の婦人は殘らず白き衣服を着ました、死去したるウッドラフ氏の眞身大の肖像畫の上に「死するも尚語る」といふ古の金言が色々の電燈で拵へてありました、大なるオルガンの前に大きな合衆國の國旗が揭げてあつた、而してユータの以前の狀態の記號として死者の書の下に向日葵が混ぜてあるセーヂ、ブラッシュの大きな束々があり、外見の荒い松の枝、又ハリエニシダ及びラビット、ブラッシュの黃色な葉末の束々がありました、今日の進步の狀態を示す爲め熟したる燕麥と小麥との束々が飾つてありました、而して人々が永き眠に憩みたる司に對する愛情を表章せん爲に數多の花を寢棺に置きましたので、棺は實に奇麗な花に埋められてありました。

オルガンの奏樂と唱歌との後使徒フランクリン、デー、リッチャードスが祈禱いたました、副管長ジョセフ、エフ、スミスと使徒等フランクリン、デー、リッチャードスとロレンゾ、スノーと副管長ジョルヂ、キュ、カノンとが演說をしてウッドラフ氏を譽め、親類を慰めました、其からウッドラフ氏の最も好みし讃美歌なる「神の御意の成るは奇し」を歌つて而して使徒ブリガム、ヤングが閉會の祈禱を捧げました、出棺行列が立派で實



大會堂所謂幕殿の外觀



同內觀

に長くありました、而して墓場への道中は何千人となく之を觀ました、墓場に到れば午後二時四十五分ハーモニー、グリー倶樂部の人が「死せしにあらず眠るなり」といふ歌を歌ひ、フランセス、エム、ライマンが埋葬の祈禱をしました、すると人々が數多の奇麗な花を其に置いたので墓は全く花を以て掩はれました。

農業家で宣教師で歴史家で大管長であり、又愛情ある父たり夫たるウッドラフ氏は永く存命して利己心なく力を盡して民の爲め熱心に働き、又全民に愛せられたる最も非凡の人物でありましたが、斯くして逝き葬られたのであります。

第九章　大管長ロレンゾ、スノー教會を司る事

如何なる理由に因るとも管長會が其の權能を失ふ時は十二使徒が教會を治める責任がある、而して大管長ウッドラフは死する數年前、若し己死なば管長會を新たに組織することを遷延せざる樣使徒に勸めました、其故に使徒は此の訓誡及び聖靈の指圖に從つて大管長ウッドラフの死後十一日にして一千八百九十八年九月十三日一致して使徒の會長

ローレンゾ、スノーを選び按手禮に依りて彼を教會の大管長としました、大管長スノーは故大管長テイラーとウッドラフとの顧問であつたジョルヂ、キユ、カノンとジョセフ、エフ、スミスとを復任して己の顧問にしました、翌十月教會の後期大會の際に聖徒全體は莊嚴なる集會を開き擧手に依りて此の三人を己等の司等と認めました。

大管長ロレンゾ、スノーは一千八百十四年四月三日オハイオ州ポーテジ郡マンチユア市て生れて二十一歳の時にオーバーリン大學校に入學して其處て教育を受けました、一千八百三十六年浸禮を受けて教會に入りました、而して翌年教導し始めました、三年の後パーリ、ピー、プラット氏と共に歐羅巴へ行つて始めて外國傳道を致しました、英國に居つた時「救はれんが爲め踐むべき唯一の道」といふ宗教上の書物を著作しました、此の種の讀物としては此の小冊子に優りて一層多くの外國語に翻譯せられ、又多くの人々に福音の原則を敎へたものはありません、而して將來にも其の著者は國々に向ひ、此の小冊子を以て福音が正確で神の敎であるといふ證據を立つるのであります、一千八百四十二年二百五十人の改心者を伴ひて歸國しました、翌年ジヨセフ、スミスが合衆國大統領に選擧せ

られるやうにオハイオ州を選擧遊説地にして熱心に働きました、其の後ナーヴウ文學校（中學程度）の敎師をしましたが、長く病氣と困窮をしましたが一千八百四十八年サトル、レーキの原野に至りました、翌年二月十二日敎會の使徒となりて伊太利國へ行きて傳道を開きモルモン經典を翻譯しました、三年間傳道して一千八百五十二年七月に歸國して翌年領土ユータの議會議員に選擧されて二十九年間勤めましたが、其の內十年間は上院議長の役に在りました、一千八百五十五年五十の家族を伴ひてブリガム町を建設して其處を已が住處としブリガム町の共立宗團を起しました、夫より一千八百七十七年八月まで二十二年間ボクス、エルダーステーキ部長でありました、其の間に二度外國傳道に行きました、一千八百七十二年ジョルヂ、エー、スミスと共に歐羅巴とパレステン聖地へ行き、一千八百六十四年布哇諸島へ行きました、布哇に居りました時三月に太平洋で溺れたことがあつたが神の恩惠によりて不思議にも助かりました、政府の官吏が聖徒を最も攻擊したる當時は一千八百八十五年十一月長老スノーは捕はれて不法同棲の有罪者と認められてユータ懲治監內にて一年六ヶ月の禁錮の宣告を受けました、が十一ヶ月禁錮されて後護身律證書に依

り て免されました、一千八百八十九年四月六日十二使徒の會長となつて敎會の大管長に
なるまで忠實に其の職を務めました、大管長スノーが敎會を引受けた時、敎會の負債は
非常に多くありました、其は敎會が迫害せられ、所有物を官沒された結果であるが、一千
八百九十二三年の時迫害が緩和められて「局面一變の時代」となりました、前大管長ウ
ッドラフは一個人としては一錢も負債をしたことがなかつたのに敎會の大管長となつて、
始めて負債といふことの心配を知り敎會の財政困難に關して非常に苦心しました。

此の時に於ける大管長スノーは恰も敎會の負債を返濟し、敎會の財政を再び鞏固なる
基礎の上に据ゑんが爲め神が特に選びたるかの如くに見えました、何となればスノー一度
大管長となるや程なく聖靈に感じて敎會の經濟上の逆境を挽回せんとしました、スノ
ーは前後兩度敎會の債券を發行させて、大凡百萬弗程の證券を發しましたので、最も至急
の負債を返濟して負債の利子を餘程省きました。

其の後所得の十分の一を敎會に納める掟法を守る樣に聖徒を勵ます運動がありました、
此の運動に依りて大管長スノーの施政は敎會歷史中の最も著しきものゝ一つとなりまし

た、此の運動の始としては一千八百九十九年五月セイント、ジョールチ町及び南部の各町に於て集會が催されて其の後神權を有する人の司等は皆神殿内に集りました、其處から十分の一法を守るべしといふ傳言は、大波濤の起りたるが如く、シオンの各ステーキ部に傳はり及んで、聖徒に其の義務を重じ、其を守る樣に勵ましました、司等は其の演說により て此の地方は神の定めたる十分の一法及び施物の掟法を守る人のみに取りてシオンの地であると神が約束し給ふたことを聖徒に訓告しました、又言ふに聖徒が十分の一を納むべき筈である、如何となれば是は唯敎會の負債を返濟すること即ち一つの出來事の爲に必要なるのみならず、又實に神の命令であつて聖徒の守らねばならぬものである、今までの油斷は赦されますが、將來は決して此の神の掟法を怠つてはならぬ、而して聖徒が此の掟法を守れば量り難き大祝福を與へらるゝと約束したが其に反して、若し之を怠る時は其の不從順の爲に神は災禍を以て聖徒を惱ますに相違はないと斷言致しました、人々は謙遜と愛とを盡して此の掟法を守りました、而して未だ曾て無き程に多く十分の一及び施物を敎會に納めました、人々は大管長スノーを愈尊敬し、神を益々信仰しました、聖徒の狀態善

くなり、又未來には見込が立つと同時に敎會の境遇も愈回復つて來ました、聖徒が此の掟法を能く守り始めましてから神は總て他の時よりも一層多くの祝福を己が民に注ぎ給ひました、敎會は數多の負債を返濟し、又其の他の總ての負債の支拂の期限が來れば返濟する程の金を持つて居りました、而して物質的及び精神的大恢復及び種々の變化と改良が出來たので將來には實に廣大で善き結果を生すべき次第となりました。

ビーハイヴ地面を別けて大學通と神殿通とを作り、ビーハイヴ邸を敎會大管長の居宅とし、古く窶しき家屋を取除け、敎會の所有物を修繕し、末日聖徒大學校を創設して其の一部を建築し、前大管長ウッドラフの發起したる敎會學校組織は新たに熱力を增加し、ブリガム、ヤング記念館及びバラット館といふ二つの建物を普請し始め、(兩館は末日聖徒大學校に屬する物)婦人館を建築しやうと決談し、一萬二千弗を投じてサルト、レーキ市の大會堂内のオルガンを改造し、オルガン音樂會を繼續し、デゼレト新聞の壯麗なる建築を殆んど竣功し、敎會の出版物を一己人の手に印刷せしめずして敎會印刷所にて印刷し始め、デゼレト新聞を大に改良して敎會の公文機關紙としました、大管長スノーは神の恩惠によ

りて件の如き業務の進取的方針を發起した人であります。

大管長スノーが教會を治めて二年目に一千八百九十九年十二月九日使徒フランクリン、デー、リッチャードスがオグデン市己が住所で死亡しました、同氏は一千八百二十一年四月二日マサチユセツ州リッチモンド市で生れて父母はフヰニース、リッチャードスとウエルセ、リッチャードスとてありました、一千八百三十六年父より浸禮を受け、一千八百三十九年七十人會々員とせられ、一千八百四十九年使徒となり、一千八百九十八年使徒ロレンゾ、スノーが教會の大管長に撰ばれた後十二使徒會の會長になりました、其の葬儀には大管長スノーと使徒會及び人々の大なる群衆が參會しました、而してオグデン市の墓地に葬られました。

リッチャードス氏は外國にも内國にも幾度となく傳道しました、故に總て世界中の聖徒が其の名を知つて居ります、リッチャードス氏は教會の職務及び公役を勤めて一生を捧げて人々の爲めに働きました、一千八百六十九年より一千八百八十三年までヴヰーバ郡で地方裁判所裁判官といふ一大切なる職務を執行しました、其の他多くの職務がありました、

就中教會の歷史家であつて、社會上及び宗教上の貴重なる要領を記錄し置かんとて働きました、ユータ州の史學會の會長の役をもつてをりました。

リッチャードス氏は理想的末日聖徒でありました、彼の親切と慈愛深さは恰も赤子の父母に於けるが如く、彼を知れる總ての人々は皆彼を尊敬し、信用しました、彼の演説談話は常に嘉言を以て滿され、且快活にして聽者の憂苦を去りました故、誰一人として熱心に聽き且悅服せぬ者はなかつた、彼は總てのことに於てジョセフ、スミスに同意し、スミスは神より任命せられた特別の使命を帶びたる預言者であると確に承知して露ほども疑ひませなんだ。

ロレンゾ、スノーが教會を治めた間に尙一つの記するに足るの事柄は副管長ジョルヂ、キユ、カノンの死であります、カノン氏は一千九百一年四月十二日(金曜日)早朝にカリフオルニア州モンテレー市に於て死にました、越えて月曜日の晩までに其の死體はサルト、レーキ市に送られました、其の人が死去しましたので末日聖徒耶穌基督教會は有力なる保守的勸告者を失ひ、ユータ州は勢力ある大柱石を失ひ、商業社會は勢力ある進取的財產

家を失ひ、カノン家は混々として盡ることなき愛情深き兄弟たり夫たり父たる人を失ひました。

ジョルチ、キユ、カノンは一千八百二十七年一月十一日英國リヴアプールに生れて父母なるジョルチ、カノンとアン、クエール、カノンとの長男でありました、父母は英國マン島ピール市の人でありました、カノンは一千八百四十年二月十一日前大管長テイラーより浸禮を受けて教會に入りました、一千八百四十二年九月其の家族はナーヴウ市を行先として出帆しましたが、母は其の途中にて死し海中に水葬せられました、二年後の八月十七日セイント、ルーイ市で父が死にました、此のジョルチ、キユ、カノンは印刷を業としまして「おりく草」雜誌社と「ナーヴウの友」新聞社とに働きました、聖徒が其處より放逐された時にウキンター、クワータスへ行つて一千八百四十七年西方の野原を通つて十月三日大鹽湖の原野に着きました、生計を營むため二年間開拓者と共に働き共に其の當時の艱難辛苦を耐へて後長老チヤールス、シー、リッチの司るカリフオルニア傳道部へ派遣されました、其の後布哇諸島へ派遣されて其の土人に福音を教へ、(四千人教會に入りました)傳道部を

設置するため困難なる働を信實になし、モルモン經典を該島の言葉に翻譯したこと、又歸國してからカリフォルニア州で「ウエスターン、スタンダード」と云ふ新聞を發刊したこと、及び其の新聞に於ける彼の記述は普く世に知られて居ることであります、ジョンストンの軍隊がユータへ來た時の酷い艱難を救はんとて一千八百五十八年にユータへ歸りました、其の時よりカノン氏の傳記は教會とユータとの歴史と極めて親密なる關係があるのです、四十年間教會とユータとにはジョルヂ、キユ、カノンの或は發起し或は關係せざる重大なる事業は誠に少くあります。

時々、デゼレト新聞の主筆であり、又一千八百六十六年一月自ら設けた「幼年の教師」(雜誌なり)の編輯人と發行者であり、又種々の書籍を發行したり、著作したりした人であつた、カノン氏の著作物は教會諸文書の重要なるもの丶一つであります、又カノン氏は教會中著作家の有名なる一人でありました、學事上にも其の通り勢力ある人でありました、日曜學校の大事業の爲め力と精神とを盡して働きました、而して「幼年の教師」を發行したる爲に盛大なりし事業は尚一層盛大になりました、二十年間ユータ大學々務委員會々員で

十年間ユータ大學校の學位を授與する役員として其の學校の頭でありました、而してユータの最も困難をした多年の間カノン氏は高等教育の大勢力ある賛成者であり、又熱心なる唱導者であつたのであります、有力なるブリガム、ヤング高等學校及び其の他教會の諸學校に對するカノン氏の功勞は實に明かに人目に立ちました、何となれば彼は常に諸學校の要求を充さんことに留意し、又其等の改良上進に關することは絶えず彼の念頭を去らなかつたからであります、カノン氏の力は大抵彼の謙遜より出て賢き勸告者としての勢力は大抵人の意見に對する敬服及び其を欣然と傾聽し尊敬することに基いて居りました、國會に於てはユータを巧妙に代表し、且國の元老碩學に尊敬せられ、交際官としては殆んど彼の右に出づる者なく、演說家としては最も人に感動を與へ、如何なる場合に於ても聽衆の大多數をして知らず識らず己の意見に賛同せしむるに至る程の感化力がありました。

カノン氏は四月十七日(水曜日)サルト、レーキ市の墓地に葬られました、大會堂に於ける葬會は最も人心を感動させるものでありました、美妙しき音樂と唱歌もあり、又純白の晒布は實に立派に飾つてありましたのみならず、奇麗に編み結ばれたる花は實に無數であ

りました、此等の花は當市及び合衆國の四方に住める彼を親愛せる友の携へ來たりたる物でありました、カノン氏の信實なる教會に於ける兄弟は悲哀に沈める一万の長幼男女の人々に向つて亡き人の高尚なる一生と其の行爲とを稱讚して彼等を感動させました、而して教會全部は一般に深く哀悼しました、恰も國民が其の敬愛する首領たり尊父たり勸告者たり案内者たる人を亡ひたる時の如くでありました。

大管長ロレンゾ、スノーも直ちに己の顧問の後を追ふて此の世を去り、大未來の世に逝くことゝなりました、彼は一千九百一年十月十日(木曜日)午後三時三十五分ユータ州サルト、レーキ市己が住居なるビーハイヴ邸で死亡しました、かく急に死にたる原因は數週間前に感冒に罹りて格別に惡くは見えなんだが、後に氣管支炎に變はりました爲でありますす、十月教會の後期大會の際に唯一回のみ出席することが出來ました、六日(日曜日)午後の集會に出席して大會堂に集合したる大勢の人々に最後の演説をしました。

彼が聖徒に對する最後の傳言は「願くは神の大恩惠が汝等にあらんことを」といふことでありました、またシオンの五十のステーキ部の政治の聖なる責任のあることを各ステー

キ部の部長等と高等裁決職とに特別に注意を與へました、而して其の役人は各ステーキ部の人々の肉體上と精神上及び經濟上の狀態に注意して如何にして其の最も必要なる補助を與へることが出來るかを能く考へ恰も己が家族の人の面倒を見て世話をしてやるが如くに己が敎導する人々の爲に心配する樣にと申し付けました、又何時も之を爲すことは義務であると覺えて、而して今己が語つて居る言葉を忘れてはならぬと繰返して其の役人を誡めました、又之は使徒の務ではない、使徒及び七十人會の會員は全世界の爲に心配して萬人に向つて福音の正確なることを證する爲に特別に選ばれたる人であると告げました、又大管長スノーは其の演説の際己は旣に老人なれば前副管長ジョルヂ、キユ、カノン氏の後任として己を助ける爲め一人の顧問を選んだと申しました、而して其の集會で副管長ジョセフ、エフ、スミスは第一の副管長となり、長老ルッドガ、クラーソンは第二の副管長となるため、聖徒の賛成を受けました。

此の義務を遂行するため、又將來にあるべきことの模範となさん爲め使徒ビベル、ジエ、グラント及び長老等ルーイス、エー、ケルチとホラス、エス、エンサインとアルマ、オー、テ

イラーが既に七月二十四日(明治三十四年)ユータを出立して日本へ來て傳道を開き福音を宣傳へ始じめました、(附錄第二章を見よ)其の一二月以前に使徒フランセス、エム、ライマンが歐羅巴傳道を司る爲め出立しました。

大管長スノーは多忙なる己が一生の殆んど六十五年間民の爲に勉勵なる敎導者でありました、其の六十五年間に大なる艱難辛苦を忍びながら實に驚くべき不思議なる大事業を出かしました、スノー氏は小兒の如く神を信仰し、同胞人間を愛し、躊躇なき決心を以て日々に快く又勇しく他の聖徒と等しく艱難辛苦に耐へました。

十月十三日(日曜日)大管長スノーの建設したる立派なブリガム町の上の方山手に於ける墓地で老幼男女が涙を零しつゝ唱歌を歌ひ音樂を奏し死去したる大管長(スノー)を稱讃しながら其の遺骸を葬りました、スノー氏の靈魂は義人と共に救ひ高められて居ります、勢力ある稀代なる民即ち末日聖徒は彼が存命中と同じく彼を愛し、尊敬しました、而して出來ることならば民全體は自ら好んで或は其の寢棺に花を置き、或はボクス、エルダーステーキ部の小兒の如く彼が最後の旅行即ち墓地までの道に奇麗な花を撒布したてあらう

第十章　ジョセフ、エフ、スミス大管長に選ばる

我が天父は更に一人の高尚なる教導者を此世より召出し、死に依りて其の預言者なるスノーの口を閉ぢ給ふたに拘はらず、奇くて最怪き事、即ち教會は勝利を受くべき道には少しも猶豫しませなんだ、他の人が選ばれて以前の人の如く己等の時代に之を等しく進歩せしむるのである、一千九百一年十月十七日（木曜日）サルト、レーキ神殿內で使徒の集の際に教會の第一の定員會なる管長會を完全に組織してジョセフ、エフ、スミスを選んで末日聖徒耶穌基督教會の大管長にしました、而して大管長スミスはジョン、アール、ウヰンダーとアントン、エチ、ランドを己の副管長として選びました、其の集でフリガム、ヤング（二代目）は選ばれて十二使徒會の會長とされました。

大管長スミスは一千八百三十八年十一月十三日ミスウリ州ファー、ウェスト市で聖徒が所有物を掠奪せられ、最も酷い辛苦と迫害を忍ぶ最中に生れました、十年後（一千八百四十八年九月二十三日）母と共にユータへ行きました、父ハイラム、スミス即ち教會の大祝

福師は一千八百四十四年六月廿四日預言者ジョセフ、スミスと共に殉教者として死にました、母は一千八百五十二年に死にました、スミス氏は十五歳の時より以來絶えず教會の爲に務をなし、品行方正の生涯を送つたので、民全體に愛せられ、信用せられ、尊敬せられる樣になりました、一千八百六十六年七月一日大管長ブリガム、ヤングの按手禮に依りて使徒とせられて、一千八百六十七年十月八日十二使徒會の缺員を補ふ爲に會員に任ぜられました。

大管長スミスは民の味方で最も親み易き人で、又賢明なる司と勸告者で偏頗なく大量なる人柄であります、又其の同情に富めることは恐くは人が初對面の時に想像し得ない位であります、「モルモン」教徒の最も善き人の一人であります、即ち辛苦に慣れて居り、忍耐力があり、神を畏れ人の爲め又教會の爲を思つては己が利益を求めず、私慾を抑へ、人類に對して實に愛情が深く道德上、精神上、及び身體上の力は實に鞏固であります。

スミス氏は丈高く、骨格逞しく、全身の發育均齊にして、鼻高く、容貌が人目に立つので實に魁偉なる人であります、談話するときは己が暗褐色で豁然した大なる眼を相手に止

めて透き通る樣に見るのですから一見して其の高い額の裡に不思議なる智力あるを輙ちに認むることが出來ます、其の大なる頭の冠として若き時は實に多くの黑髮がありましたが、今は長き鬚の如く殆んど眞白くなりました、スミス氏と會話をする人は彼の心裡の變化に從つて面相も亦忽ちに變ることを非常に感ずるのです、大層愉快さうで小兒の如く熱心になつて目下の問題や境遇に面白がるかと思へば、別人の如くに眞面目になり、極めて嚴正で威儀堂々たる相貌になることもあります、其の後者は彼の寫眞に於て遺憾なく認められ、又此は彼が幼年時代の經歷と境遇が如何に激烈なりしかをも表示して居ります、勇氣と、信任せられたるに對する忠實とは彼が性質より分離し得ざる樣に結合して居ります、義務を怠り、又責任に對して卑怯であつたことは決してありません。

　公會に於ける演說家としての彼の特質は非常な熱心と誠實なることであります、理論を巧に述べ、或は雄辯を振ふよりも熱心にことを陳べ、また其の態度の眞面目と誠實とを表すことに依つて人を感動させるのである、彼の言葉には一の飾なくとも其の自信力の強さ辯論は十分に眞理を宣べて人を感動させます、敎會の柱石たるスミス氏は福音の眞理及び

此の教會が神に依りて建設せられたることを深く腦裡に銘して居るのであります。教會の事業は賢くて才能ある天主の保守的僕に委ねてあります、而して末日聖徒は悉くスミスを信用し、贊成し、又スミスが神の恩惠と啓示とを受くることに依りて永くも亦盛大に教會を司り得る樣に只管に祈つて居ります。

新しき管長會が選ばれたと始めて報告された時、人々は一般に滿足しました、聖徒は殘らず眞心より贊成を表した樣子でありました。

而して十一月十日（日曜日）教會中の有神權者の臨時大會に出席したる人々は一人も不承諾なく使徒會の選びし大管長に贊成いたしました、回答の遲着た一つのステーキ部を除いてはシオシの各ステーキ部より或は代表者が來るか或はステーキ部に於ける大會で聖徒が可決したことを載せたる手紙が來ました、教會の幹部の役人は皆聖徒の承諾を得て繼續して務める樣になりました、ハイラム、マツク、スミスも十二使徒定員會の會員に任ぜられました。

有神權者は大會堂内の高い所及び中央に腰掛けて居ました、定員會の總ては順々に起立

して手を高く擧げることに依りて教會幹部の役人を承諾し、信仰と行爲とを以て飽くまでも此等の人に贊成し、此等の人を保助すると誓約しましたが、其の光景は實に非常に人を感動させました、其の次に會合したる聖徒ぬ殘らず起立擧手して同じ誓約を致しました、大管長ジョセフ、エフ、スミスは承認を得べき人の名を呼びました、擧手によつて教會幹部の役人の繼續を贊成したる者の順序は次の如し、管長會、使徒會、祝福師、ステーキ部長と顧問と其の高等裁決職、大祭司、七十人會々員、長老、監督と顧問、小神權を有する人即ち祭司、教師、執事、及び總て有神權者と聖徒全體とであります、大會堂內の一萬人の聖徒の一致するは實に感心すべきことでありました、而して此は無信者に取りて實に驚くべきことであつたと同時に神の教會を誠實に愛する聖徒及び司等には如何に歡喜に堪へなかつたことでせう、必ず斯の如き一致は天にも地にも善のため大勢力があるのであらう。

神の啓示を受けて教會の前途を管理する役に選ばれし人々の爲め聖徒は絶えず神に祈禱を捧げて居ります、而して神の教會は更に新しき世繼を愛度く迎へて己が光榮ある前途に進行しつゝあるのであります。

第十一章　ジョセフ、スミス記念碑

第十九世紀の預言者ジョセフ、スミス即ち神の權威を有して末日聖徒耶蘇基督教會を創立した人は一千八百五年十二月二十三日合衆國ヴァーモント州ウヰンゾル郡シャロン町に生れました、一千八百八十四年長老ジュニアス、エフ、ウエルスは此の預言者の生れた所へ行きまして、威勢ある神の僕、又眞理の爲め殉教者となつた偉人スミスが其處に生れたといふ事實を萬人に普く知らしむることそ善けれと感じて後に其の預言者の誕生日の百年祭を善く祝せん爲め彼が生れた所に於て記念碑を建てることを發言しました、彼は此の美しき思想を實行せん爲に選ばれて忠實に其の責任を負ひました、彼は記念碑につき種々考案を廻らし、最良の花崗石を以て其を造りました、之を看る機會のある人々は總て之を賞揚致します、此の事業に從事せる間多くの出來事によりて、ウエルス氏も此の附近の人々も神が不思議にも此の働を助け給ふたことを明白に覺りました、此の磨かれたる花崗石碑の質素にして美しく莊嚴なることは、該碑の記念する預言者の性格の如く、到底言語に言

ひ盡されません、記念碑を看て其を能く研究せねば十分に其の貴さが了りません、總ての末日聖徒は之を仰ぎながら感に打たれて其の適當なると、其の絶美なることを嘆賞します長老ウエルスがジョセフ、スミスの生れた古き家の跡へ建築家を伴ひ來り、其の崩れた土臺を彼に見せ、其の舊跡の上に理想的近世の家屋を建てさせました、今其の家に住んで記念碑や其の構内の看守をする人が教會の書籍を十分に備へ置き、而して教を受け、且神が末日に於て起し給ふた大事業（教會）を靜思せんとて其處へ行く人々に之を賣ることになつて居るのであります、該記念碑と住家は其の地方の最も眺望の好き場所の一つに建つて世界の最も威勢ある偉人なる殉教者が合處國ヴアーモント州の鬱蒼たる小山に於ける名も無き小さき町に生れたといふことを世界に告げるのであります。

＊記念碑はバールの花崗石で出來て悉く磨かれてあります、高さは凡そ五十尺、重量は百噸です、堅牢に凝結されたる土臺は二間四方にして厚さは一尺三寸四分であるが、第二段は一間三尺四方にして厚さは二尺です、碑銘臺は一間立方で、其の上にある緣石は七尺三寸四分四方、厚さは二尺五寸であります、預言者スミスは三十八年六ケ月存命して居りました、故に此の碑銘臺の上に三十八尺半程高い石がありま

す、此の石の下の方は四尺四方であるが上は段々と少く成つて三尺四方であるので、此の上に又三尺程高い角錐形の頂石が御座います

大管長ジヨセフ、エフ、スミスと副管長アントン、エチ、ランドと十二使徒會長フランセス、エム、ライマンと外に四人の使徒と大祝福師ジヨン、スミス其の他教會の初期の歴史に關係せし忠實なる多くの家族の代表者として多くの聖徒と役員が其の獻碑式に出席しました、それで此の美麗に飾つた住家は人を以て充滿されました、一千九百五年十二月二十三日午前十時に大管長ジヨセフ、エフ、スミスは其の式を開會しました、讃美歌と祈禱との後長老ジユニアス、エフ、ウエルスは記念碑の建立の來歴を明白に而も謙遜に述べました、使徒等フランセス、エム、ライマンとジヨン、ヘンリ、スミスとハイラム、エム、スミスとチヤールス、ダブルユ、ペンロースが短簡にして適切なる演説をしました、ユータ州の有名なる音樂家なるエンマ、ルーシ、ゲーツ孃が「ジヨセフ、スミス最初の祈禱」(末日聖徒讃美歌第二十四)を美しく歌ひました、後、大管長ジヨセフ、エフ、スミスは人をして感動せしむべき獻碑祈禱を捧げました、其の祈禱は謙遜にして莊重に靜肅にし

て飾なく人々に非常なる感動を與へました。

閉會の後人々は除幕式を見る爲め記念碑の傍に集りました、イーデス、スミス孃が小綱を引いて琢れたる臺の碑文を蔽ふた所の合衆國の國旗を取り放しました、すると人々が一同喝采の聲を出し、男は恭しく帽子を脫し、婦人はジヨセフ、スミスの如き預言者が近世に生きて居つたことを感謝して落淚したのであります、嬰兒のジヨセフ――母の膝下に戲れて居た時のジヨセフ――は親切で愛情深き母のみに屬して居りましたが、大人のジヨセフ――天に通ずる目があり、且世を改革する敎理を宣傳へたジヨセフ――は萬民に大關係を有して居りました、而して今日彼の友人と親類とは恰も天主イエス、キリストの友人と親類との如く、總て神の命令を守り、神に仕へる人々であるのであります。

此の壯麗なる記念碑は活ける眞の神の一人の預言者が末日に生きて人類に限無き、且貴き眞理の言葉を與へ、又イエス、キリストの再降臨前の準備として神の敎會を設立し、又神の總ての子即ち萬人が己等の無始無終の天父なる神の面前に救はれ得る爲に守るべき唯一の道を明かに說いたといふ無言の證據となつて居ります、而して又此の預言者が生命を

捨て己の血を以て己の立てた證據を確めたる事實は更に嚴肅なる不朽の證明である、末日聖徒はジョセフ、スミスに依つて神より力と權威とを與へられてシオンの荒されたる所を再建し始めました、而して此の大事業は永久に繼續します、かくて聖徒等は常に神の僕たる司等を愛し、尊敬しながら末日に於ける大事業即ち教會の爲め永遠の天父なる神と其の御子イエス、キリストに榮と譽とを歸せるのであります。

第十二章　結論

本書に記載してある如く多事なりし此の教會の過去を看來れば現在の盛大と繁榮とは我等の目に不思議に見えるし、又現在を以て將來を推せば光明に滿てる多望なる其の前途は歷々として面前に現出さるゝ。

末日聖徒は皆嬉み、神を畏れ、堅く道德を守り繁榮する良民で、其の數は益々增加し、其の善行は愈高まりつゝあります、聖徒の特性の中には勤儉、清潔、秩序、平安、謹直があります、聖徒は富める者てはないけれども、大概己の家と畑と家畜の群とを所有して

居ります、神は彼等聖徒の爲にシオンの地を惠み給ふた故曾て荒地であつた土地は彼等の爲に肥沃の地となつて、豐かに物を產ずるのであります。

聖徒は敎育の有力なることを深く信ずるので、率先して己が子々孫々に眞の敎育を與へるのです、小兒は總て聖徒の居る市と町と村とにある公立學校へ殆んど休なしに行きます、大管長ヤングの設立した學校の外に大管長ウッドラフは眞の敎育は正しき神學に基くものであると信じて敎會學校組織を設けることを勸めました、而して此の敎會學校組織が益々發達したので、今では多くのステーキ部には高等學校があります、(今五十五のステーキ部があります)。

年々に若き宣敎師は幾百人も傳道せん爲め、世界の到る處に行きます、此の人々は多くの新しき思想や了簡又進歩したる意見を以て歸るのである、而して聖徒は之を同化するので各市と町と村とは餘程利益と力とを得て進歩して居ります、十二萬五千人の多勢の小兒は到る處の日曜學校で躾を受けて居るし、相互發達協會で凡そ三萬人の男子及び殆んど相等しき女子が福音の敎理及び社會上の義務や歷史や文學を研究してをります、有神權者の

各定員會の會員は人々を教導し得る爲め、又日々の實地の事務を善くし得る爲に其の會で己等の義務を教へられます、而して婦人慈善會、兒童教養會及び宗教研究會は全民に利益を與へ、進步發達せしめんと努めて實に賞讃すべき活動をしてをります。

聖徒は其の厚德、善き目的及び人類に適當する教が愈々我が合衆國の人民及び全世界の諸民に了解さるゝに從つて愈々其の歡心を得るのであります。

將來は如何であらう、此の元氣强き進取的なる末日聖徒の前途は果して如何なるものであらうか。

彼等の信敎は完全なるもので、神の子等即ち萬民を肉體上にも精神上にも救ひ、發達せしめ、又幸福平安を與へるに適當したるものであります、而して彼等聖徒の高尙で實用的行爲は其の一つの例となつて居ります、彼等の宗教には神より示されたる眞理に基く天賦の强力があるので、永代に繼續するのは、確である、本教會は人の智惠によつて出來たものでなく神の起し給ふたものであります、神は賢き目的ありて此の教會を設立し給ふたのであります、而して以てイエス、キリストの再來及び地上に君臨することとの爲に人類に準

備をなさしむるのであります、之を要するに世人に「モルモン」教といはるゝ斯の宗教は其の範圍が頗る廣く、寛大にして、眞理を尋ね求むるのである、即ちイエス、キリストの福音である、又イエス、キリストの福音として將來には必ず萬民の間の唯一の宗教となります、該教會の眞理は直接に神より與へられたる所に起因してをりまする故に現在人々の必要に適して益々世の贊成を受けつゝあります。

教會の創立より最早殆んど百年に達するが此の間萬難を排し猛進し來りたる此の教會は今や多望なる二十世紀の戸口に入りまして其前途は實に光明に充ち滿てるのでございます。

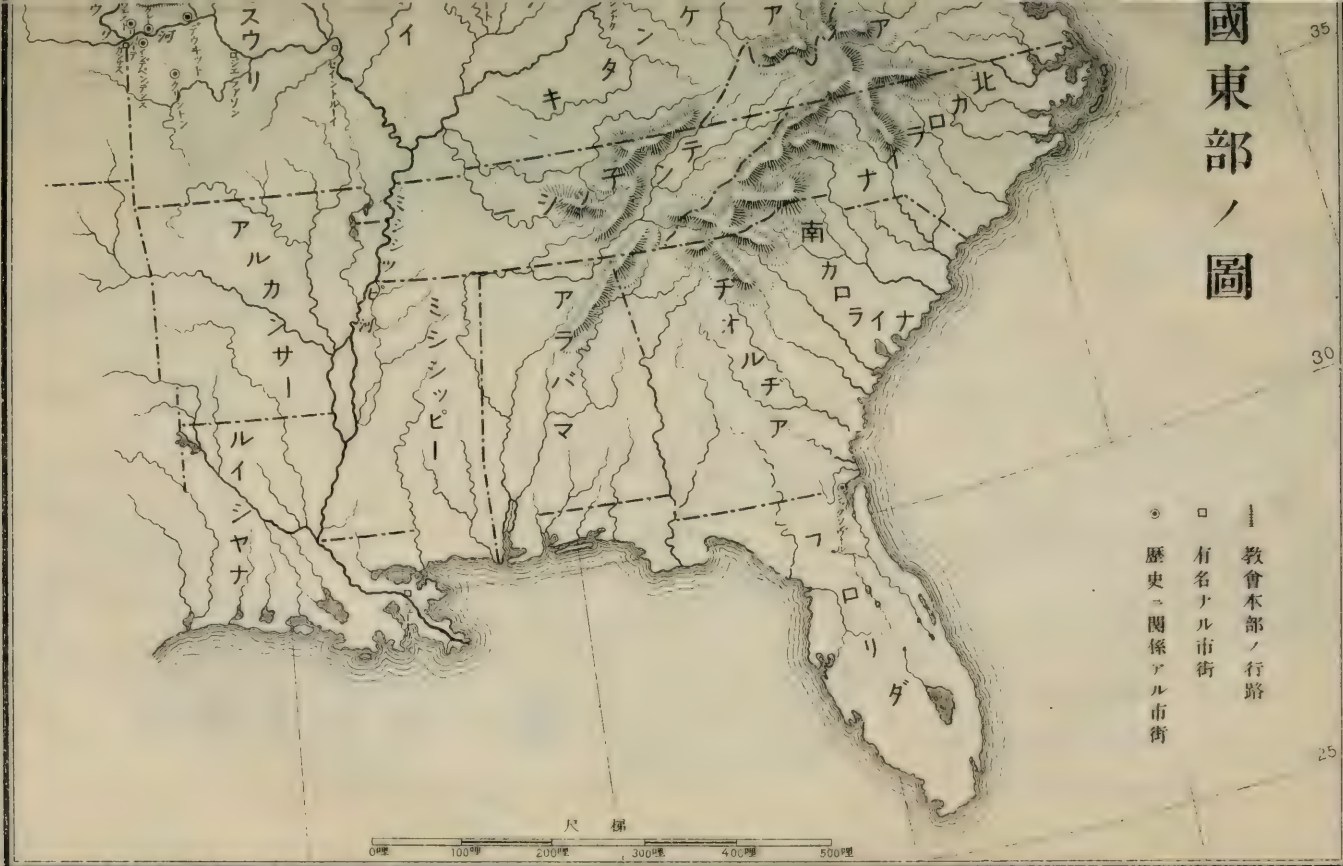
教會略史 大尾



七ゴ百合花



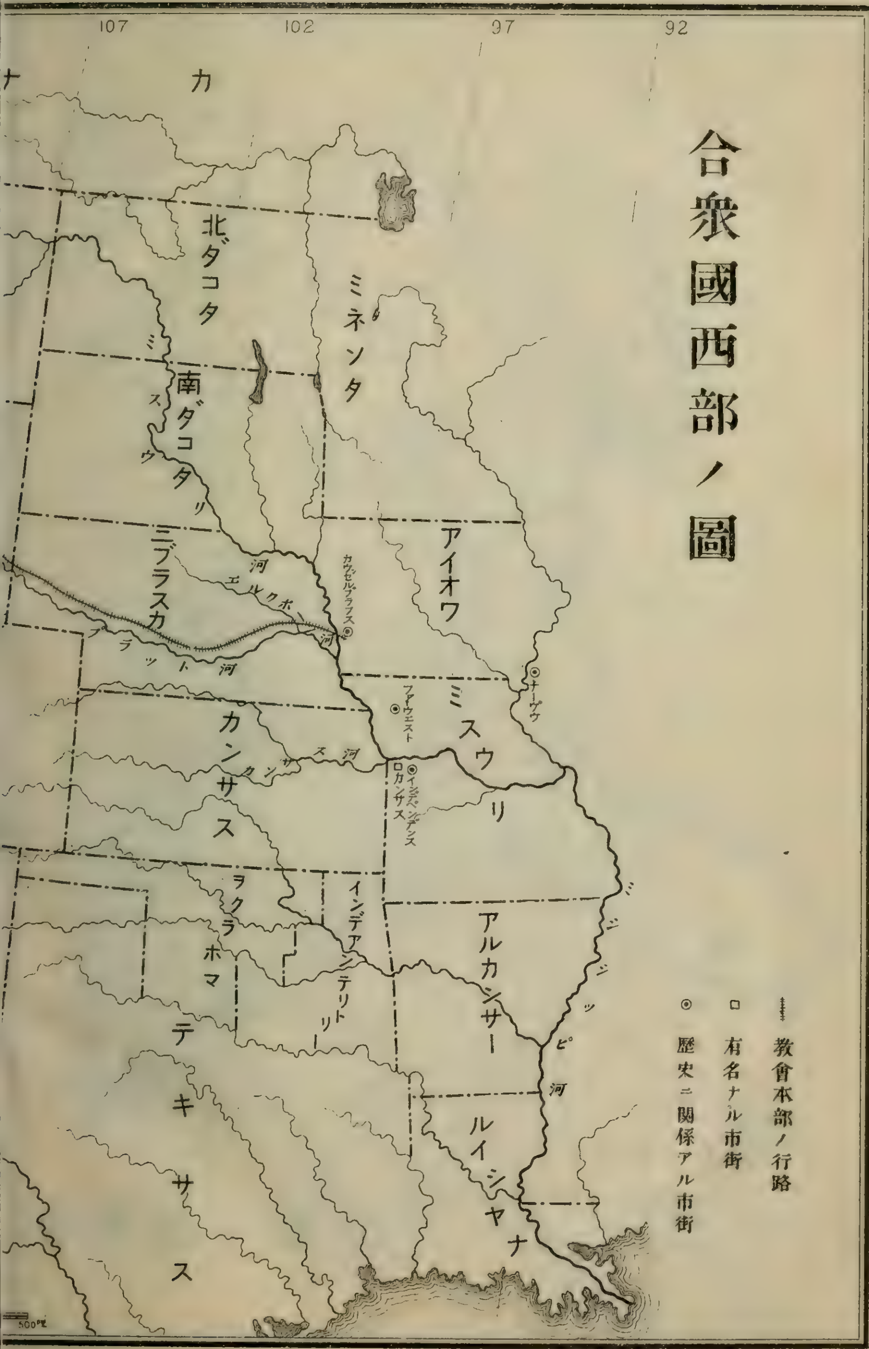

92
87
82
77
72
67
45
40
スピリオル湖
ミシガン湖
ヒューロン湖
イリー湖
オンタリオ湖
ミネソタ
ウイスコンシン
ミシガン
アイオワ
イリ
インヂア
オハイオ
ペンシルヴェニア
ニューヨーク
ヴァーモント
ニューハムプシャー
マサチュセッツ
コネチカット
ニュージャーセー
デラウエア
メイン
西ヴァーヂニア
ミシシッピ河
シカゴ
デトロイト
カロル
合衆



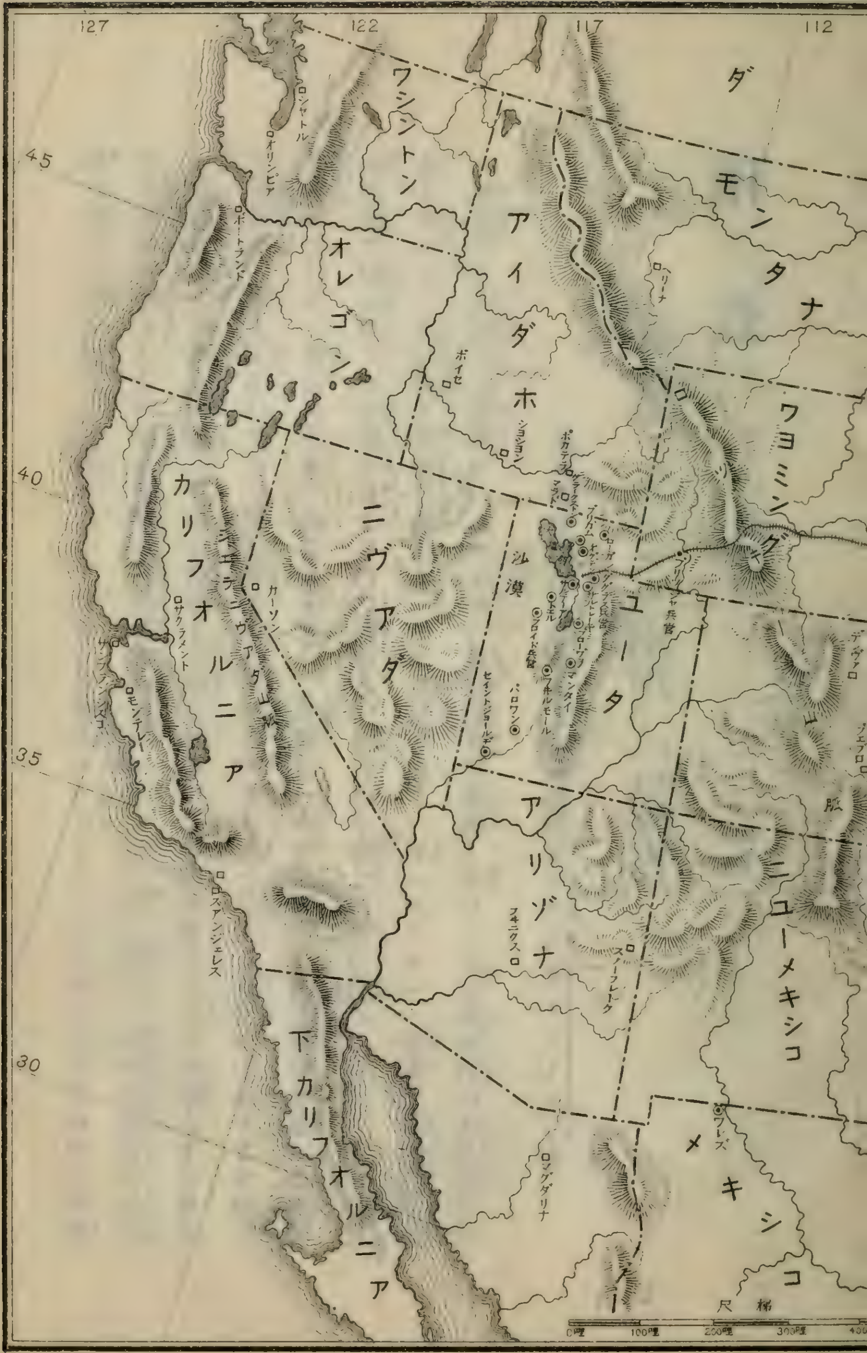
國東部ノ圖
教會本部ノ行路
有名ナル市街
歷史ニ關係アル市街
尺 梯
0哩
100哩
200哩
300哩
400哩
500哩
35
30
25
スウリ
イ
ケ
ン
タ
キ
ア
ハ
ア
北
カ
ロ
ナ
南
カロライナ
テ
ネ
シー
アルカンサー
ミシシッピー
ミシシッピ河
ルイシヤナ
アラバマ
ヂオルヂア
フロリダ







107
102
97
92
合衆國西部ノ圖
北ダコタ
ミネソタ
南ダコタ
ミスウリ河
ニブラスカ
エルクホン河
カウンセルブラフス
プラット河
アイオワ
ナーヴウ
ファーウエスト
ミスウリ
カンサス
カンサス河
インデペンデンス
ロカンサス
ヲクラホマ
インデアンテリトリ
アルカンサー
ミシシッピ河
テキサス
ルイシヤナ
教會本部ノ行路
有名ナル市街
歴史ニ關係アル市街
500哩



127
122
117
112
45
40
35
30
ワシントン
オレゴン
アイダホ
モンタナ
ダ
ワヨミング
ニヴァダ
カリフォルニア
ユータ
アリゾナ
ニューメキシコ
メキシコ
下カリフォルニア
シエラネヴァダ山
沙漠
ロシヤトル
ロオリンピア
ロポートランド
ボイセロ
ロサクラメント
カーソン
ロモンテレー
ロロスアンジェレス
フェニクスロ
スノーフレーク
ロマグダリナ
ワレズ
尺
0哩
100哩
200哩
300哩



附録

第一章「モルモン」教會と一夫多妻

末日聖徒耶穌基督教會日本傳道部長アルマ、オー、テイラー述

世間では大概一夫多妻を「モルモン」教の根本の主義と思ひ、且も其實行の大眼目であると考へて、我宗教と多妻主義とを一つに見誤ります、又「モルモン」教徒は此教理の守方に就て種々誤つた評判を立てられた所から、甚だしく世上に解し違へられて、酷い反對を受けました、斯云ふ次第でありますから、今爰に一夫多妻に就て聊か事實を述べるのが至極肝要な事と思はれます、併し是は決して一夫多妻を教へ弘める目的ではありませぬ、一つには誤つた説を駁破つて僞の證據を未然に禦ぎ、二つには故らに又は譯解らずに事實を言曲げて仰々しく吹聽する輩に將來讀者が欺かれ給ふ憂の無い樣に、只今我教會が此主義の實行に就て如何云ふ姿に成つて居るかを明かに示さうといふ所存に外ならぬので御座

います。

「モルモン」教會の實の名は末日聖徒耶穌基督教會と云ふので、その創立者ジョセフ、スミスの事は此歷史の中に屢見えて居ります、我教會の會員は此方をば神の預言者、尙明白に申せば、神の御心を其民なる聖徒に示す人として仰ぎ敬ふて居りますが、此方は斯る預言者といふ格式で一人の男に一人以上の妻を持つ事に關する神の御意を傳へる啓示を三回受けられました、最初は千八百三十一年、次が千八百四十一年、最後は千八百四十三年で御座います、ジョセフ、スミスは當分此啓示を秘置いて一切の教徒には公にせず、唯だ幾人か頭の人ばかりに複婚主義、即ち一人で何人も妻を持つといふ主義を知らされ、それから此人々がスミス諸共其實行に取掛りました、兎角する內スミスは千八百四十四年終に敎の爲に命を殞され、フリガム、ヤングが其後を承けて教會の大管長と爲られました、然るに當時我教會の境涯と云ひ、鴆加へて教徒がロッキー山へ立退く際に出逢ふた千辛萬苦と云ひ、旁取込んだ事情があつた爲め、聖徒が西の里なるユータに引越して住居を定める迄は、複婚の啓示を公に敎へる譯に參り兼ねましたが、遂に千八百五十二年の八月二十九日にな

つて、北米合衆國ユータ鹽湖市に開けた我教會の大會で教會大管長ブリガム、ヤングの下知の下に此教が始めて公に爲りました、此時より千八百九十年十月まで凡そ三十八年の間一貫して此主義が會員に教へられた次第であります。

爰で複婚とは如何云ふ性質の者であるか、又如何云ふ心底から之を行ふたかを、手短く說かねばなりませぬ、何故なれば人は大抵「モルモン」教の多妻主義も矢張東洋の國々に行はれてある樣々流儀の變つた複婚や蓄妾と違ふた者であるまいと思ふて其間の見分を付けず、果は道德心の高い多くの人までが杜撰にも「モルモン」教徒を輕々しく責罵るからでございます。

世上には此一夫多妻の教に就て大層誤つた說が流行して居りますが、あれは全く事實に反對であつて、以前こそ我教會で一般に之を教へはしたものゝ、會員が一般に之を行ふたのではありませぬ、其仔細は事實を話せば明白になります、先づ第一には、決して理不盡に此主義を行へと逼つた譯で無く、教徒は皆我身の辿り行くべき道筋を銘々に撰ぶ自由を十二分に與へられました、第二に、此教は神の啓示といふ廉もあり、且又之を行ふ誠の目

的と精神は、穢なき眞直な子を育上げて神に仕へ人を益せしめるといふのでありますから、之を行ふに就ては極綿密で嚴重な防が設けてあつて、心様の卑しい男女の爲に折角の目的が破られたり、此流の結婚を道具に使ふて猥がはしい事をさせぬ様、十分用心してありました、そこで若し複婚を取り結びたい會員は、其人柄や行状を請合ふ證明書を差出すのが肝腎で、之には其男又は女が住むウワード部を司る監督の判も要れば、其ウワード部を支配するステーキ部の長の奥書も要り、其上更に教會大管長が之を取調べて聽屆の判を捺かねばなりませぬ、然るに何のウワード部を預る監督も、其ウワード部内の信徒を我家族同然に知り抜き、又教徒の名前と行跡とが日頃一々帳面に書留めてあつて、ステーキ部長なり教會大管長なり隨意に此帳面が扱へます、此邊の合點が行けば、平生身持が宜しく無いとか、人品行状が賤ふて、惡い手本を我子に貽す様な男や女が、我身の不埓を包み匿して教會の儀式通り多妻を娶る許を受けやう抔は到底覺束ないことが會得できます、誰に限らず若し掟通りの結婚式を犯して多妻の縁組をした日には、罪ある者と認められて、教會の律法規則で成敗せられました、序乍ら篤と呑込んで欲いことは、我教會で云ふ成敗と

は罪人の身體に害を加へるとか之を牢に鋼込めるのであると僞つて惡心より我教會を訴へる人がありますが、然云ふ譯の者では無い、唯だ靈魂を懲し罰する迄で、罪の大小に依て、或は位を褫ぐとか、權を奪ふとか、或は教徒たるべき資格を取上げる位に止ります、斯樣な次第であるから、「モルモン」教の男は彼地此地足探廻つて氣に入つた女と見れば何の制限もなく結婚しても譴責を受ける恐はない杯といふのは全く妄説であることが解り、又此主義を行ふに就て此丈嚴い法度と綿密な用心があるとして見れば、是即ち之を行ふたのは必竟我教徒が神の御意と信じた所を遵奉した迄で、加之彼等は最も貞潔を重じて之を守つたといふ屈強な證據でございまして、考の深い讀者の目に着く事でありませう、若し此主義の實行が只だ淺猿い色慾から起つた丈のことなれば、箇樣な窮屈な法度を設けるのは誠に由無い事でありませぬか。

此主義の誠の精神を以て一人以上妻を娶りたい男に許可が下れますと、大層重い責任が一つ其肩に掛りました、それは實に重い責任て、不義の念ある者が之に向ては忽ち勢を挫がれ、「モルモン」教の繩張内で到底淺ましい獸慾の遂げ難いことを觀念して遁失せてし

まひます、例へば表には一人の妻を上座に据ゑて何某の奥樣と世間へ看板を出し乍ら、蔭には此處彼處と妻ならぬ妻を忍ばせて之に汚名と耻辱を負はせる抔は、全く此主義を行ふ精神に遠ざかつて居ります、縱令何と言て人から贊を打たれても、「モルモン」敎會以外の一夫一婦主義に常々見受けられる罪、即ち一人の妻を正面に飾つて内證で情婦や妾に戯れる罪は、決して「モルモン」敎の多妻主義に負はせ得べきものでありませぬ、「モルモン」流の一夫多妻主義では、妻が幾人有つても、均く皆神聖な結婚式で妹脊の契を結んだ誠の妻であるから、誰一人天下晴れて尊重する妻たるべき權利と許と自由とを享けぬ者はありませなんだ、又女は逼られたからとて決して多妻の仲間入をせねばならぬ譯で無く、男より申込まれた結婚を何時でも隨意に斷られる自由が有りました、其父にしても同樣で、男女が雙方愛し合つた上夫婦に成つてこそ始めて樂しく暮せもし、幾千代盡せぬ契が結べるのであるから、親の威光を笠に着て、娘の氣に適はぬ男に強て結婚させるなどは、思ひも付きませなんだ、加之、複婚を思ひ立つた夫は必ず兼てより連添ふ妻の意中を斟酌するので、一々之に相談を掛けて許を求めますが、妻は大抵故障を申立てず潔く之を承諾致しました、

以上述べた節々は宜く記臆しおくべき事で、「モルモン」教の女は本の動物同然に遇らはれ、男が肉慾に狂ふまに〳〵其玩具に成る斗りの權利と務しか無いなどいふ有觸れた噂の誤を辨ずるに極大切な事でございます、事實を調べて見ると、凡そ世界廣しと雖も「モルモン」教徒くらゐ女性を鄭重に扱ふ社會はありませぬ、其證據に我教會では、女は光榮を受け尊位に登る資格を持ち、來世では夫と座を並べて女王と敬はれ、權力と永遠の祝福とを享けると教へます、恐く今日我々の靈魂を生せ給ふた永遠無窮なる父のみか其永遠無窮なる母も亦天に坐ますといふ教を眞面目に唱へる教會は、「モルモン」教を措て外にはありませぬ、我教會の或る女の歌仙は次の歌を詠みました。

我が天父

イライザ、アール、スノー作

一　高くさかゆるところにて　　またも御まへにかへり行き、
　　すまひましますわが父。　　御かほをがむはいつぞや。

きよきいましの住ひには、
　かつてわが靈ありきや。
われのはじめて成りし時、
　みそば近くやそだてる。

二　いともかしこき御旨もて、
　われをこの世につかはし、
もとの生まれと友とをば
　思ひ出だすをとゞめぬ。
されど、『旅人なるぞや』と
　耳にさゝやくものあり、
かくてわが身は更によき
　世より出でしをさとりぬ。

三　御靈によりて、いましをば
　父と呼ぶことさとりぬ。
されど、智の鍵與へられ、
　その理はじめて知りたり。
あまつ御親をひとりとは、
　理にもそむけるこゝろぞ。
まこと即ち理によれば、
　母もかしこにありと云ふ。

四　いのちはかなき世を離れ、
　靈はわが身を去る時、
父よ、また母、天門にて、
　ともにあはしめたまふや。
さらば、仰せの御わざをば
　すべて成し就げてしのち、

（末日聖徒讃美歌第四十三）

いましふたりのめぐみ得て、
ともに住ましめたまへよ。

偖又多くの妻に生た子はと云へば、矢張殘らず同じ格式を持つて、教會規則に據れば、均しく皆親の跡目相續を要める權が有りました、それで其母が父の最初の妻であれ、二番三番のであれ、皆充分行屆いた躾と教と譽を受けるので、母の身分や位地に從つて情に厚薄の隔てなく、十人が十人乍ら依怙の沙汰なく傅かれて、父よりは平等に可愛がられ、平等に教訓せられ、平等に恤かれました、爰に父の情が公平であつた驗として話したい事があります、尊い父が幾重の憂き艱難を忍び財産生命を賭けて、衣食萬端教育まで授けた子息や娘の内には、今日合衆國の國會議員もあれば知事や裁判官もあり、名に負ふ法律家も居れば技前の聞えた醫者も居り、或は最も高尚な教育社會に働を認められた教育家も出づれば、非凡の技術を著して其名絶えず芳ばしき美術家や音樂家も現れました、其外又ロツキー山脈に沿ふて南は墨西哥より北は加奈太に至る遥々幾百里を貫いて各處に農業を以て卓越てたる者も出來、荒野を開き市町を起し繁華な共和團體を設けて其名があまねく聞えて

居ります、次に掲げるのは耶蘇基督が山で御說きなされた名高い御言葉で、正しく玆に當はめられませう。

『その果に由て知べし誰か荊棘より葡萄をとり蒺藜より無花果を採ことをせん、凡て善樹は善果を結び惡樹は惡果を結べり、善樹は惡果を結ばず惡樹は善果を結ぶこと能ざる也、＊＊＊是故に其果に由て之を知べし、』（馬太傳第七章十六、十七、二十節）

多妻主義を行ふた「モルモン」敎徒が何程愛情に强く、何程公平を貴び、何程親心に深く、何程正直で眞實で有德であつたかは、正に右の御言葉の如く、其家族の果たる子が證據に成ります、元來彼等の子は些かの穢もなく淸らかに生まれて居りますから、體格に就て言へば大方屈强健全で、骨組逞ましく容貌美はしく、智力と才幹より言へば敢て人に讓る所なく、德義の高きことは人の鑑と爲るべく、節操の堅きに至りては（神は頓て此言葉の誤なきことを證し給ひます）「モルモン」敎會以外、何處如何なる人の子も、同じ數では到底敵でありませぬ、讀者よ、「モルモン」敎の多妻主義を行ふた父母の唇から何樣な言葉が漏れましたか、『余が子息共も娘達も努力々々忘るまいぞや、假令全世界の寶を積上げても、

貞節はそれよりも貴いぞよ、帝王の位も御稜威も君權も三千世界の稱辭も、德に比べては取るに足らぬ者ぞよ、切羽詰つた其時は、命を的にかけても節操を防ぎ護るが道ぞよ、扨〱、節操を離れては美はしい事、偉大なること、偖は名譽も無いぞよと』、實に「モルモン」敎の多妻家族には善い果が生りましたから、之を結んだ者は必ず善い樹であるといふ證據と、末日聖徒の間には禮の宜しさを失はず、社會道德の大本を破らず、神聖淸淨な節操をも瀆さずして、複婚の敎が說けもし行はれもしたといふ證據と、神に仕へ人を益する爲に穢なき眞直な子を育上げ、複婚實行の目的が見事に遂げたといふ證據を萬劫末代に殘します。

然れば多妻家族の父たる者が肩に擔ふ責任は極て重く極て六かしいもので、一角道德の高い多くの人さへ躊躇して多勢の妻子の世話に係はり兼ねたのは、是に於てか十分明かでございます、して見れば此敎が敎徒一般に弘つてあり乍ら夫が廣く行はれなんだ仔細は外でありませぬ、第一、無理に之を敎徒に勸め行はせなんだこと、第二に、道德の高い人柄の良い男女に限つて行へる樣に細かい豫防がしてあつたこと、第三には、其實行に伴つて來

る重い六かしい義務と責任は多くの人には迚も堪切れぬからでございました、我敎會で多妻を持つて暮した男は、何時の頃にも、百人に就て三四人を超えた例がありませなんだ、此事實を見ても、「モルモン」敎とは多妻主義のことであるの、一夫多妻は「モルモン」敎の根本の主義で其實行の大眼目であるの、と思ふのは、甚だ誤つて居ることが知れます。

斯樣に歷々たる事實があるに拘はらず、多妻主義を行ふた摸樣を恐しい話に仕組んで我敎徒に係つた毒々しい虛言を廣めるのは、「モルモン」敎徒を憎む輩に出來易い事でありました、何故夫が出來易いかといふと、世上の人は「モルモン」敎の一夫多妻が實際如何な者かも解らぬながら、利分もない謔話を聞出す時は更に之を拗曲げて次の人に受賣し、夫から夫へ口々に觸廻つて遂に世界中に傳るからで、夫が爲め今に至つても相替らず我「モルモン」敎は、所有不道德を敎徒に許す異端邪敎にも劣つて居るなどゝ、言語同斷な咎を受けました、偖も人は輕々しい判斷が好きな者でございます。

斯る虛言は着々效能を顯して、之を目論見だした輩の思ふ壺に中りました、やがて「モルモン」敎徒を虐げ窘める運動が起りまして、多妻主義ばかりか我敎會をも疾む者共が劇

しく讒訴を致した所から、合衆國の國會が之に動かされて、我教徒の多妻主義實行を撲滅する目的の法律を可決しました、然るに法律其者が早や殘酷極つた處へ、之を行ふ中央政府の行政官が大方「モルモン」教の敵と名乘る先生達でありましたから何條溜りませう、法廷に訴へて公平な裁判を請求する度に理由が無いと云ふて受付けられず、我教徒は却て實に亂暴狼藉無慈悲な遣方で散々に苦められ窘められ逐捲られ侮り辱められ罰せられ、流石に法律を編んだ人さへ恥入つたのも然もあるべき筈で御座います。(本文第五編第二章を見よ)。

斯樣な迫害の果は、多妻主義を行ふた心の奧底の善惡を試すといふ非常な吟味と成り、又夫婦の間や親子の間に纒はる愛情の深淺を證據立てました、それで多妻主義を行つて居る家族の戸主が一千人以上も捕へられて法廷で調を受け、詰り有罪と極つて罰を言渡されましたが、大抵皆重い罰金のみか禁錮までも言渡され、罪の輕重に應じて六ヶ月以上四ヶ年、中には四年より長いのもありました、されば夫たる者父たる者が澤山逐立てられて身を隱すもあれば、散〲に碎けた家庭も澤山出來、選擧權を奪はれた者も幾千もありまし

た、マア一寸この有樣を考へて御覽なさい、一千人は牢屋に呻き、幾千人は選擧權を褫がれ、幾千人は我家と職業を離れて立退き、跡に殘りし妻や子は賴る緣も無く難澁を極めて血に泣いたのでございます、それと云ふも畢竟ずる男たる者が一旦愛しよう回護はふといふた約束を重じて妻子を愛したからの事、罰金や禁錮に處すべしと脅かされても、自由國の民が受くべき權利を褫去らんと威されても、言語に絕する呵責を以て逼られても、飽まで護り庇ふべしと決心した弱き者を愛したからの事であります、然らば何故に澤山な妻と之に生んだ子を棄去り、國法を守ることを約束して以て艱難と恥辱を避けなんだかと云ふに、多妻を持つ「モルモン」敎徒は何れも尊むべき人のみで、決して情婦や妾に狂ふたり私生兒を儲ける樣な浮氣男で無かつたからです、數ある妻は殘らず最愛の妻で、數ある子は皆穢なく生んだ者、天より授つた重寶な賜でございます、篤と耳を御留め下さい、一時「モルモン」敎會の使徒であつたエブラム、エチ、カノンが多妻を持つ者と認められて拘引せられ裁判を受けた時に裁判官と陪審官に向て言はれた内に斯云ふ事があります、『余が此宗敎に入りし時、苟も余が持つ物は生命と雖も之を神前に獻ぜんと約せり、余は固く此誓を守

らんと期す、望むらくは生命若くは自由を得んが爲にもせよ道義を捨てざる可からざる日の來らざらんことを、余の爲には此浮世に忠實より尊き者なく、余の守る宗敎は曾て見たる一切の物より貴重なり』と、又ロレンゾ、スノーが未だ我敎會大管長と成られぬ頃、法廷に於て吟味が終つた時、法官に向て箇樣に申されました『余が多妻を娶りたるは神の命令有ればなり、夫婦を結合して其縁を現世の終までのみか永世無窮に續けしむる結婚式を執行せし者は權力ある神の一僕なり、(本文第四編第八章を見よ)故に、余は神聖なる義務に背いて妻を捨てんよりは寧ろ神の力を借りて萬死を撰ばん』と、若し妻子に對する熱愛信實を表すべき似寄の言葉が一夫一婦主義を守る人の口から漏れよう者ならば、それこそ結婚の誓を重じ一身一家の德を尙ぶ徵であるなどゝ持映されて名を竹帛に傳へられませう、然すれば多妻を持つ「モルモン」敎徒から爭で同樣の褒れを奪去るべき筈がありませうか。

此酷い艱難を嘗めつゝある際、件の人々の態度は實に珍らしい見場を顯したと人々が言傳へます、それは實に珍らしい見場、否、珍らしい事實でございまして、「モルモン」敎の

多妻主義は思ふ存分に不道な色慾に耽りたさが本の起りで其目的で行ふたのであるといふ非難の誤を千歳の後まで說破り、兼て又我多妻主義は高尙な尊とい淸らかな眞心を以て實行せられ、動かせない信仰と珍らしい膽力と類なき勇氣を以て之を守つたといふ爭ふべからざる歷史上の證據になります。

合衆國の憲法の中に『國會ハ宗敎ノ建設ニ關スル法律又ハ宗敎ノ自由信奉ヲ禁ズル法律ヲ作ラザルベシ』と云ふ句が有ります、然るに「モルモン」敎徒は複婚の敎を其宗敎の一部分と心得て居りましたから、國會が之を潰す爲に立てた法律は憲法の趣意に戾つて居ると主張しました、けれども合衆國の大審院では憲法に適つて居ると裁判を致しましたから、我敎會は六かしい立場に陷りました、何故なれば、此書物の掛りに見えた信仰箇條を讀んだ方は定めて其第十二條に『我等は帝王、大統領、治者及び有司に服從し且國法を遵奉し尊敬し支持するの正當なるを信ず』とあるのを御記憶でせう、是で見ると國法に從ふのは神が其敎會の會員へ下された命令でございます、所で多妻實行禁制法が出る迄は譯も無く此命令に遵へますけれども、右の法律が愈憲法の精神に適ふてあると極つて見ると、多

妻主義を行ひつゝ國法にも合して行くのは所詮行へた藝ではありませぬ、サア此處が誠に困つた瀬戸際で、我聖徒等はたえず酷い目に逢はされました。

遂に當時の我教會大管長ウヰルフォルド、ウッドラフへ神の御意が示されました、神は其民の苦を看行はせられ、其堅い信仰を試みさせられ、その身命をも惜まず犧牲を捧げることを御知りなさいましたから、預言者の口を御借なされて、一先複婚を中止すべき由と、此中止は神の掟と抵觸るが其責任は國法を立てた人の肩に落つる由を御意遊ばしました、宗教の歴史に親しい人の善く知つて居る通り、神は一度差許された事、命令なされた事でも、後々に至り不都合と見認めて御差止めなさる例は幾らもありますが、是は一旦御出しなされた法令の誤を後日御氣付きなさつて御訂正に成るといふ次第ではありませぬ、却つて神の命令は全智の御判斷で之を當時の狀態に適すると目利せらるゝ間は有効であるが、御意の儘に時宜を見料つて取替へもし、改めもし、或は御取消しに成のであると云ふ證據を立てます、教會大管長ウッドラフへ複婚中止の御沙汰が出たのも詰り此筆法で、前廉ジョセフ、スミスへ下された複婚手始の御沙汰は不用に成つたのでございます、是に於て教會大

管長ウッドラフは宣言書を出して、將來複婚主義を說くことを見合すべき旨と、總ての敎徒には今後新たに複婚を取結ぶことを禁ずる旨を達しました、此宣言書は千八百九十年十月六日に合衆國ユータの鹽湖市に開けた我敎會大會に持出されて贊成を得ましたから、早速敎會規則の中に編込まれて、複婚は其時限り廢止になり、それより此還我敎會は一切多妻を娶ことを許しませぬ、それで千八百九十年十月六日より後は敎會の役人でも會員でも、一人の妻が生きて居つて未だ離緣せぬ內、今一人妻を娶る時は、啻に合衆國の法律を破る丈では無い、同時に敎會の規則をも犯すことに成つてあります、縱又一夫多妻を禁ずる國法が無い國に居つても、苟くも我敎會員である者には斷然多妻を持つことを許しませぬ、と云ふのは、其國法が何樣自由を人民に許してあつても、我敎會の規則は世界中到る處の信徒に遍く行渡るもので、一切の信徒に此上複婚を嚴禁するからでございます。

此問題に就て、もう一つ考ふべき大切な點があります、即ち敎會大管長ウッドラフが宣言書を發した節、早や多妻主義を行ふて居つた家族は、如何處分した乎でございますが、この人々は從前の儘多妻と共に暮すことを許されました、彼等は神の命令があつたればこ

そ多妻を娶つた者、妻子のため肉體に靈魂に言ふに言へぬ程の痛を受けた者、妻子の爲には甘じて縄目の恥と牢屋の苦を嘗めた者、千度身を切裂れても妻を捨てじ子を逐はじと誓ふた者、斯ばかりの鐵石心が如何ほど勸められても逼られても爭で心を飜へして神聖な誓約と義務を破りませう、否々、神は之を破らせんと思召さぬは勿論、新法律さへ之を破れとは需めず、自由を愛し德義を尙ぶ君子にして我多妻主義の實地を辨へた人も亦之を破らせたいと考へませなんだ、慥かに人間の正義公道が斯る非道な料簡を咎めたのでございます、唯だ天主が告げさせられた所、國法が要めた所、世の人が望んだ所は、新規の複婚を禁ずる點でございました、そこで其禁制を設けて敎會全體殘る隈なく勵行しましたけれども、禁制が出る以前から多妻を持つて居つた人は、是迄通り夫婦の契と親子の緣とを續け、其妻々は之を愛し、之を慈み、其子供は之を養ひ育て、之を敎へ、其福利を祈つて遣しました。

新規に多妻を娶ることを禁ずる敎會規則が出來た當時、我敎會全體の會員は凡そ三十萬人で、其內多妻主義を行ふて居つた家族は合せて二千四百五十一人でありました、所が此

家族の主人は其頃概ね老人であつて、今では大方無き數に入り、只今殘る者は四十萬近い教徒の中、四百七十五人に過ませぬ。

之に關係して是非注意を催すべき事がユータ州の法律の中に在ります、ユータは「モルモン」教會の根據地の在る州でございますが、始の間は聯邦の一つでは無く唯だ合衆國の領土なるもので、中央政府の行政官に支配せられて居りました所、千八百九十六年一月に始めて一つの州と成つて聯邦の仲間入を許されました、合衆國で新たに州を建てようとすると、州憲法を設けるのが一番肝要でありますが、是は合衆國々會の批准が受けられ、且又一言一句合衆國の憲法と和合する樣に出來て居らねばなりませぬ、然るに其頃中央政府の派利にはユータの有樣が本當に解つて無い先生が澤山あつて、「モルモン」教會で果して複婚が止んで居るか如何かと危み、特に又「モルモン」教會に慊らざる輩が兎角の惡評を言觸した者ですから、縱んば今は多妻主義實行が禁ぜられて居つても、之を防ぐべき確乎とした法律が無い以上は、早晩又始るも知れぬと氣遣ひました、そこで此先生達は複婚と不法同棲とを罰することを確かに規定した州憲法を作らせようと主張しました、不法同棲

とは多妻と共に住むことを普通指して云ふ言葉です、夫故ユータ州の憲法は例の不法同棲を抑へる法律の支度は致しましたけれども、千八百九十年教會大管長ウッドラフの宣言が出る以前からすでに多妻を行つて居つた家族には其法律を施行せぬといふことを十分立法者仲間で打合して置きました、何故施行せぬかと云ふ次第は、曩に述た所で明に解ります。

然るに近年より我教徒を復虐めようと謀叛を起した「モルモン」食鬼が少々ございまして、「モルモン」食鬼とは我身に貞節も徳義も操持も正義も慈悲も無い連中が、政治上の野心が外れたとか、宗教上の希望が叶はぬとか、貪欲な目的を達せなんだ所から、其不人情な心に溢れる怒を漏すため「モルモン」教を攻める男女を指しますが、今に尚殘つて居る多妻家族に子が生まれたことを聞込んで、不法同棲の禁制法を幸に、其父を訴へた爲め、槍玉に上つて罰金を言付つた教徒が出來、是て「モルモン」食鬼の胸は幾分か霽れました、こんな風に、素から多妻を實行して來た家族の内裏を擾亂さうなんかは抑も沙汰の限りで、彼等は之がため却て徒らに自己の身を辱しめました、實にユータ州の内外と「モルモン」教の内外とを問はず、凡そ寛仁大度な人の宜く誡むる所でございます、偖此しきの事は未だ

左のみ頓着しませぬが、斯云ふ事に付て新聞紙に評説を載せられるのが痛い迷惑になります、事實を知つて居る人がよく言ふ通り、「モルモン」教は新聞紙雜誌等の上で眞面に書かれた例が少ないので、此教會に關係した事を書載る段になると新聞記者は兎角寛容の心が薄く、確かな調をもせず、事實を大行に吹立てたり筆を曲げるのが通例でありますから、信ずべき記事が一つあれば强附の記事が少く見積つて五十もあります、ホンに『風說は多くの舌を有す、然れども其舌は多くは僞はる』と云ふシエイクスピーアーの句は名言でございます、凡そ不法同棲の訴が起りますと、未だ遠くまで聞えぬ先に其噂は早や曲つて聞違つた話になるのが通例で、ヤレ現今多妻主義は「モルモン」教會に蔓つて丁度三十年の昔の樣に盛に行はれて居るの、ソレ新らしい復婚が毎日繁々と取組まれて居るのと騷ぎ立てます、此通り世間の人々は再び毒氣に中てられて「モルモン」教徒を憎しみ、我教徒は實情を知られて居らぬ悲しさに、矢庭に罵り反對せられるのでございますが眞に駟も舌に及ばずと云ふて、一度擴つた虛言は打消し惡いもので僞ハ毒は容易に解けませぬ、併し止の詰りには眞實が勝利を得て、「モルモン」教の濡衣が雪がれませう。

今や此話を結ぶに臨んで、我教會の現在の大管長ジョセフ、エフ、スミスが出された宣言書を示します、之は千九百零四年四月六日合衆國ユータ州の鹽湖市に開けた大會に列席した教會役人及び會員が可決した者で、その決議案も一緒に示します。

宣言書

千八百九十年九月二十六日教會大管長ウッドラフは國法に悖戻する結婚を一切禁止する宣言書即ち通稱諭告なる者を定め、次て千八百九十年十月六日の教會大會に於て教會大管長ウッドラフ之を發表し、教會の採用する所と爲れり、然るに此宣言に違反して複婚の風復起りたりといふ許多の流說方に世に傳播す、故に余ジョセフ、エフ、スミスは末日聖徒耶穌基督教會大管長の資格を以て此宣言書を發し、次の如く斷言す。

此種類の結婚式は一も末日聖徒耶穌基督教會の允許と承諾と認識を以て擧行せられたること無し。

併せて又次の如く告示す。

此種類の結婚は悉皆禁止せらる、若し教會の役人若くは信徒にして恣に此の如き結婚

式を執行し又は多妻を娶る者あらば、教會に對する犯罪者と判定せられ、教會の規則律法に照して其罪を論じ、教會より破門すべし。

末日聖徒耶蘇基督教會大管長
ジョセフ、エフ、スミス

決議案

此大會に列席したる末日聖徒耶蘇基督教會の會員なる吾等は、複婚に關して教會大管長ジョセフ、エフ、スミスが今此會衆に發したる告示宣言を賛成可決すること並に其實行に當つて教會裁決院に輔助を與ふることを決議す。

右の案は十二使徒會長フランセス、エム、ライマンに出て提出せられ大會の同意を得て可決した者であります。

余々は重ねて爰に強く斷言します、日本に在る末日聖徒耶蘇基督教會の宣教師も役人も會員も多妻主義を行ふことを許されず、又帝國並に其屬地に住む人民に此主義を教ふる權能



使徒 ヒベル、ジエ、グラント



長老 ルーイス、エー、ケルチ



長老 ホラス、エス、エンサイン



長老 アルマ、オー、テイラー

日本傳道部を開始したる宣教師

をも與へられずと、更に一歩を進めて斷言します、「モルモン」教會が今も尚ほ世界の何處かで信徒に複婚の實行を敎へ勸め又は許して居るとて我宗敎の反對者が筆にし口にする所は盡く皆僞であると。

紀元千九百零七年三月二十日日本東京に於て之を記す

ジョン、ダブルユ、ストケル述

第二章　日本傳道

本文に記載してある如く（本文二六三頁を見よ）一千九百一年七月廿四日使徒ヒベル、ジエ、グラントと長老等ルーイス、エー、ケルチとホラス、エス、エンサインとアルマ、オー、テイラーとは日本に於て傳道部を開かん爲め鹽湖市を出立して同年（明治卅四年）八月十二日橫濱に到着しました、着するや直ちに日本の新聞並に英語で發行する新聞は此の宣敎師の代表する敎會を非常に攻擊し、之に關して數多の事實無根のことを出しました、之は暫く續きましたが、此の四人の宣敎師は英文で出ました虛說や讒謗を說破して敎會を能く辯

護したのであります、或る新聞は此の宣教師に布教することを許さずに彼等を日本國外へ放逐することを唱道しました、併し其の事の無益であつたのは言ふに及びません。

同一千九百一年九月一日(日曜日)午前に此の四人の長老は横濱の南方にある一つの靜なる森へ徐々と行きて、其の中で眞に風景の美しき所を見當れば、全智全能なる神に讚美歌を歌ひ、祈を獻げました、其から使徒ヒベル、ジエ、グラントは日本傳道部の開始に先立つて日本國を以て福音を弘めるに適當なる地と爲給ふこと、又日本人に福音を受け入れる用意すべきやう神が惠みを與へ給ふことを祈禱致しました、聖靈は其の集にあつて長老等は其に深く感じました、而して神が此の祈禱を聽き又此に願ふた恩惠を授け給ふべしと感じて銘々の心は言に言はれぬ喜悅と滿足とに充たされました。

同年十月二十日此の長老は皆横濱を出て東京に移り熱心に日本語の勉强に着手したのであります。

日本で改心した最初の日本人は一千九百二年三月八日大森海岸で浸禮を受け、東京で敎會の會員たることを堅くせられました、使徒グラントは此の二つの儀式を執行しました。

同月十一日傳道部長グラントは敎會本部に於ける例年の大會に出席し、又日本に於て布敎する爲に宣敎師を選ばんとて横濱を出發して歸國しましたが、同年七月十七日己の妻アガスタ、ダブルユと娘メーリと長老エンサインの妻とジヨセフ、エフ、フエザストン夫婦と長老等イー、エル、ジヤヴイスとジヨン、ダブルユ、ストケルとサンドフオルド、ダブルユ、ヘッジスとフレデリック、エー、ケインとを連れて日本に着しました、傳道部長グラントと其の家族とエンサイン夫婦とフエザストン夫婦は東京市四谷區霞ケ岡町十六番地の家を借りて己等の住居と定めましたが、他の長老等は暫く日本の旅館に泊つて其から直に友達の家に移り日本人と同居し、日本語の勉强を繼續しました。

一千九百三年四月十八日神田の錦輝館内にて說敎會を開催致しました、該說敎會は博く廣告したので多くの人々が出席して當館は充滿したのであります、此の說敎會は末日聖徒耶穌基督敎會の日本傳道事業の着手を告ぐる最初の大說敎會でありました、其の後四月二十二日と二十三日に六人の長老は東京に於ける傳道部を去つて方々へ行き、人々にキリストの貴き福音を敎へ始めました、福音の擴張を助ける爲め使徒グラントは一つの小冊子

を著しましたが、長老アルマ、オー、テイラーが一人の日本人の友人の補助を得て之を翻譯した後五月十四日五千部程發行しました。

一千九百三年八月二十三日教會管長會よりの海底電報により、傳道部長なる使徒ヒベル、ジエ、グラントは日本に於ける職務を罷めて歸國するを許され、又長老ホラス、エス、エンサインは傳道部長に任ぜられました、使徒グラントは九月十一日家族を連れて出帆しました。

同年十一月廿九日東京で日曜學校を組織しました、其の時以來他所にも日曜學校を組織したのですが現今日本傳道部には四つの盛大なる日躍學校がございます。

一千九百四年一月十一日東京で開催された長老の大會で傳道部長エンサインはモルモン經を日本語に翻譯すべき時が到來したと告げて、一切の長老が福音を宣傳する暇に該經典の翻譯に從事するとを命じました、從つて長老は皆此の仕事に着手しましたが、同年七月十六日東京で催されたる長老の大會で銘々其の働を報知したので若し一人の長老を特別に此の翻譯をする爲に任じたならば此の働は尙一層早く且能く出來上ると云ふことが明になり

ました、故に長老アルマ、オー、テイラーは此の働が成就するまで之に專身を入れて働く樣に任ぜられました、該經典の翻譯は近い將來に出來上つて發行せられんと豫期して居るのであります。

一千九百五年六月一日六十六篇を含む譜附の讃美歌集、同七月四日其の歌句のみを含む讃美歌書を發行しました、長老フレデリック、エー、ケインは日本の詩人の補助を得て此等數篇を翻譯しました、而して傳道部長ホラス、エス、エンサインは其の歌曲を作りましたのであります。

一千九百五年(明治三十八年)六月二十七日敎會の管長會よりの海底電報により傳道部長ホラス、エス、エンサインは此の職務を罷めて歸國することを許され、又長老アルマ、オー、テイラーは傳道部長の役に任ぜられました、長老エンサインと其の妻は七月八日に出帆して亞米利加へ歸りました。

長老等は小冊子を九冊日本語にて發行したのですが、現今其の中八冊のみを用ゐて居ります、此の小冊子には神の在存、神は如何なる者なるかと云ふこと、人は神と如何なる關係

を有するかと云ふこと、神の子イエス、キリストの略傳及び使命、福音の四つの原則と重なる儀式、祈禱及び其の必要、末日に於ける此の教會の創立、日本傳道部を開始した目的、並に此の教會と他の基督教會との異なれる點などを多少說明してあります。

宣教師は東京府及び千葉、長野、新潟の諸縣に布教したのですが、現今東京と札幌と仙臺と甲府とに於て福音を弘めて居ります、本傳道部を開始して以來日本へ來て宣道した宣教師の全數は二十一人ですが、兄今十一人のみ日本に居ります。

我が日本傳道部は未だ年が淺いのですが、神の恩惠を多く受ける事によつて愈よ榮え、且日本國民の誠實なる人々に神の僕即ち末日聖徒耶穌基督教會の宣教師の教へる福音を信じ且忠實に此を守ることを熱望して居るので御座います。

明治四十年八月三十日印刷
明治四十年九月三日發行

代價
上製金五十五錢　郵税十錢
並製金四十錢　郵税六錢

原作　エドワード、エチ、アンデルソン
譯　ジヨン、ダブルユ、ストケル
東京市四ッ谷區霞ヶ岡町十六番地
發行者　末日聖徒耶穌基督教會
發行所　日本傳道部
右代表者　アルマ、オー、テイラー
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場

Dy